

2026年5月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

- 5月15日に宮城県沖でマグニチュード (M) 6.4の地震が発生し、宮城県で最大震度5弱を観測したほか、宮城県北部で長周期地震動階級3を観測した。
- 5月20日に沖縄本島近海で M5.9の地震が発生した。この地震により鹿児島県で最大震度5強を観測し、負傷者が出るなど被害を生じた。

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

- 5月5日に三陸沖の深さ約15 kmで M5.4の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型であった。

この地震の震央付近では、4月20日の三陸沖 (M7.7) の地震活動が見られ、M7.7の地震の活動域の南東側では、2025年11月9日の三陸沖 (M6.9) の地震活動が見られる。これらの地震活動の北側では、2025年12月8日の青森県東方沖 (M7.5) の地震活動が見られる。

一連の地震活動域の周辺では、2025年11月4日の三陸沖の地震 (M5.3) が発生して以降、微動活動が断続的に継続していた。M7.7の地震以降も、M7.7の地震の震央の東側で微動活動が活発に継続している。

GNS S観測によると、M7.7の地震の後、およそ1か月間で、岩手県の田老A観測点が東方向に約4 cm変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、M7.7の地震の活動域の西側で継続していると考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していると考えられる。

一連の地震活動は、「1968年十勝沖地震」(M7.9)の震源域の南端付近で発生し、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6)の震源域の南側に隣接する領域で発生している。なお、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の震源域と2025年12月8日の青森県東方沖 (M7.5)の地震活動域は、「1968年十勝沖地震」の震源域内のそれぞれ中部と北部に位置する。

- 5月14日に岩手県内陸北部の深さ約10 kmで M4.8の地震が発生した。この地震の発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。
- 5月15日に宮城県沖の深さ約45 kmで M6.4の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

GNS S観測によると、この地震に伴い岩手県の大船渡観測点で東南東方向に約2 cmの地殻変動が観測された。また、この地震の後、およそ2週間で、岩

手県の釜石観測点で東方向に約 1 cm の水平変動が観測されている。

(3) 関東・中部地方

- 5月15日に硫黄島近海で M5.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。

(4) 近畿・中国・四国地方

- 5月2日に和歌山県南部（※1）の深さ約 65 km で M5.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は北東－南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。

(5) 九州・沖縄地方

- 5月20日に沖縄本島近海の深さ約 50 km で M5.9 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
G N S S 観測によると、この地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。

(6) 南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

補足（6月1日以降の地震活動）

- 6月8日にフィリピン諸島、ミンダナオでモーメントマグニチュード (Mw) 7.7 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震により、父島二見（ふたみ）で 0.2 m（速報値）など、三重県から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び父島で津波を観測した。

※1：気象庁が情報発表に用いた震央地名は「奈良県」である。

注：G N S S とは、G P S をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年5月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年6月9日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2026年5月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ100回（4月は132回）及び13回（4月は25回）であった。また、M6.0以上の地震の発生は1回（4月は2回）であった。

- （参考） M4.0以上の月回数 81回（69-104回）
（1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M5.0以上の月回数 10回（7-14回）
（1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0以上の月回数 1回（0-2回）
（1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）
M6.0以上の年回数 16回（12-21回）
（1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲）

2025年5月以降2026年4月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

—	トカラ列島近海	2025年6月30日	M5.3
—	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.1
—	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.6
—	トカラ列島近海	2025年7月3日	M5.5（深さ約10 km）
—	トカラ列島近海	2025年7月5日	M5.4
—	トカラ列島近海	2025年7月6日	M4.9
—	トカラ列島近海	2025年7月6日	M5.5
—	トカラ列島近海	2025年7月7日	M5.1
—	ロシア、カムチャツカ半島東方沖	2025年7月30日	M8.8
—	トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
—	根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8（深さ約40 km）
—	三陸沖	2025年11月9日	M6.9（深さ約15 km）
—	熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8（深さ約10 km）
—	青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5（深さ約55 km）
—	島根県東部	2026年1月6日	M6.4（深さ約10 km）
—	茨城県南部	2026年4月1日	M5.0（深さ約50 km）
—	長野県北部	2026年4月18日	M5.0（深さ約10 km）
—	長野県北部	2026年4月18日	M5.1（深さ約10 km）
—	三陸沖	2026年4月20日	M7.7（深さ約20 km）
—	十勝地方南部	2026年4月27日	M6.2（深さ約85 km）

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

ー GNS観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖周辺に移動している。

(4) 近畿・中国・四国地方

ー 四国西部で5月2日から5月23日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

(5) 九州・沖縄地方

ー 4月中旬から西表島付近で地震活動が活発となり、5月中に震度1以上を観測した地震が17回発生した。これらの地震は陸のプレートの地殻内で発生した地震である。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、6月5日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー（令和8年6月5日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

（顕著な地震活動に関する現象）

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

（ゆっくりすべりに関係する現象）

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

（1）四国西部：5月2日から5月23日

- (2) 四国東部：5月9日から6月2日
- (3) 紀伊半島中部：5月15日から5月21日

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNS S観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNS S観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖周辺に移動しています。

これらの深部低周波地震(微動)、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

- ①M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
- ③海域M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。

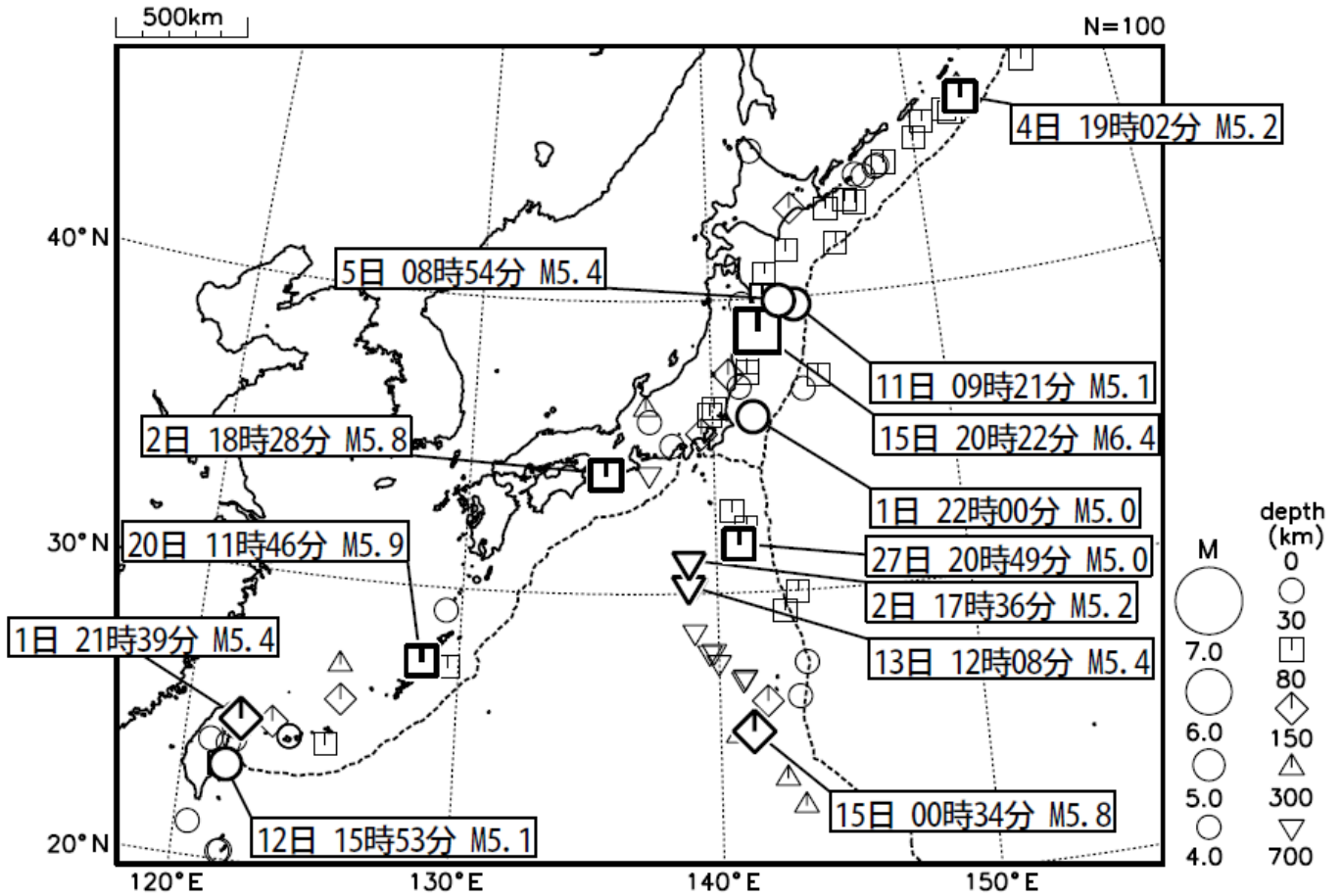
参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動(一年程度以内)に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。
- 4 一連でM6.0以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026年5月の地震活動の評価に関する資料

2026年5月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)

2026 05 01 00:00 -- 2026 05 31 24:00



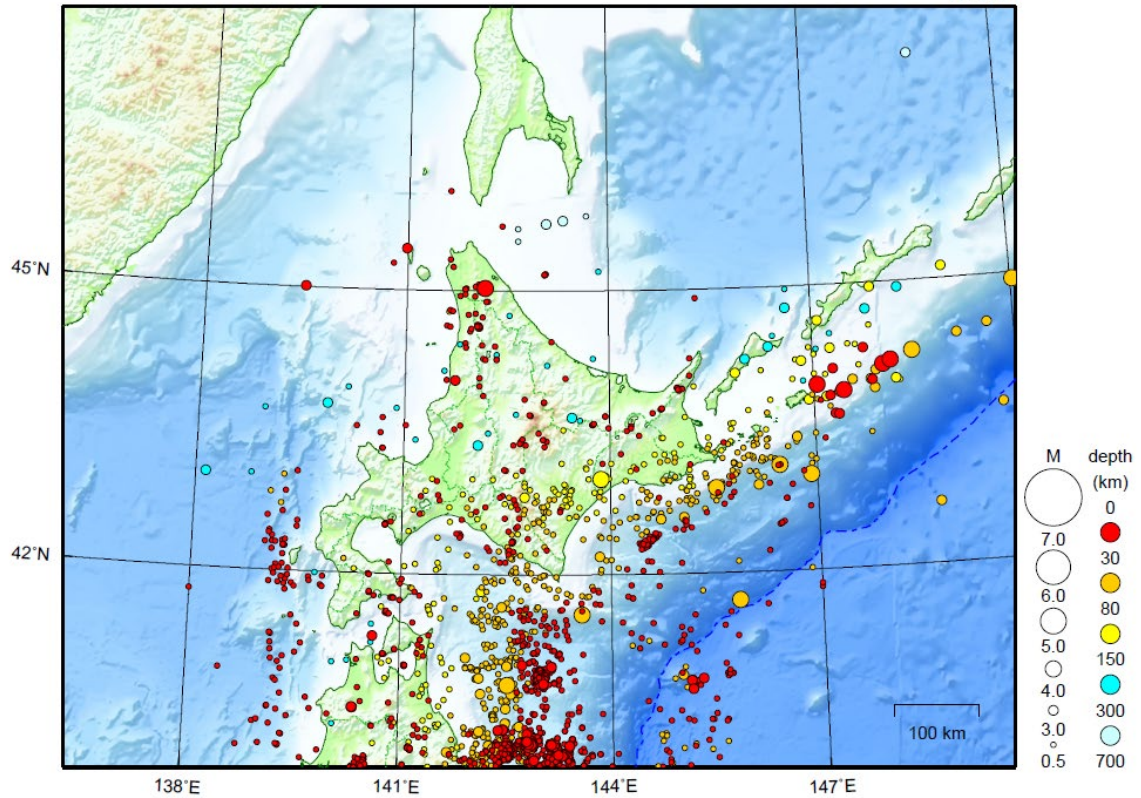
- ・ 5月15日20時22分に宮城県沖でM6.4の地震（最大震度5弱）が発生した。
- ・ 5月20日11時46分に沖縄本島近海でM5.9の地震（最大震度5強）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00

N=3166



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

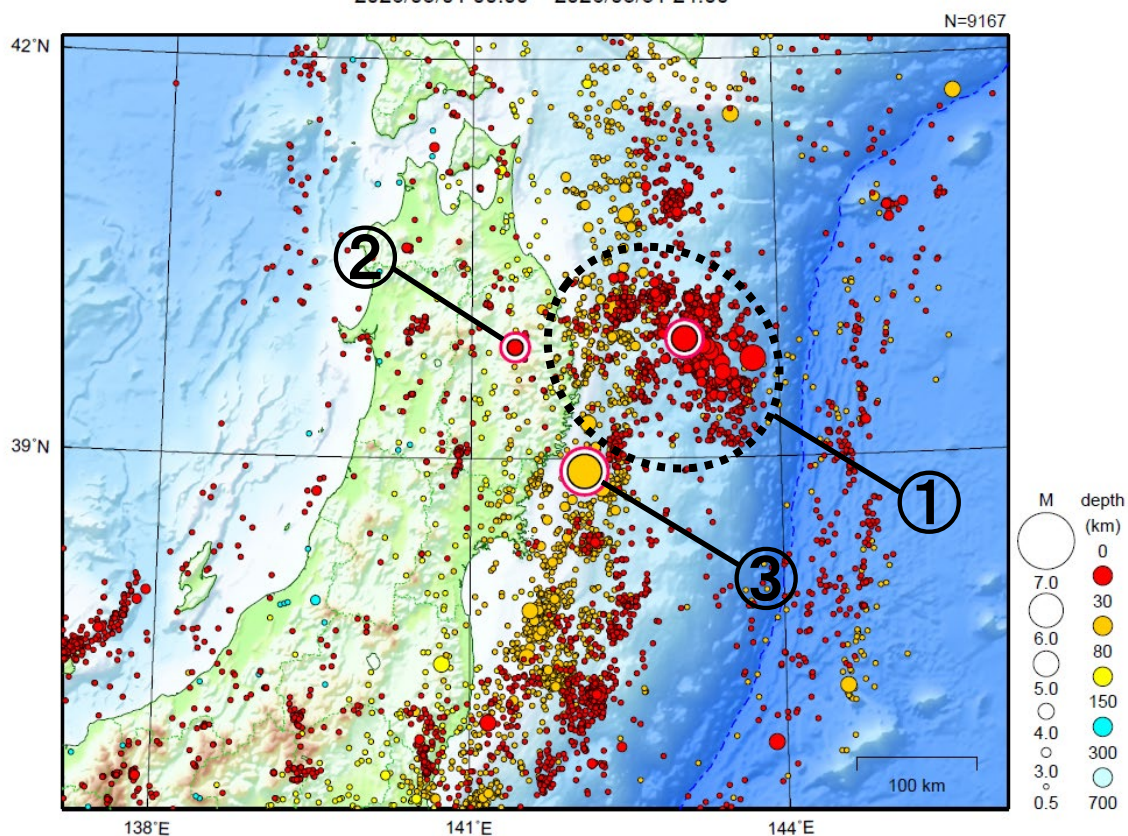
特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

東北地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 5月5日に三陸沖で M5.4 の地震(最大震度 3)が発生した。この地震の震央付近では、5月中に震度 1 以上を観測した地震が 16 回 (震度 3 : 1 回、震度 2 : 3 回、震度 1 : 12 回) 発生した。
- ② 5月14日に岩手県内陸北部で M4.8 の地震(最大震度 4)が発生した。
- ③ 5月15日に宮城県沖で M6.4 の地震(最大震度 5 弱)が発生した。

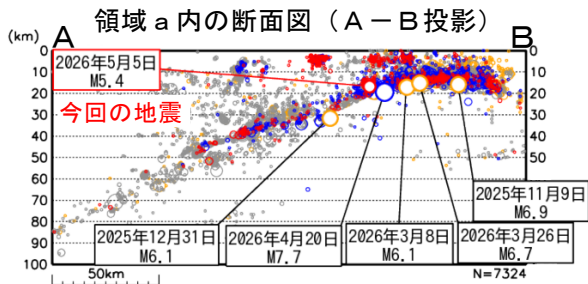
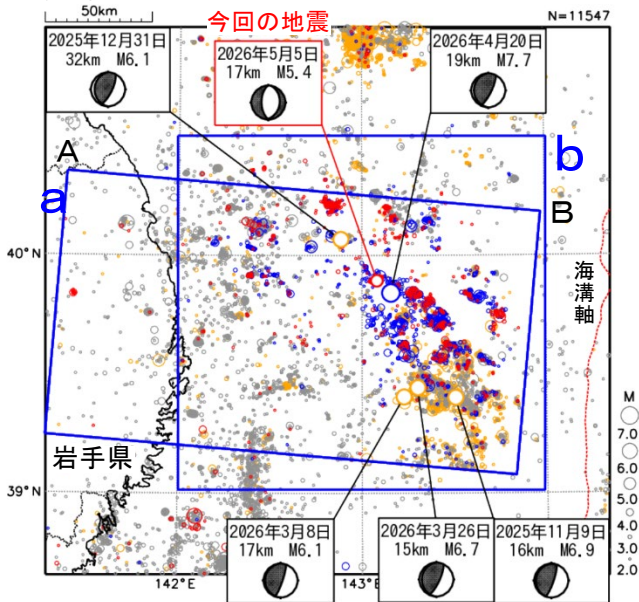
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

5月5日 三陸沖の地震

(2025年11月からの三陸沖の地震活動)

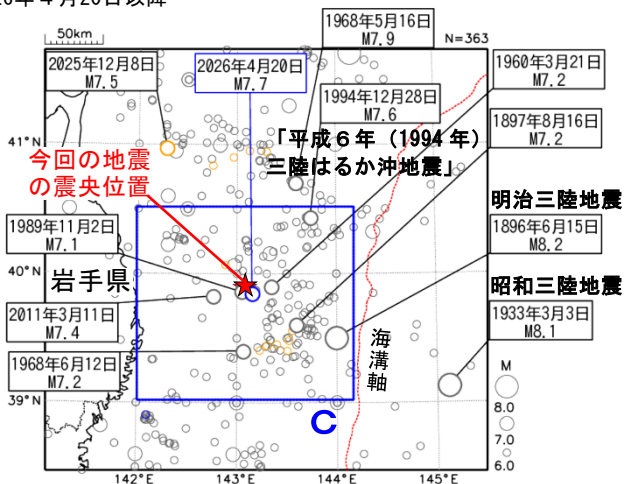
震央分布図
(2020年9月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 2.0)

○2020年9月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日～2026年4月30日 ●2026年5月1日以降
図中の発震機構はCMT解を示す



震央分布図
(1885年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 6.0)

○1885年1月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日以降



震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。

宇津徳治(1982):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年,震研彙報,56,401-463.

宇津徳治(1985):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年(訂正と追加),震研彙報,60,639-642.

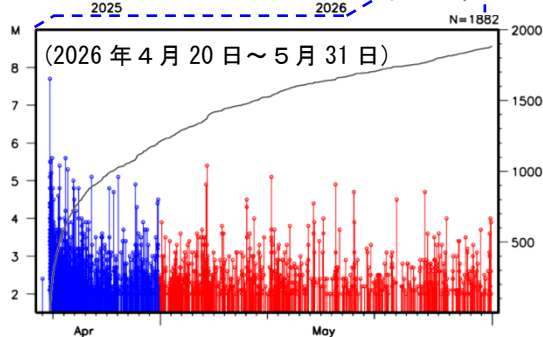
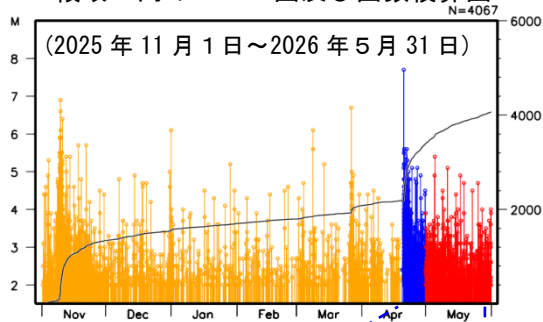
茅野一郎・宇津徳治(2001):日本の主な地震の表,「地震の事典」第2版,朝倉書店,657pp.

2026年5月5日08時54分に三陸沖の深さ17kmでM5.4の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

今回の地震の震央付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にはM6.9の地震(最大震度4)が発生した。その後も活動は活発で、M6.0以上の地震が度々発生していた。2026年4月20日にM7.7の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となった。

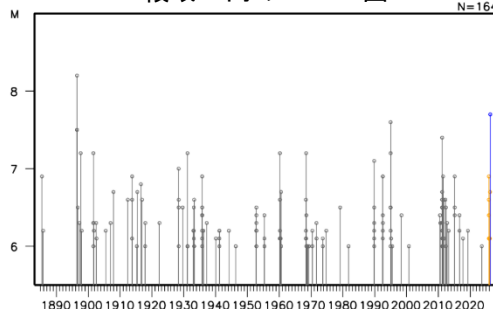
領域bでは、5月1日から31日までに震度1以上を観測する地震が16回(震度3:1回、震度2:3回、震度1:12回)発生しており、地震活動が活発な状況が継続している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M7.0以上の地震が時々発生している。1896年6月15日にはM8.2の地震(明治三陸地震)が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった(被害は「日本被害地震総覧」による)。

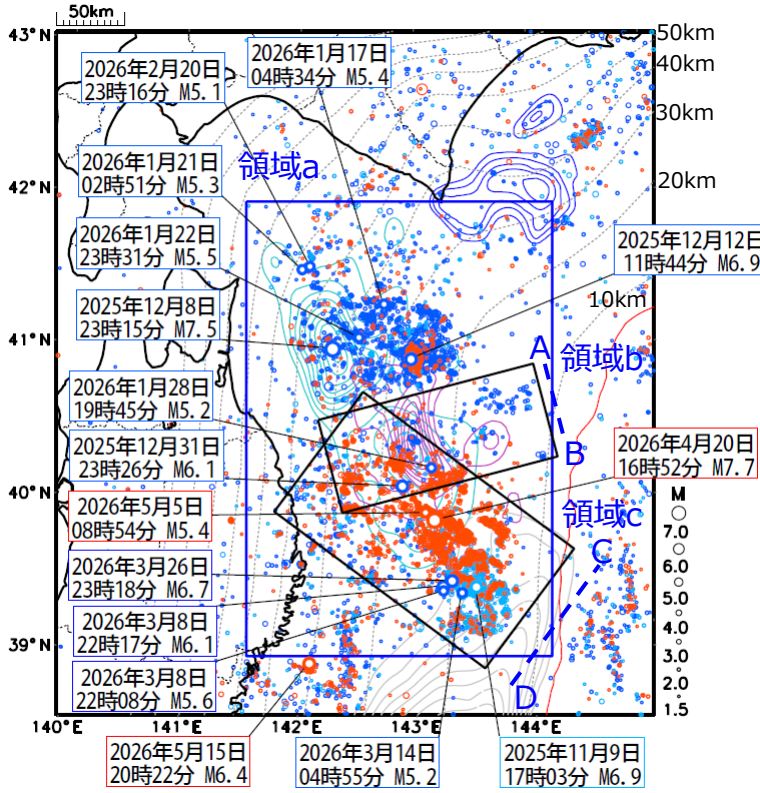
領域c内のM-T図



三陸沖の地震（青森県東方沖・岩手県沖・三陸沖 周辺の地震活動）

震央分布図

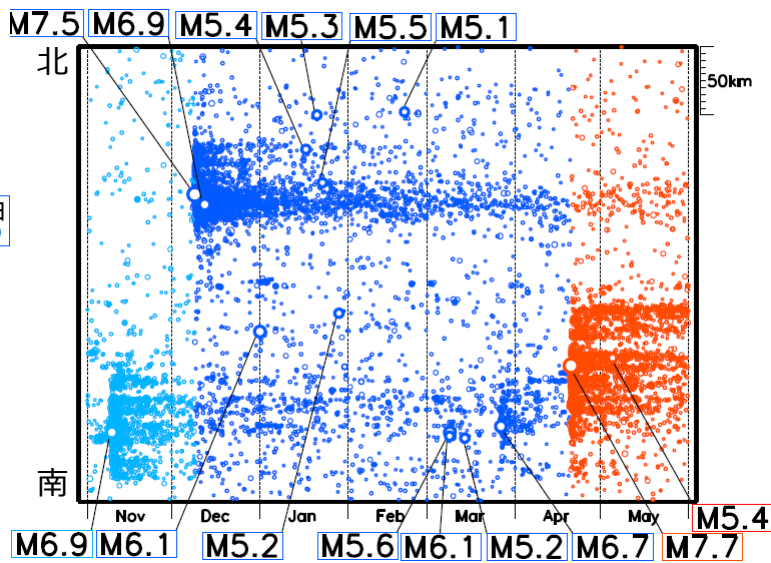
2025年11月1日～2026年5月31日、深さ0～100km、M \geq 1.5



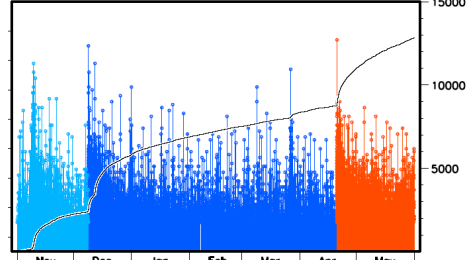
- 2025年11月1日～12月8日23時14分
- 2025年12月8日23時15分～2026年4月20日16時51分
- 2026年4月20日16時52分～5月31日

色付きのコンターは主な地震のすべり分布
 青色：2003年十勝沖地震（Yamanaka and Kikuchi, 2003）
 水色：1968年十勝沖地震（永井・他, 2001）
 紫色：1994年三陸はるか沖地震（永井・他, 2001）
 灰色：2011年東北地方太平洋沖地震（Yoshida et al., 2011）
 黒色破線は太平洋プレート上面のおよその深さ
 Kita et al. (2010)及びNakajima and Hasegawa (2006)

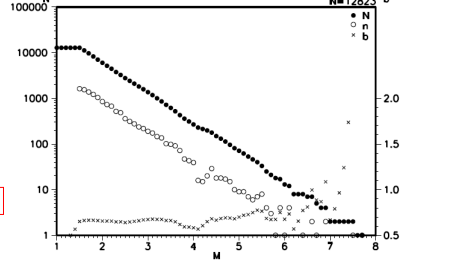
領域a内の時空間分布図（南北投影）



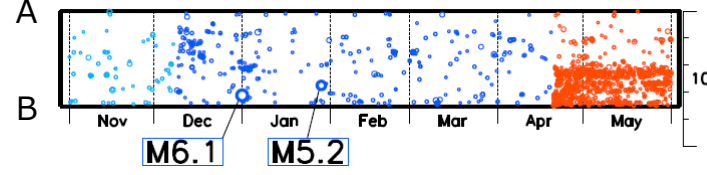
領域a内のM-T図及び回数積算図



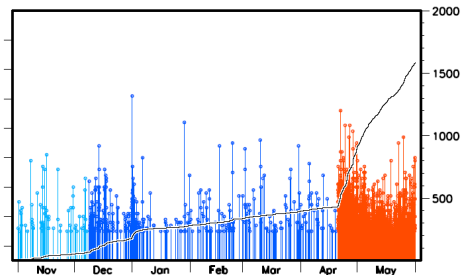
領域a内のM別頻度分布図



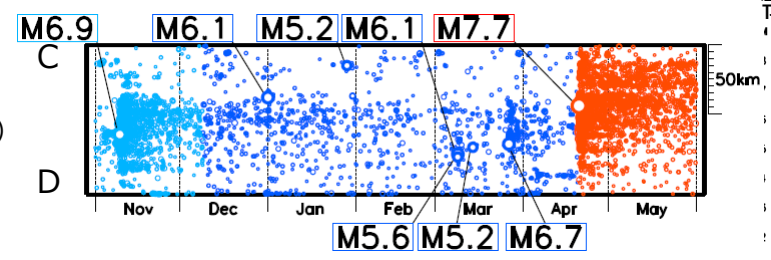
領域b内の時空間分布図（A-B投影）



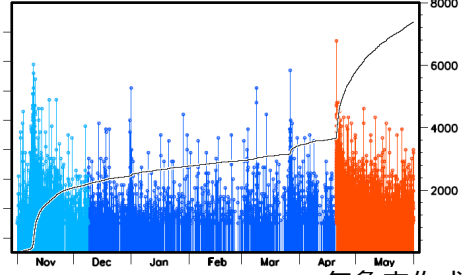
領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内の時空間分布図（A-C投影）

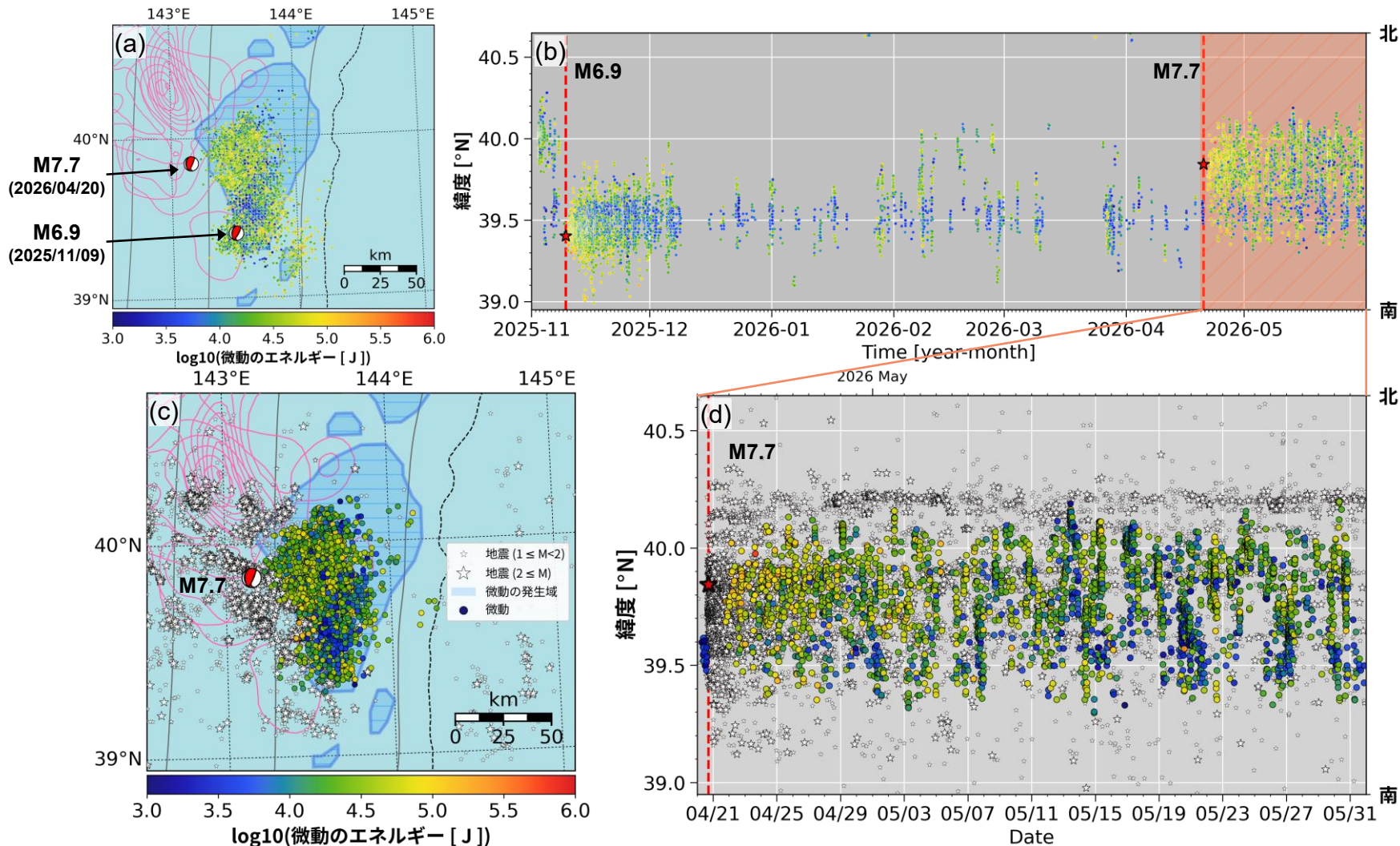


領域c内のM-T図及び回数積算図



4月20日16時52分に発生した三陸沖の地震後の微動活動

- 2025年11月のM6.9の地震後と比較すると、今回はより北側で微動活動が継続 (図a-b)
- 本震および余震活動の東側で活発な微動活動を観測 (図c-d)



(a-b) 2025/11/01 から 2026/05/31 23:59:59 までの微動分布
 (c-d) 2026/04/20 から 2026/05/31 23:59:59 までの微動分布
 ※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

謝辞: 2026/05/01-2026/05/31 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

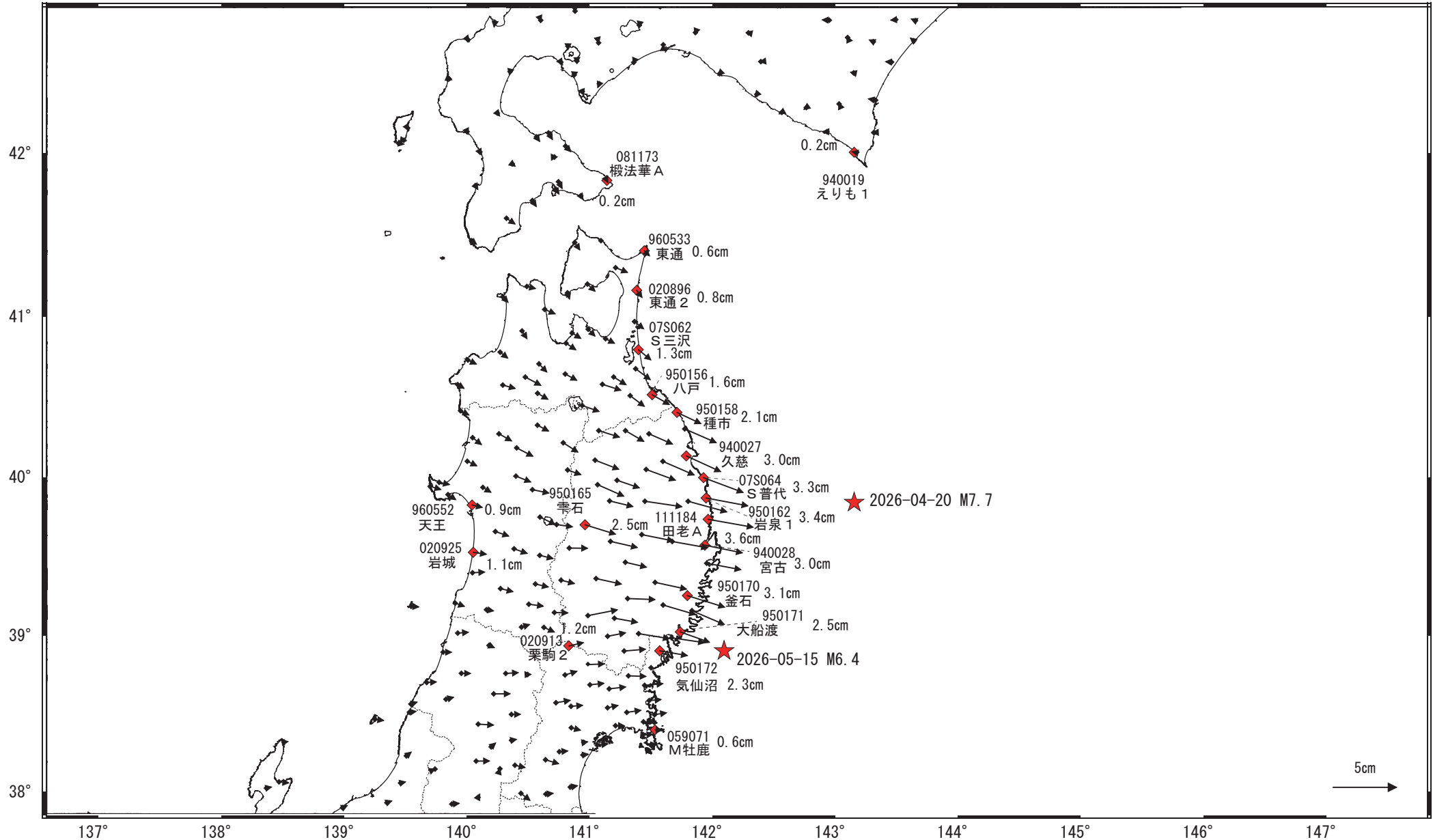
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21 [F5.1:最終解]

比較期間:2026-05-29~2026-05-31 [R5.1:速報解]



★震央 ◆観測局(グラフ表示)

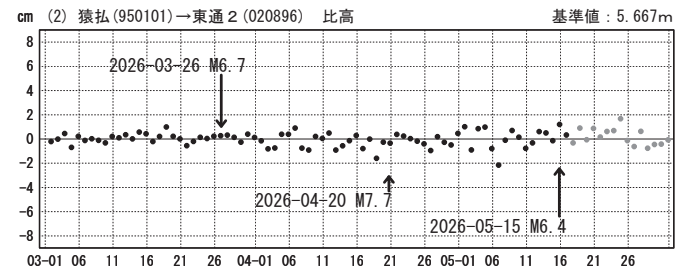
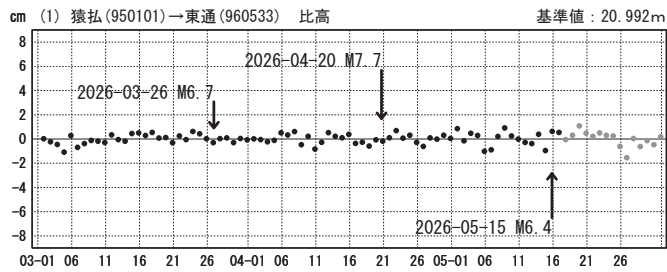
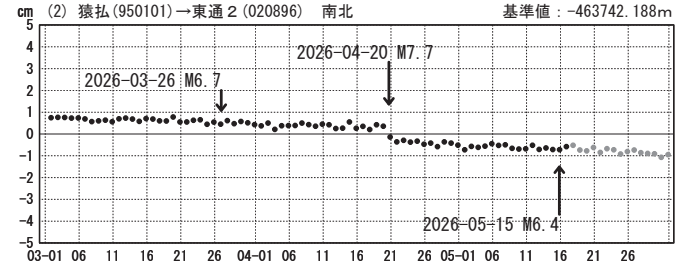
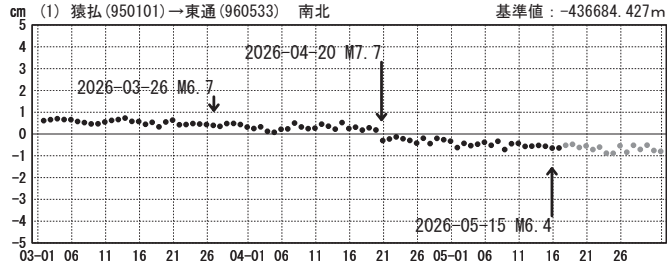
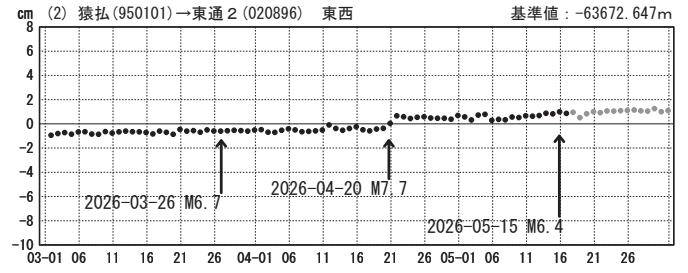
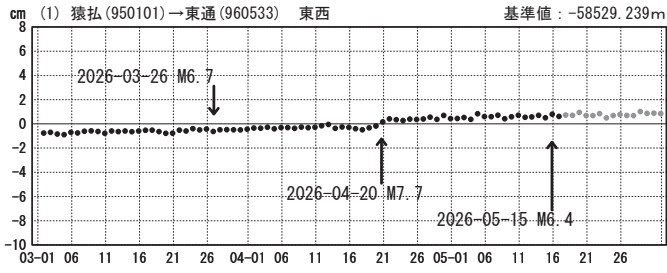
☆固定局:猿払(950101)(北海道)

※5月15日の宮城県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

成分変化グラフ

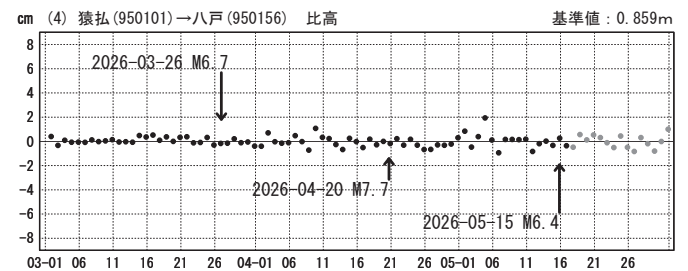
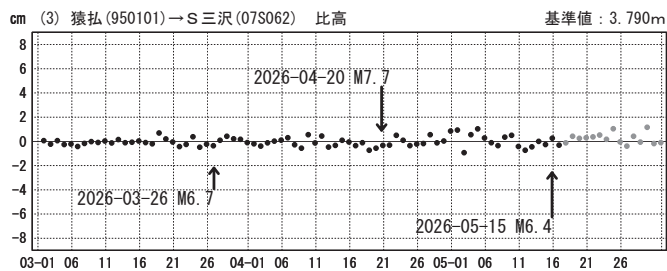
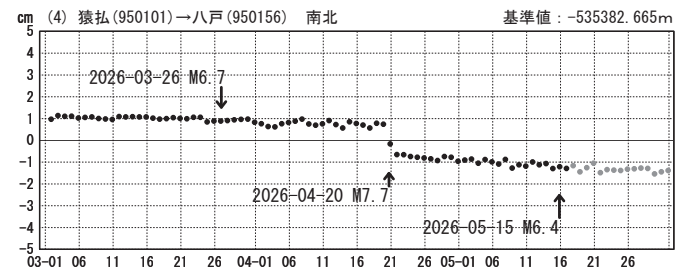
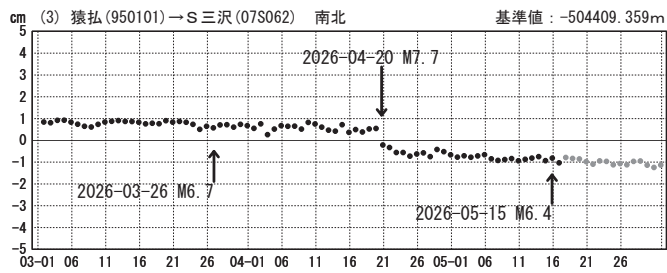
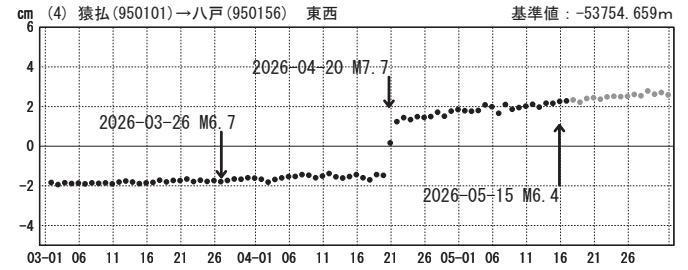
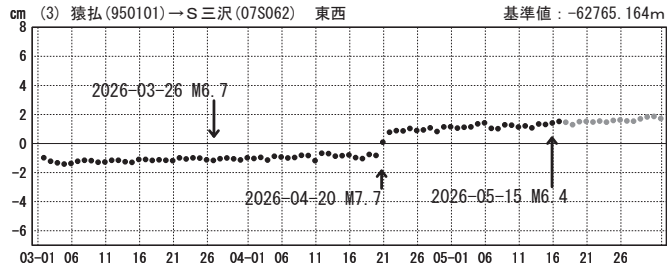
期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

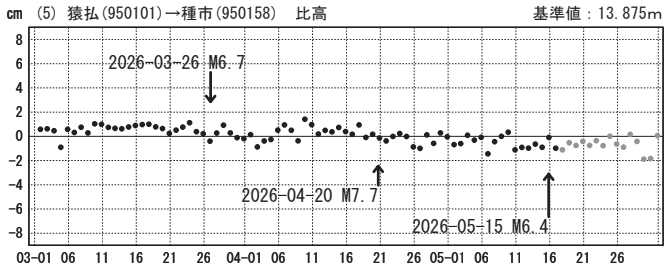
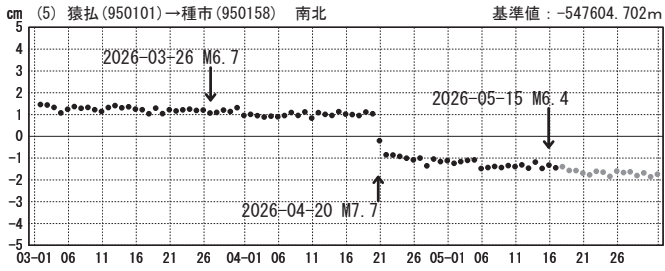
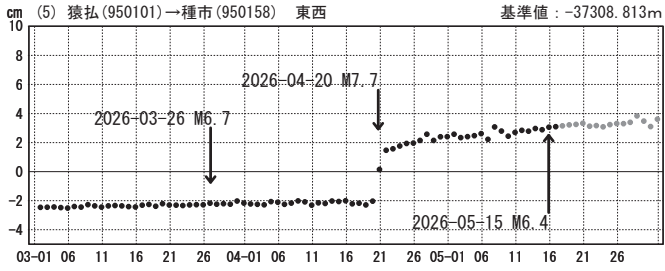
期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



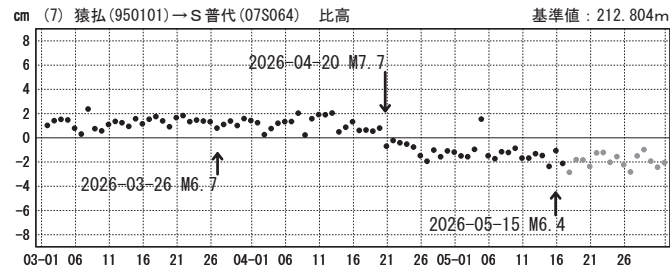
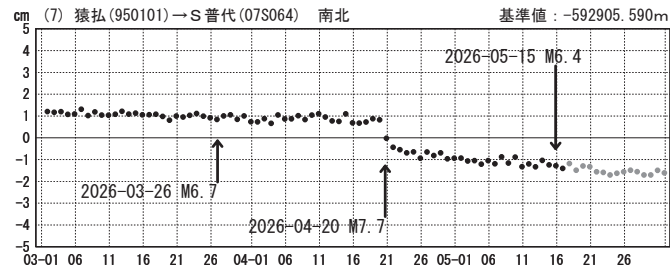
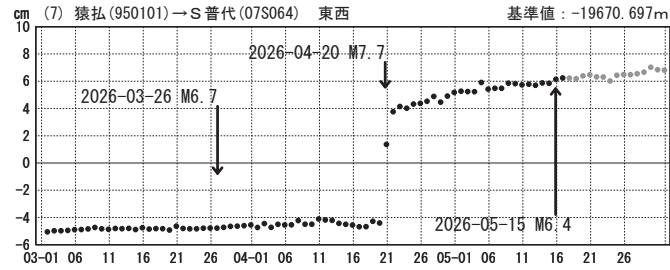
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

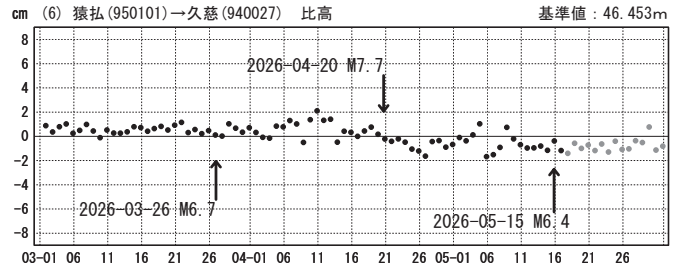
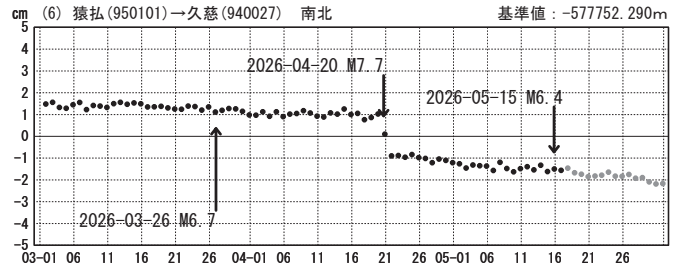
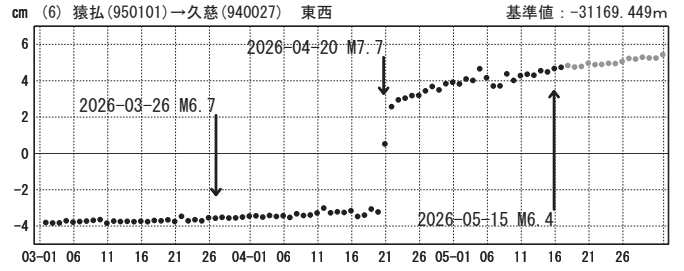
期間：2026-03-01~2026-05-31 JST



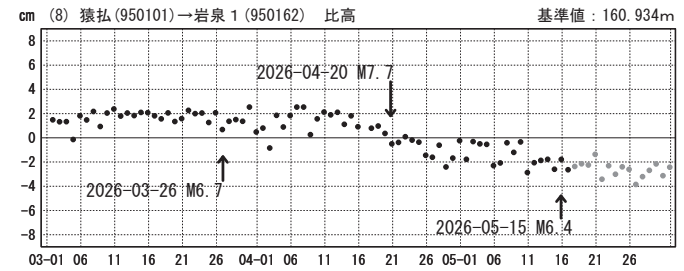
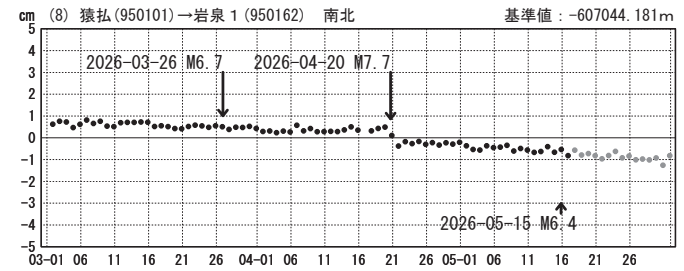
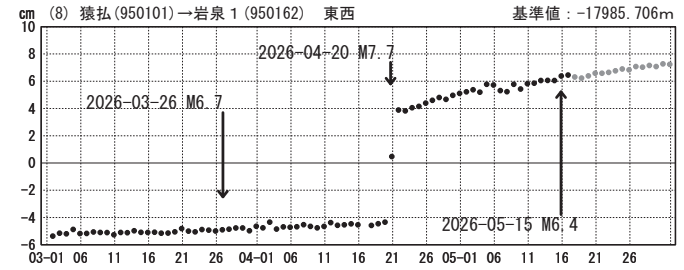
期間：2026-03-01~2026-05-31 JST



期間：2026-03-01~2026-05-31 JST



期間：2026-03-01~2026-05-31 JST

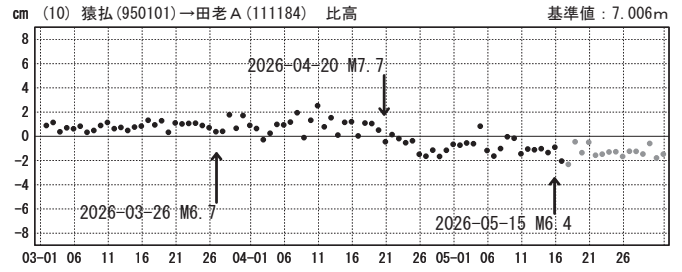
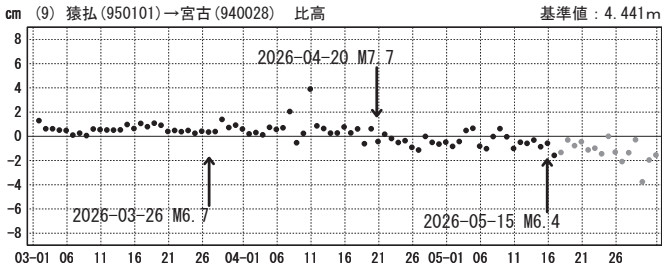
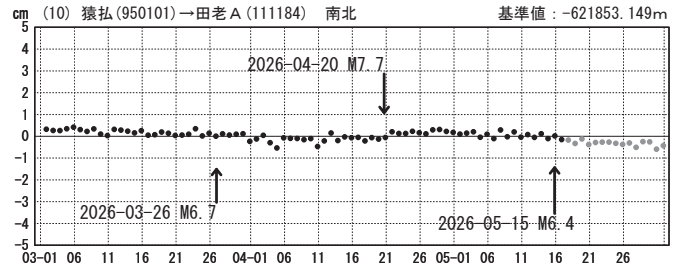
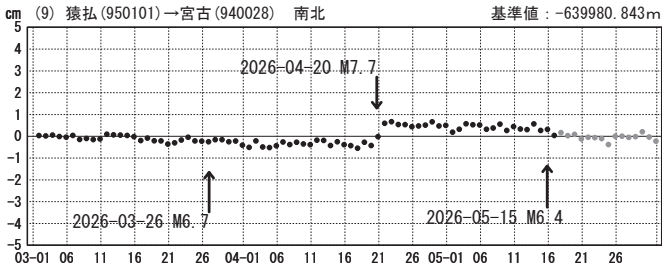
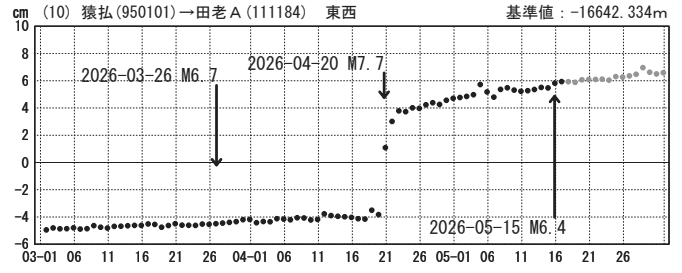
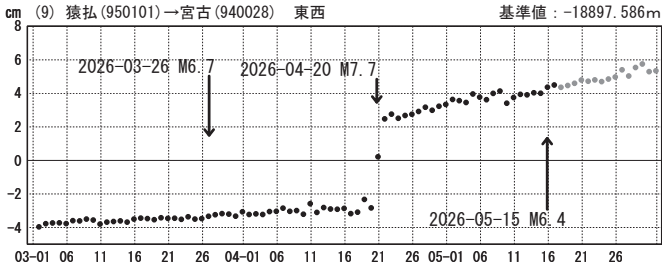


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

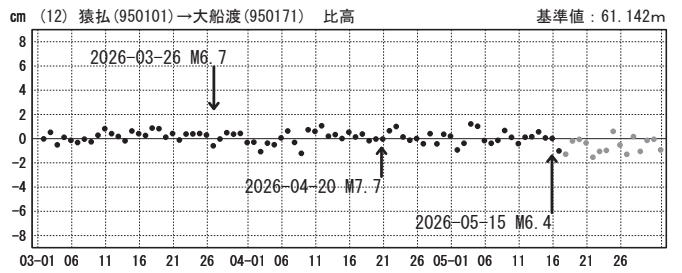
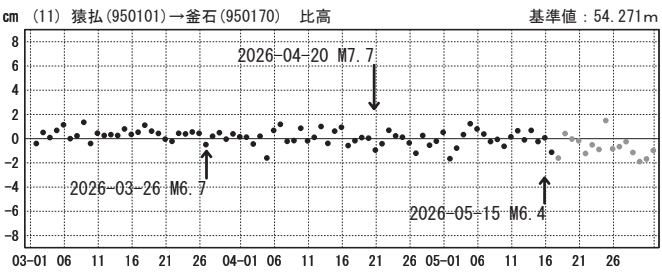
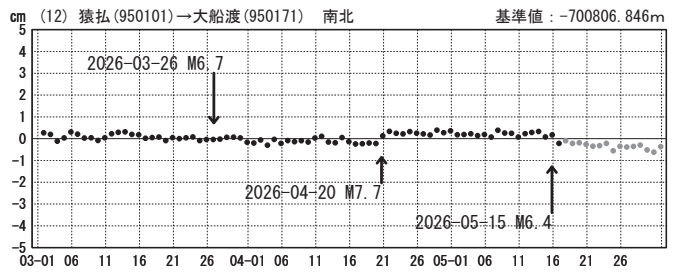
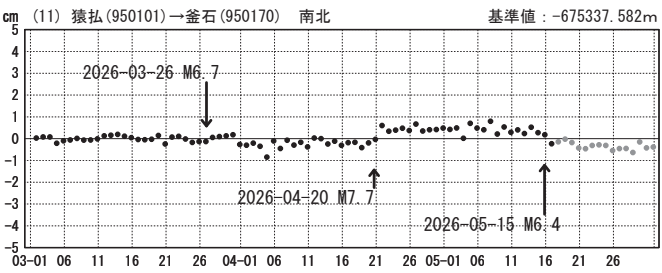
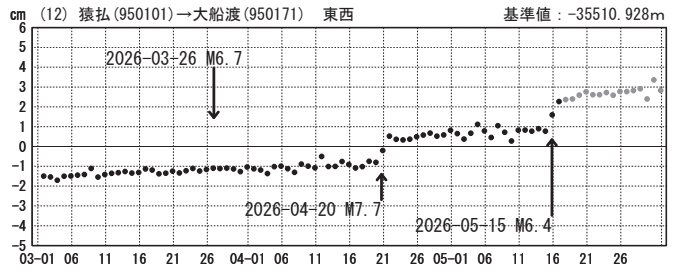
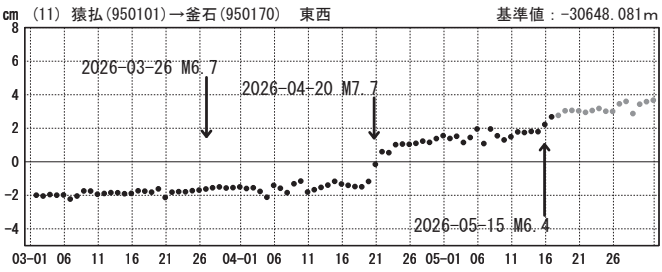
期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

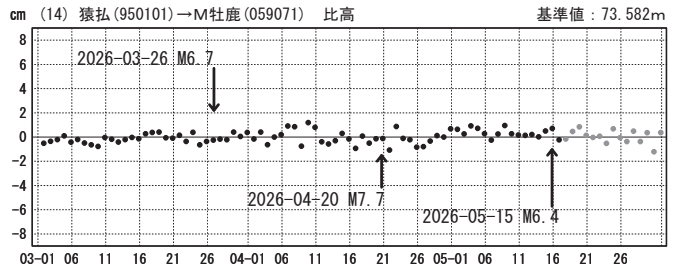
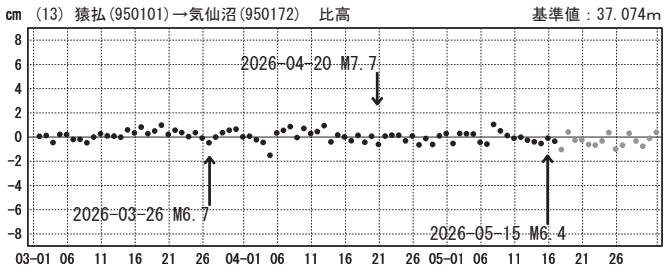
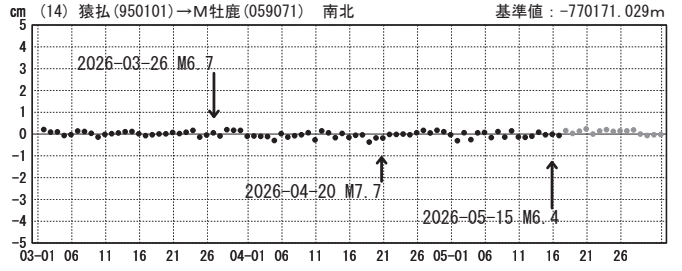
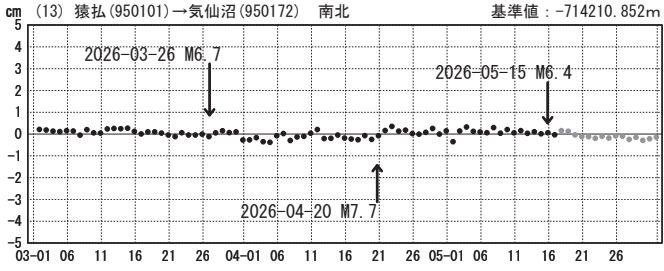
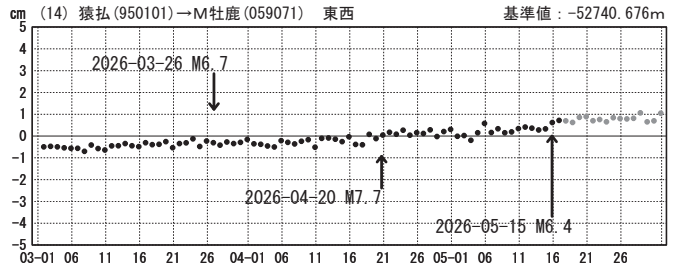
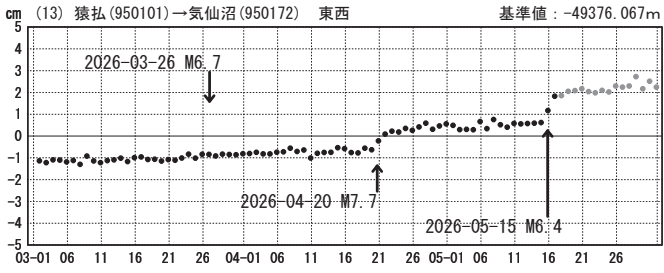


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

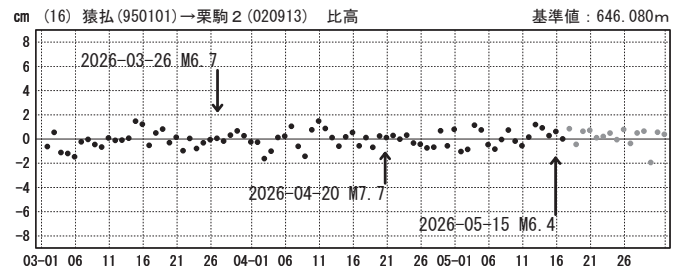
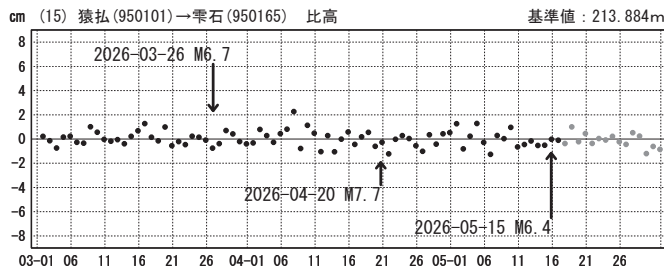
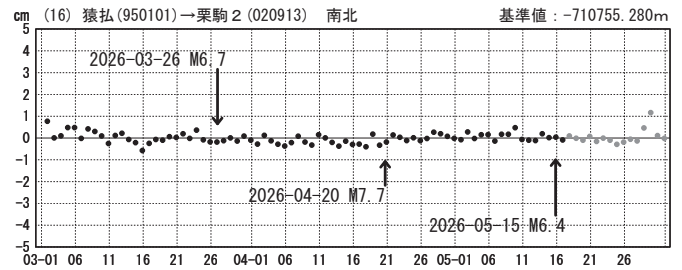
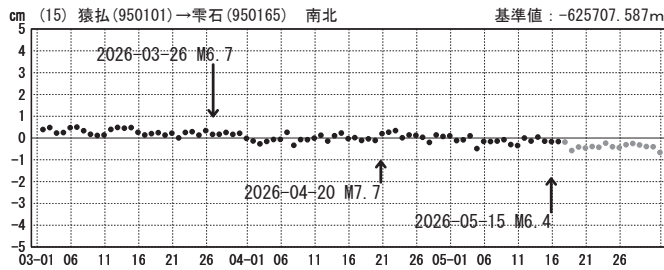
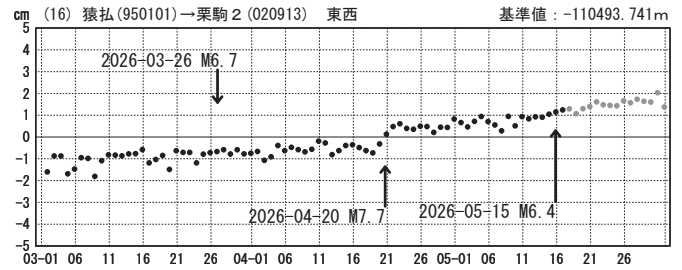
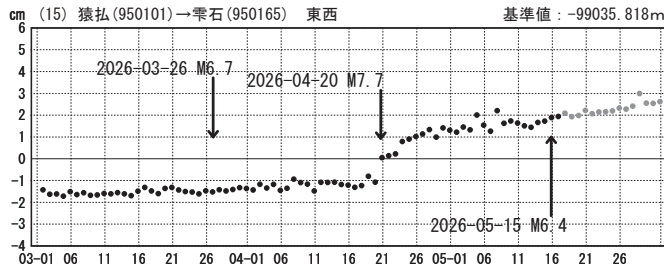
期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

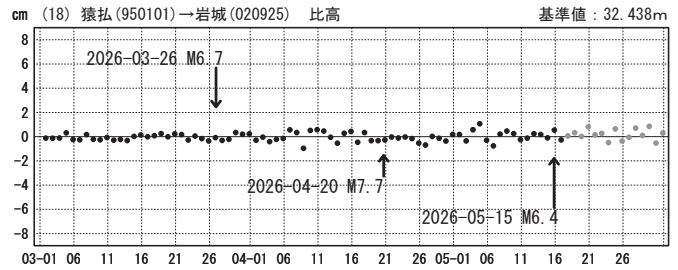
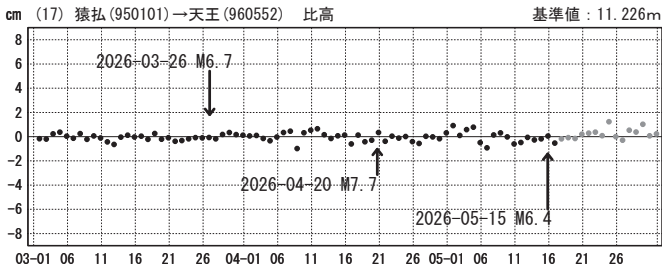
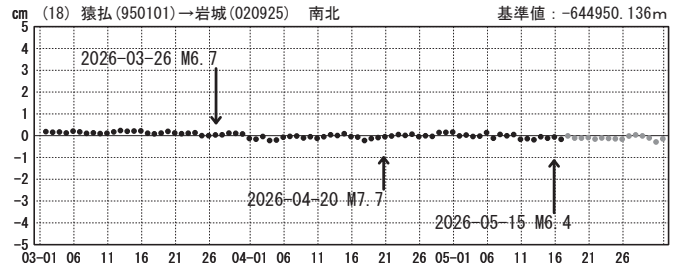
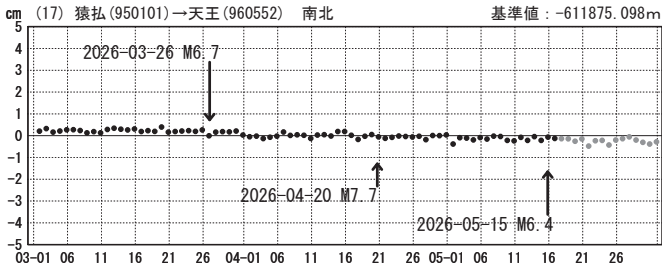
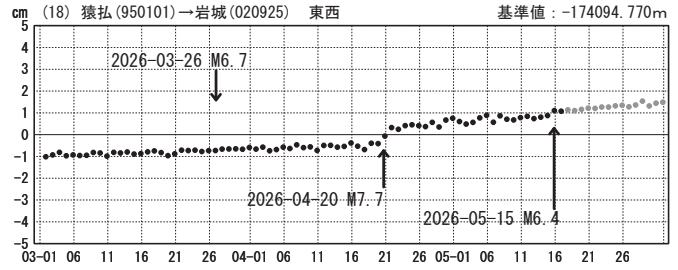
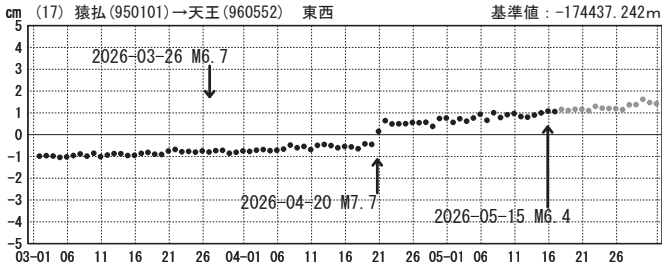


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

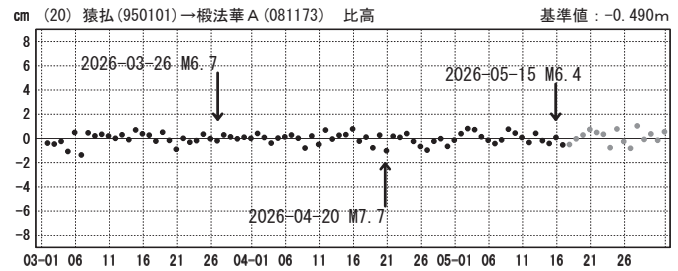
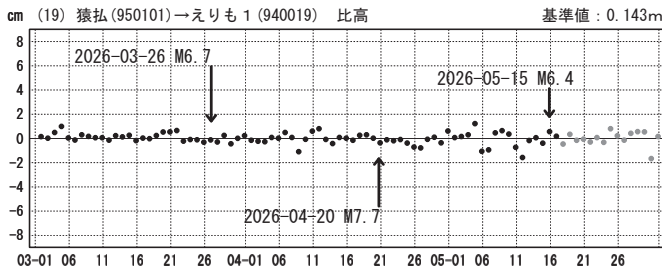
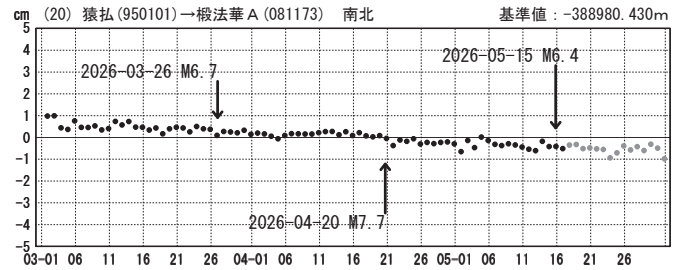
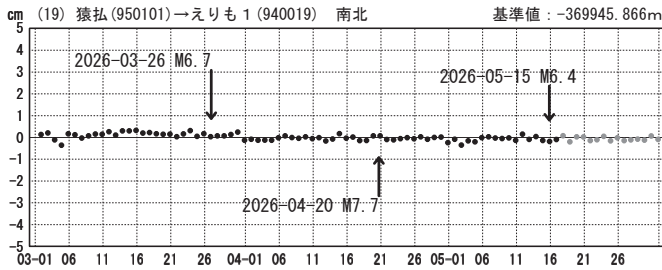
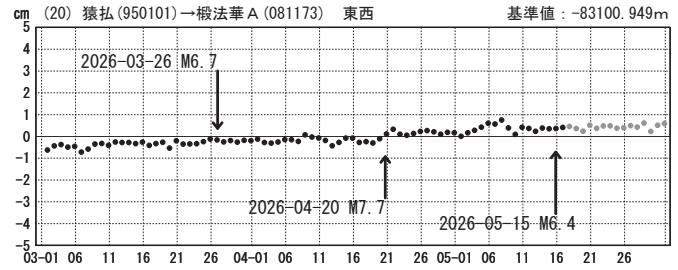
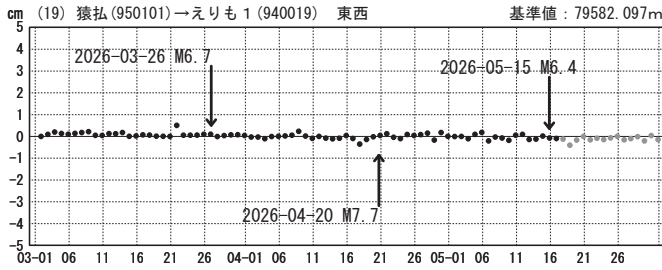
期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



期間：2026-03-01～2026-05-31 JST

期間：2026-03-01～2026-05-31 JST



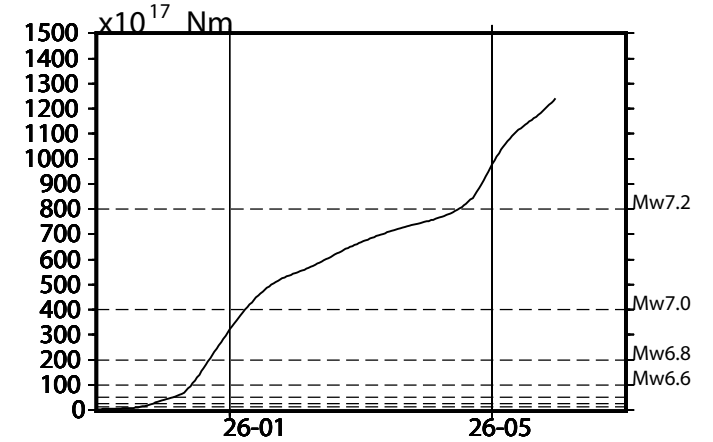
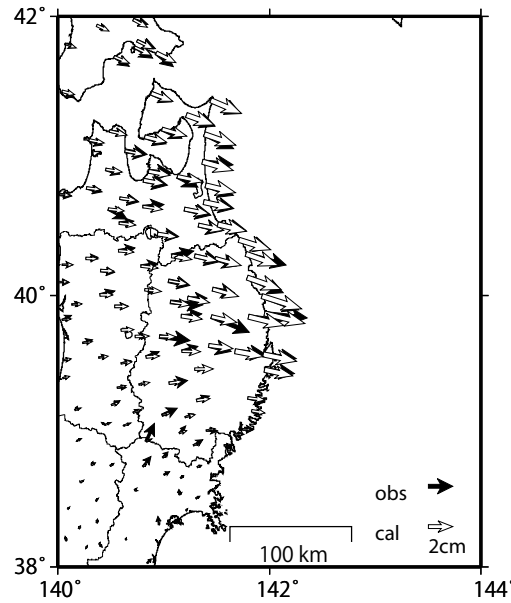
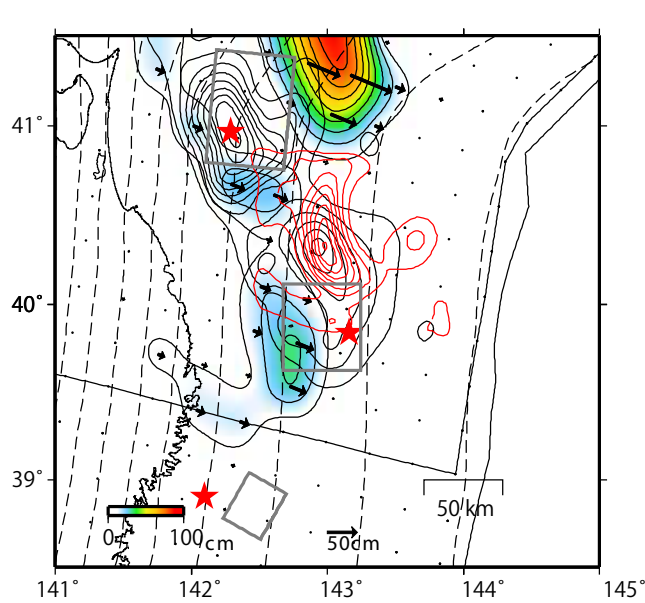
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2025-11-01/2026-05-30)

観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2025-11-01/2026-05-30)

モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2025-10-01/2026-05-16) + R5.1解(2026-05-17/2026-05-30)

トレンド期間: 2023-01-01/2024-12-31 (年周・半年周成分は補正なし)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: 太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

赤星: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）

矩形断層（灰）: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖の地震

固定局: 猿払

*電子基準点の保守等による変動は補正している。

*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

*以下の地震に伴う地殻変動は補正している。

2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震

2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震

*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)

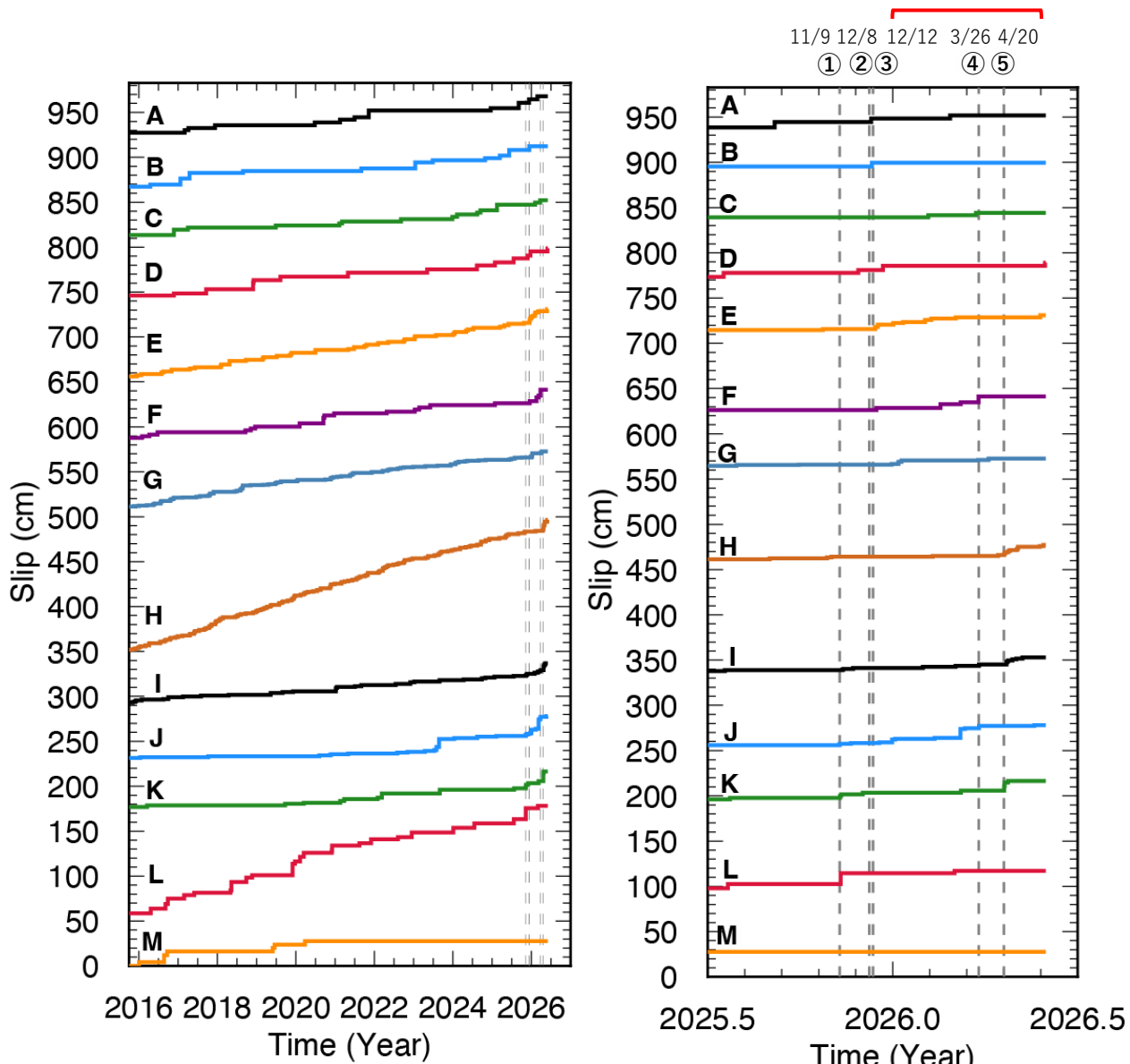
*2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al. (2014)を参考)

*共通誤差成分を推定している。

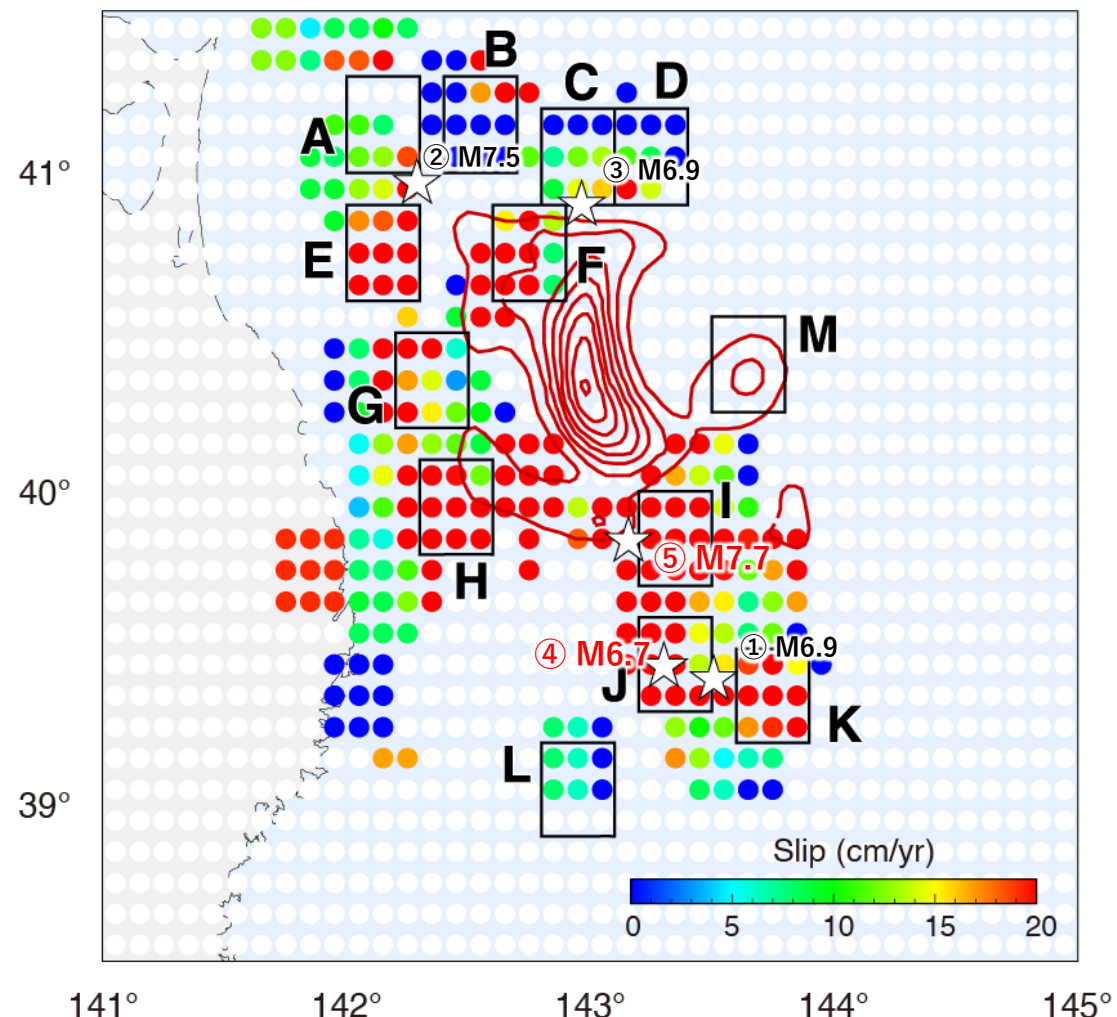
*モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所
繰り返し地震カタログは気象庁作成



2026 1/1- 5/31 (Earthquake ④⑤ occurred)



0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
赤コンターは永井・他(2001)による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布、緑はYamanaka and Kikuchi (2004)による1989年三陸沖M7.1の地震のすべり分布

領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す

繰り返し地震データ：2015/10/26 -2026/5/31

青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図

(1994年12月28日～1995年1月31日及び2025年11月1日

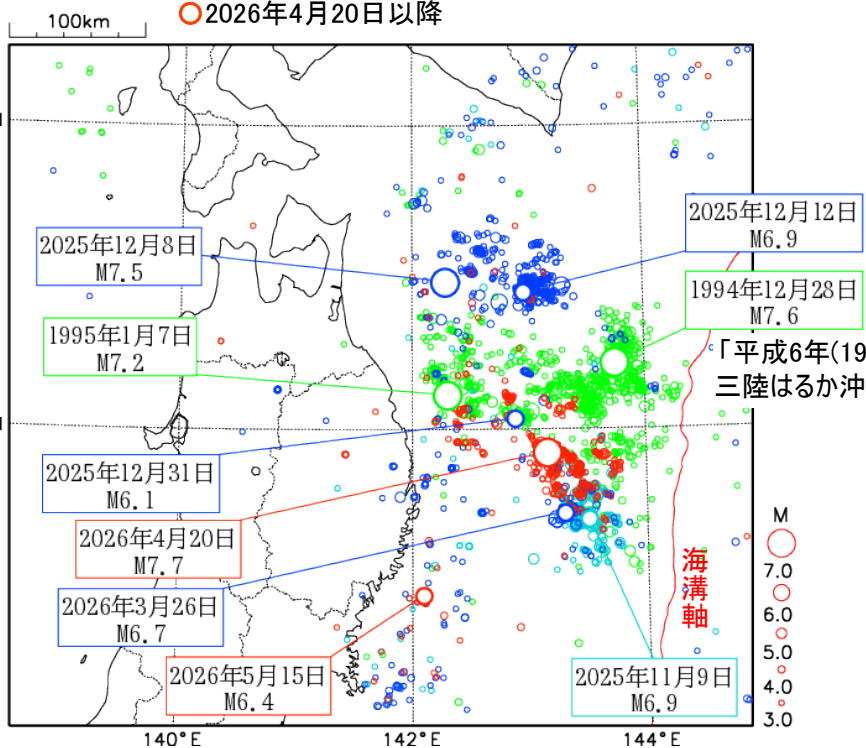
～2026年5月31日、深さ0～90km、M \geq 3.0)

○ 1994年12月28日～1995年1月31日

○ 2025年11月1日～2025年12月8日23時14分

○ 2025年12月8日23時15分～2026年4月19日

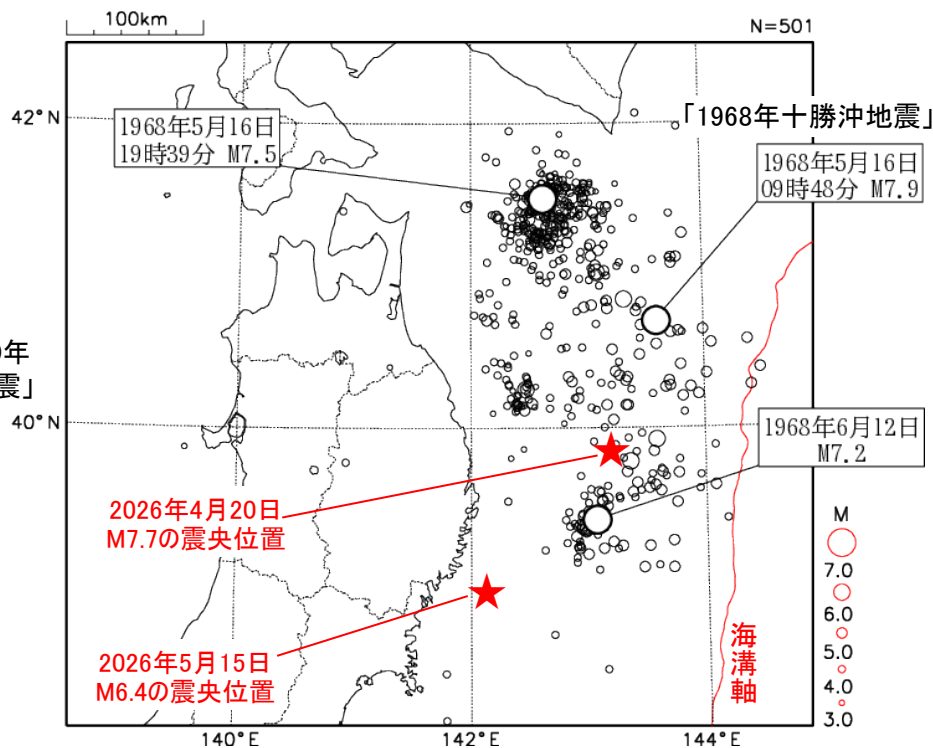
○ 2026年4月20日以降



震央分布図

(1968年5月16日～1968年6月15日、

深さ0～90km、M \geq 3.0)



左図には、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の約1か月分の地震活動域、2025年11月9日三陸沖の地震活動域、2025年12月8日青森県東方沖の地震活動域及び2026年4月20日三陸沖の地震活動域等を示している。

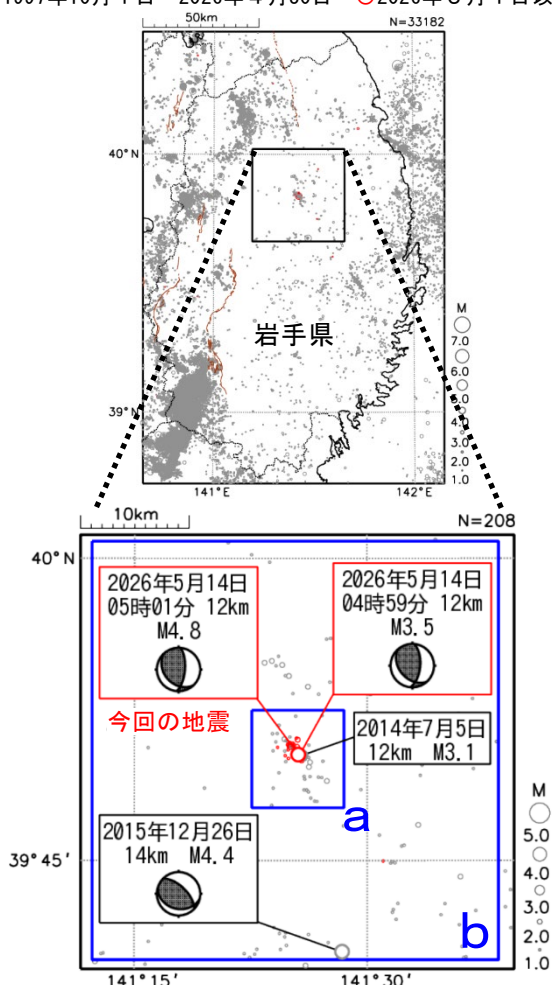
右図には、「1968年十勝沖地震」の約1か月分の地震活動域を示している。

- ・「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」、2025年11月及び2026年4月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けているように見える。
- ・「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- ・2026年4月の三陸沖の地震の活動域は、2025年11月の三陸沖の地震の活動域の北西側、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の活動域の南側に位置しているように見える。

5月14日 岩手県内陸北部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年5月31日、
深さ0～30km、M≥1.0)

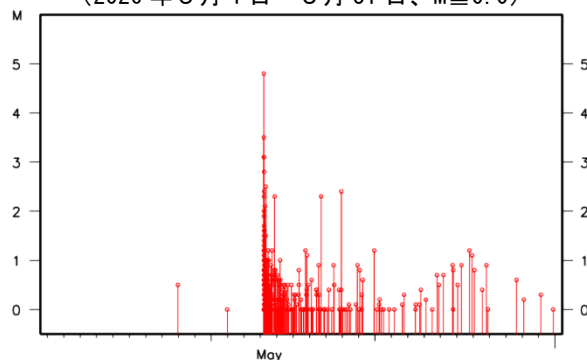
○1997年10月1日～2026年4月30日 ○2026年5月1日以降



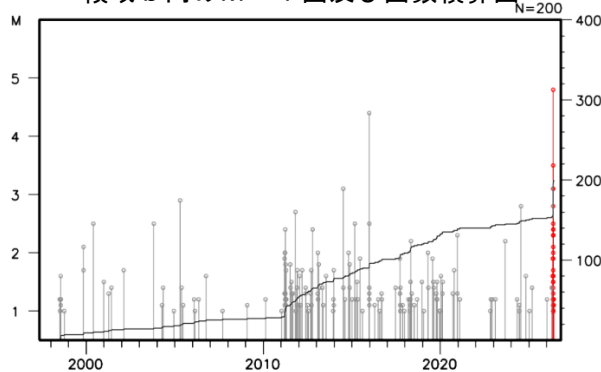
2026年5月14日05時01分に岩手県内陸北部の深さ12kmでM4.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震の震央近傍(領域a)では、5月14日04時59分にM3.5の地震(最大震度2)が発生して以降地震活動が活発となり、14日04時から06時までに震度1以上を観測する地震が5回(震度4:1回、震度2:1回、震度1:3回)発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域b)ではM3.0以上の地震が2回発生していた。領域bでM5程度の地震が発生したのは今回が初めてである。

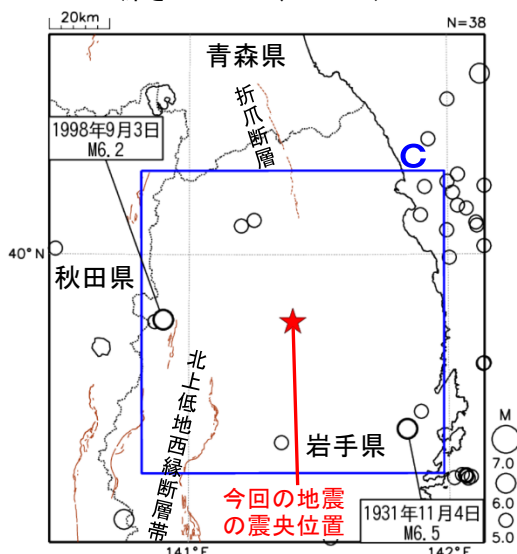
領域a内のM-T図
(2026年5月1日～5月31日、M≥0.0)



領域b内のM-T図及び回数積算図



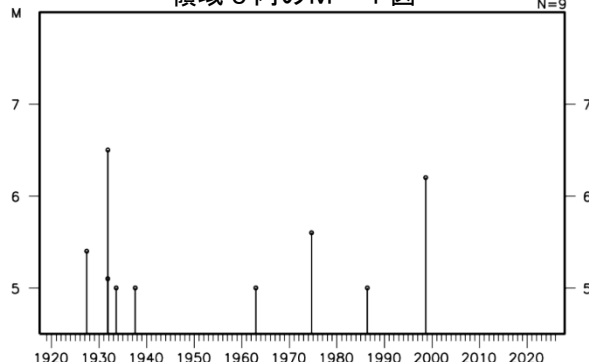
震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～50km、M≥5.0)



震央分布図上の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が2回発生している。1998年9月3日にはM6.2の地震(最大震度6弱)が発生し、負傷者9人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

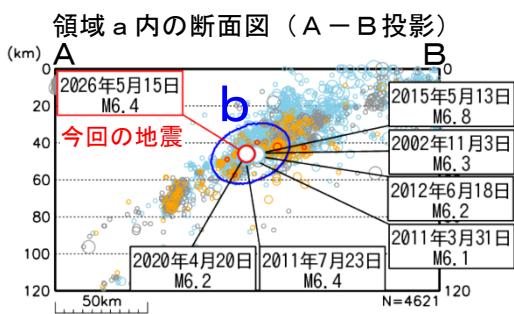
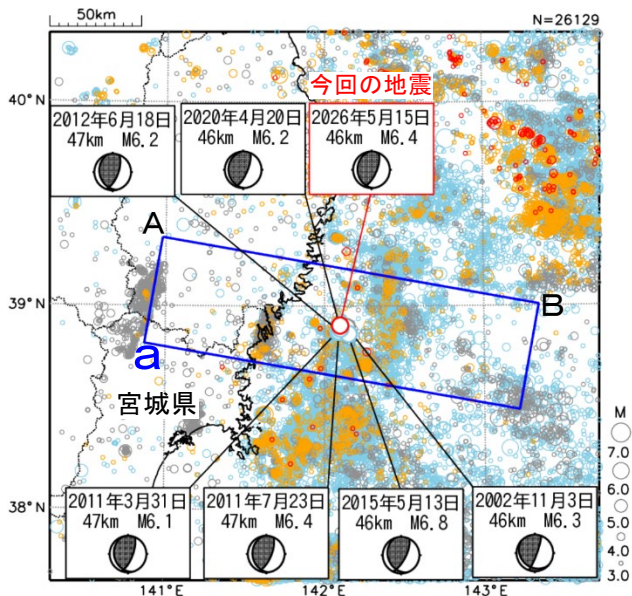
領域c内のM-T図



5月15日 宮城県沖の地震

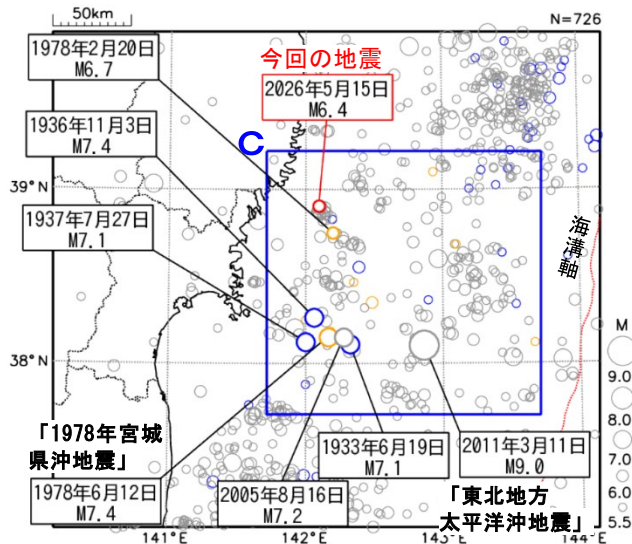
震央分布図
(1997年10月1日～2026年5月31日、
深さ0～120km、M≥3.0)

- 1997年10月1日～2011年2月28日 ○2011年3月1日～2020年8月31日
 - 2020年9月1日～2026年4月30日 ●2026年5月1日以降
- 図中の発震機構はCMT解を示す



震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M≥5.5)

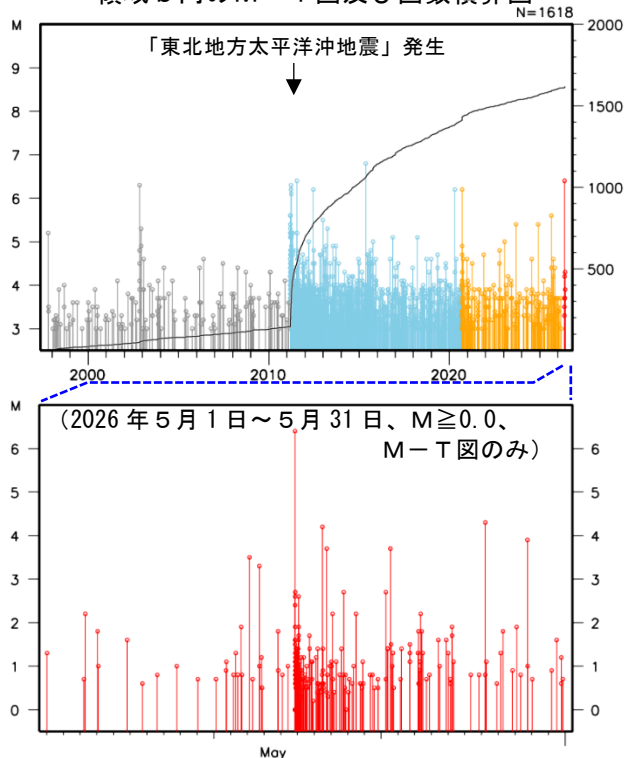
- 1933年1月1日～1937年12月31日 ●1978年1月1日～1979年12月31日
- 2026年5月1日～2026年5月31日 ○上記以外の期間



2026年5月15日20時22分に宮城県沖の深さ46kmでM6.4の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

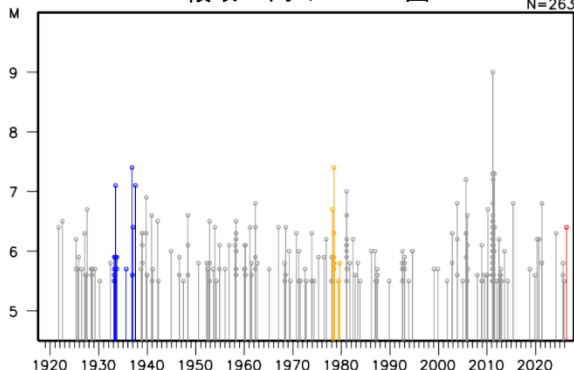
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」)以降、地震活動が活発となっており、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では「東北地方太平洋沖地震」のほか、M7.0以上の地震が時々発生している。1978年には「1978年宮城県沖地震」(M7.4、最大震度5)が発生し、仙台新港で30cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、北海道から千葉県にかけての太平洋沿岸で津波を観測した。この地震により、死者28人、負傷者1,325人、住家全壊1,183棟等の被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

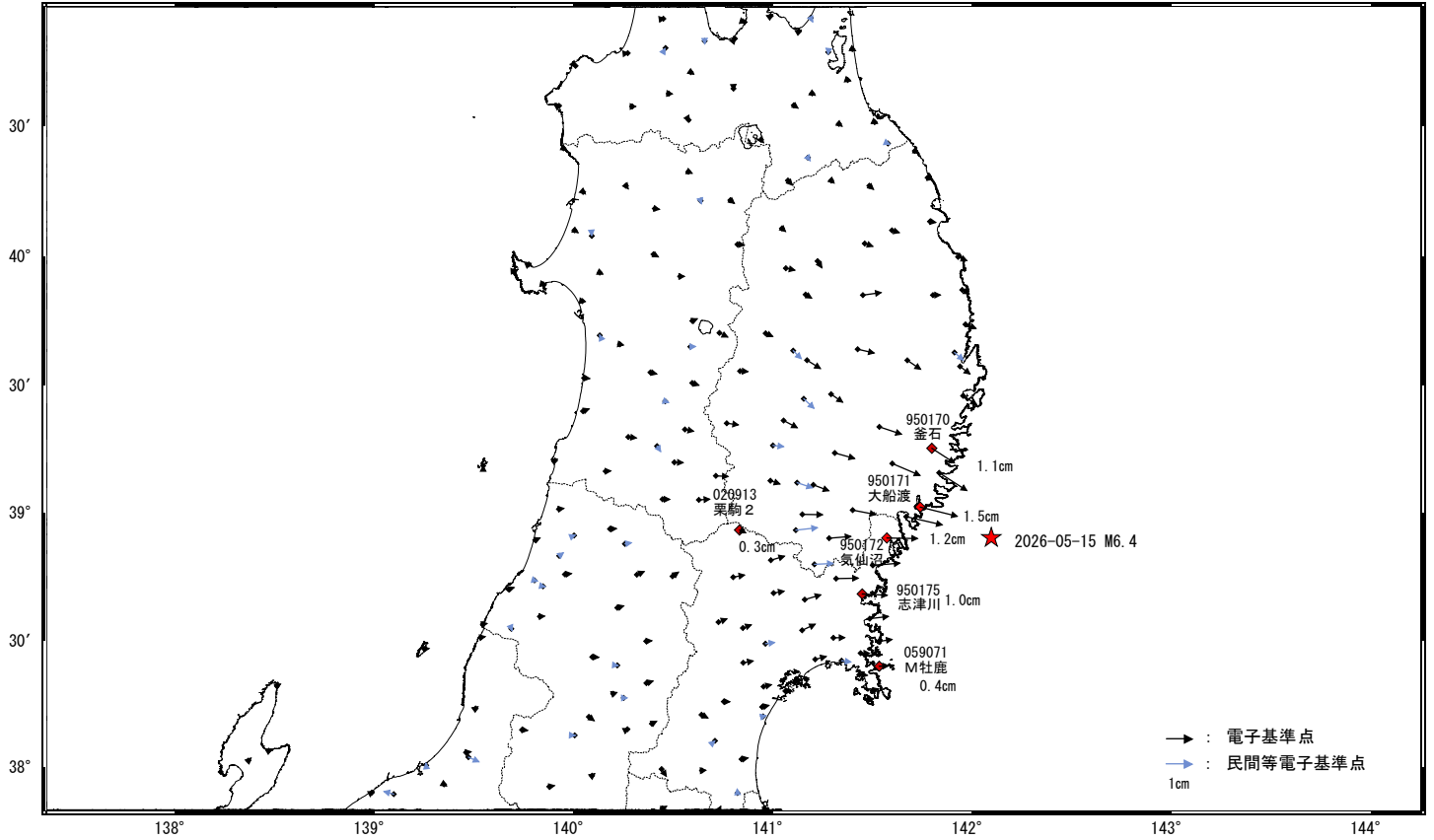
領域 c 内の M-T 図



宮城県沖の地震(5月15日 M6.4)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い小さな地殻変動が観測された。
地殻変動(水平)

基準期間: 2026-05-13~2026-05-14 [R5.1:速報解]
比較期間: 2026-05-16~2026-05-17 [R5.1:速報解]



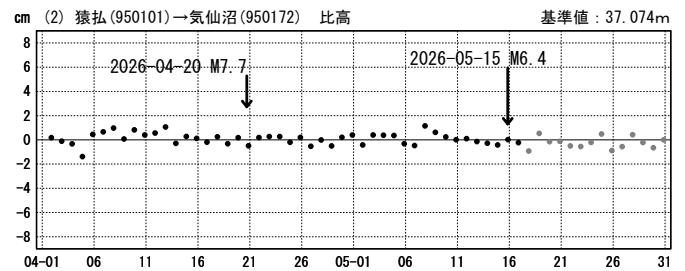
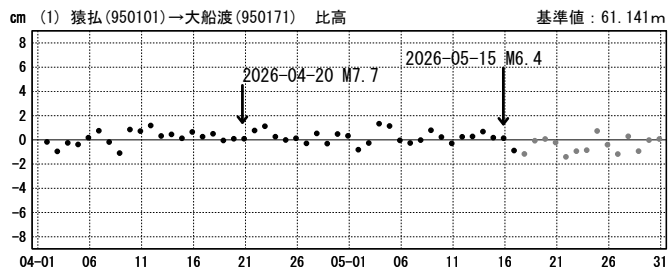
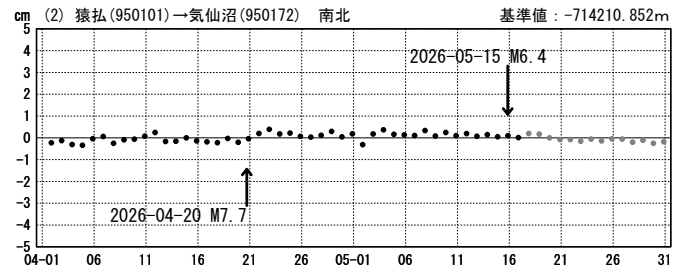
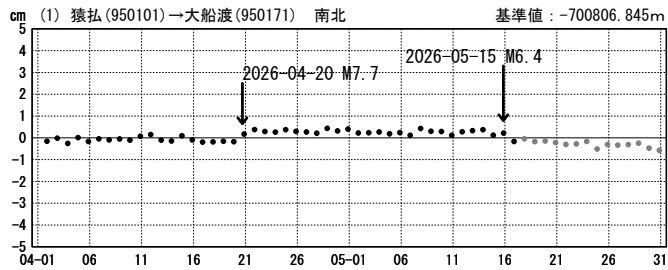
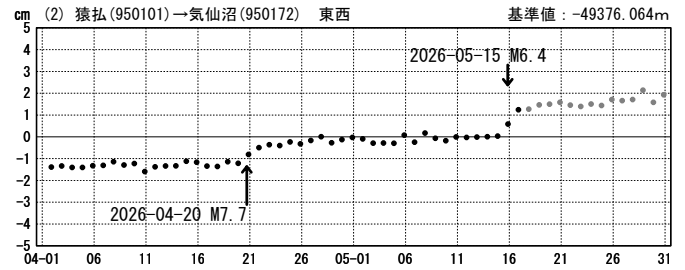
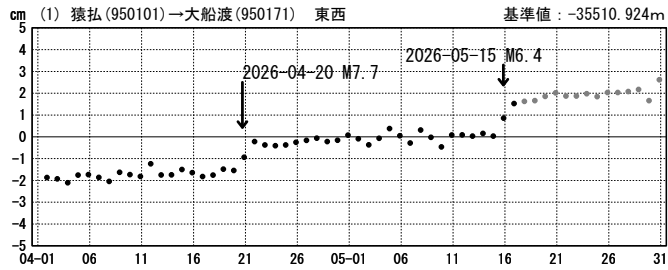
※民間等電子基準点: 株式会社NTTドコモ

- ★ 震央
- ☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

成分変化グラフ

期間: 2026-04-01~2026-05-31 JST

期間: 2026-04-01~2026-05-31 JST

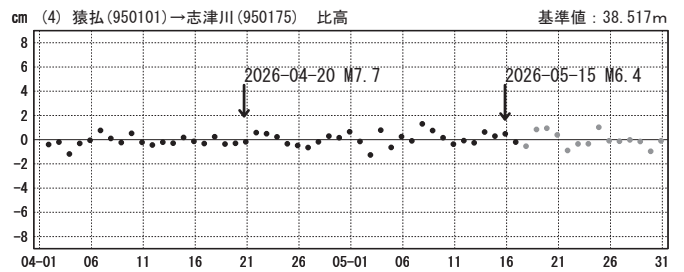
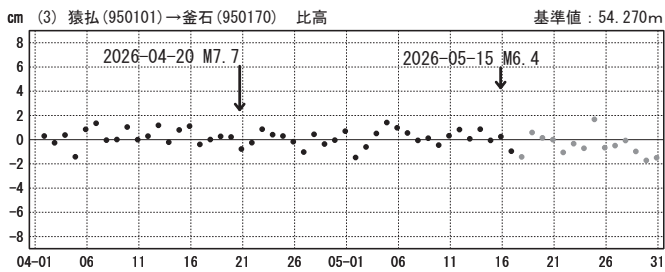
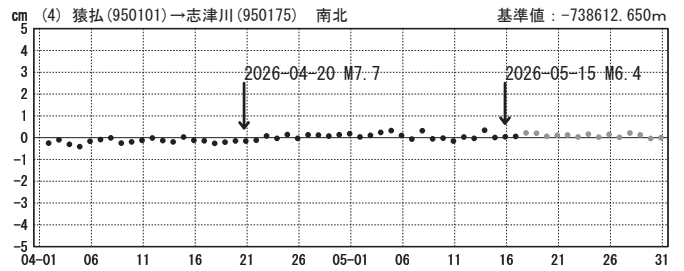
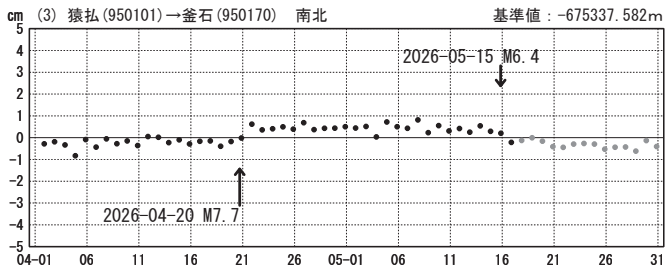
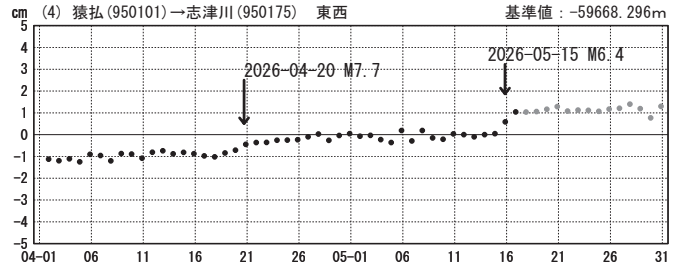
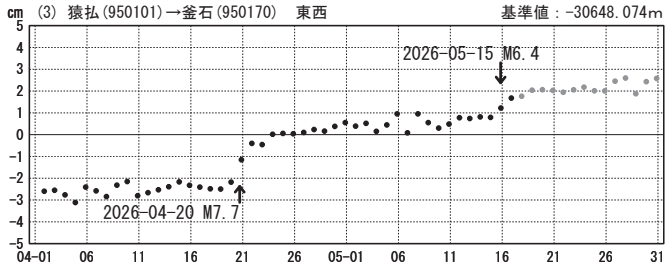


●--- [F5.1:最終解] ●--- [R5.1:速報解]

成分変化グラフ

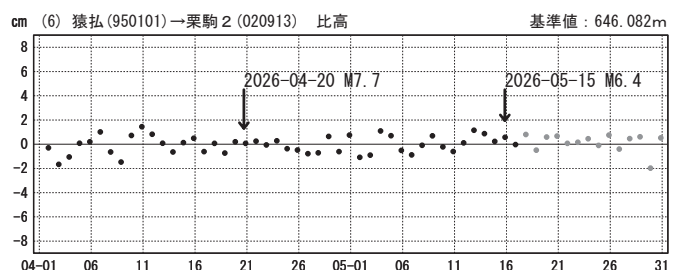
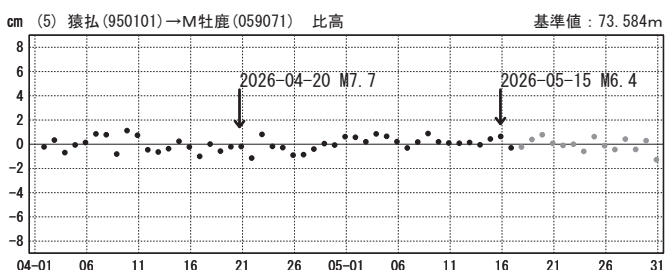
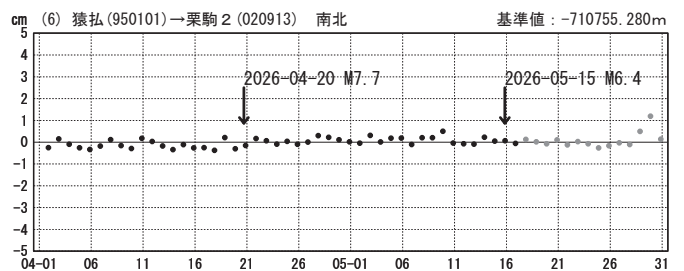
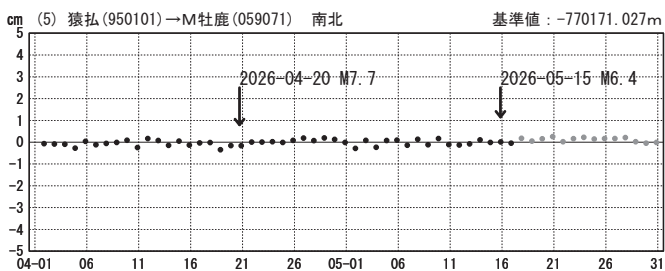
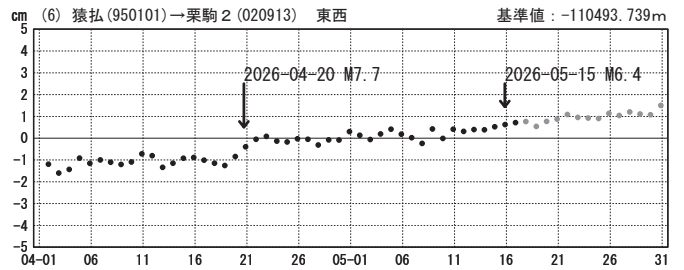
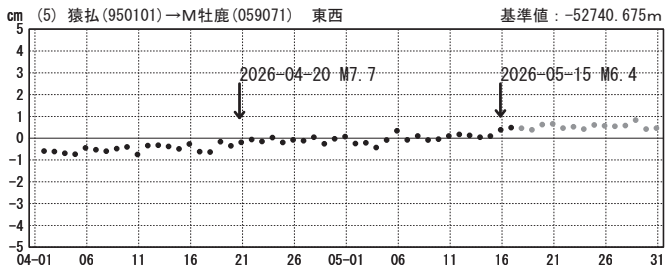
期間：2026-04-01～2026-05-31 JST

期間：2026-04-01～2026-05-31 JST



期間：2026-04-01～2026-05-31 JST

期間：2026-04-01～2026-05-31 JST



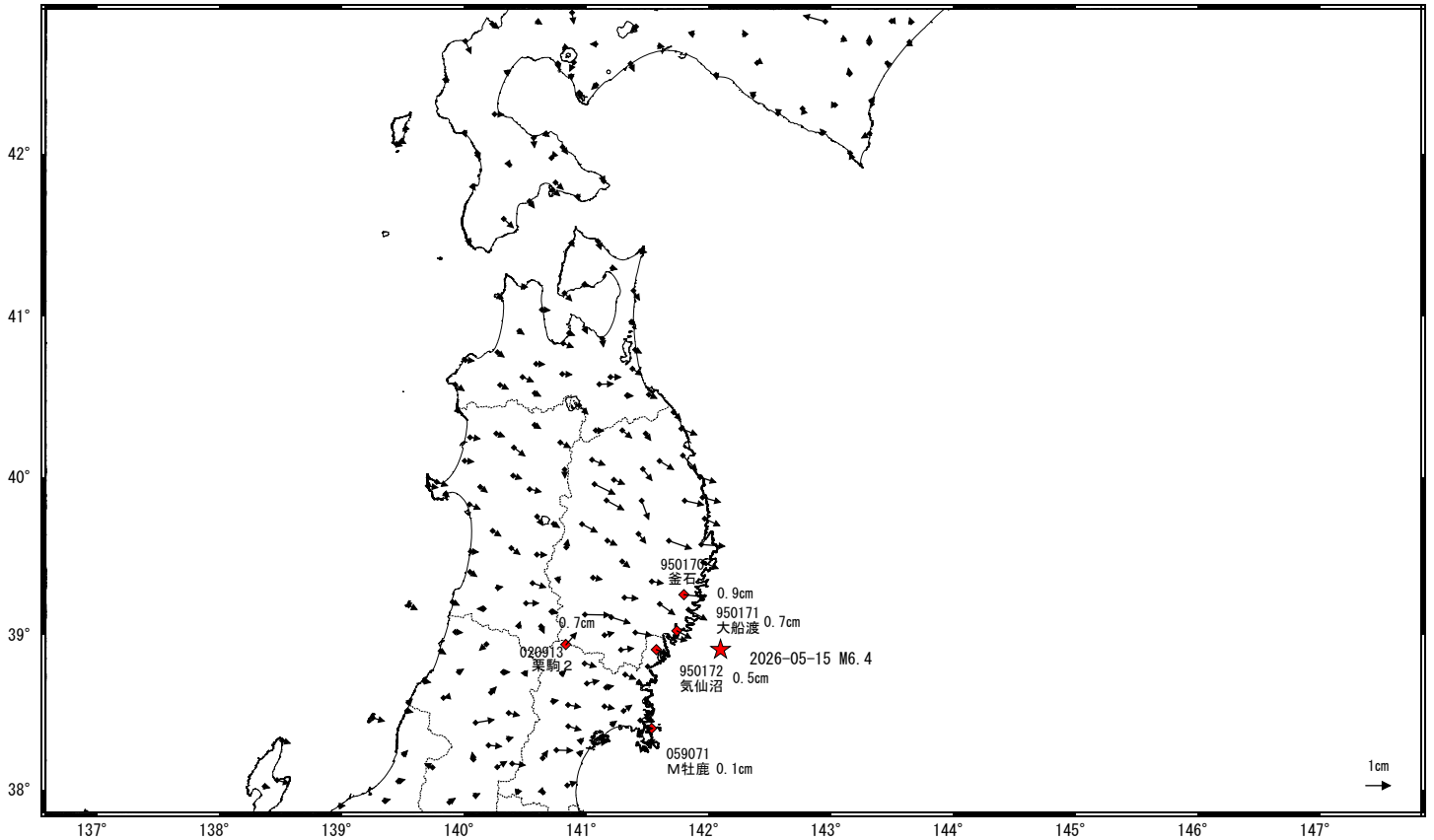
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

宮城県沖の地震(5月15日 M6.4)後の観測データ(暫定)

この地震後も余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間:2026-05-16~2026-05-16[R5.1:速報解]
比較期間:2026-05-29~2026-05-31[R5.1:速報解]



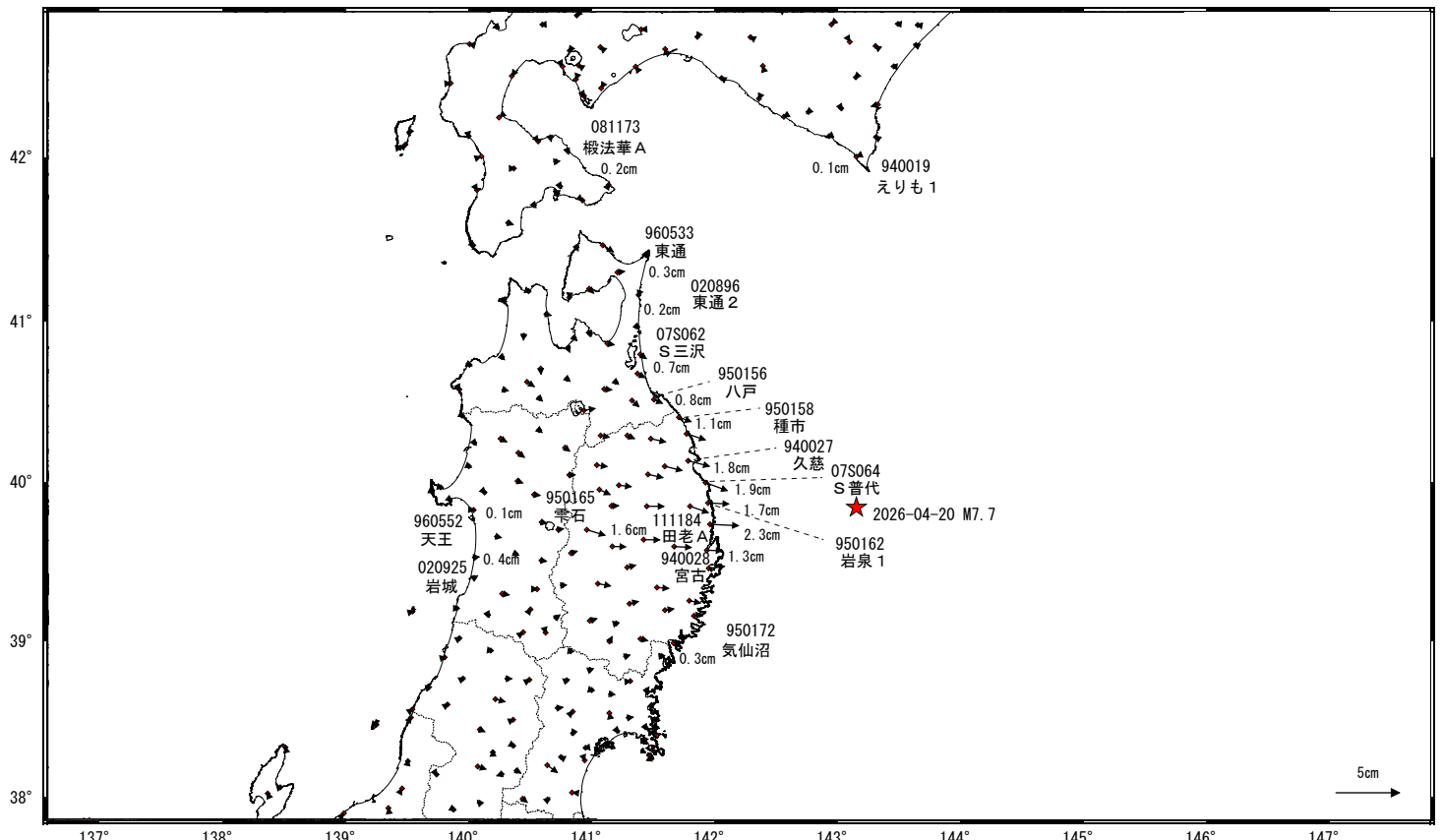
★震央 ◆観測局(グラフ表示)
☆固定局:猿払(950101)(北海道)

三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

地殻変動(水平)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21[R5.1:速報解]
比較期間:2026-05-03~2026-05-05[R5.1:速報解]

第428回地震調査委員会資料



★震央 ◆観測局(グラフ表示)
☆固定局:猿払(950101)(北海道)

宮城県沖の地震（5月15日 M6.4）の震源断層モデル（暫定）

- ・ 基準期間：2026年5月12日 09:00—2026年5月15日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 比較期間：2026年5月16日 09:00—2026年5月19日 08:59 JST（速報（R5.1）解）
- ・ 固定局：猿払（950101）

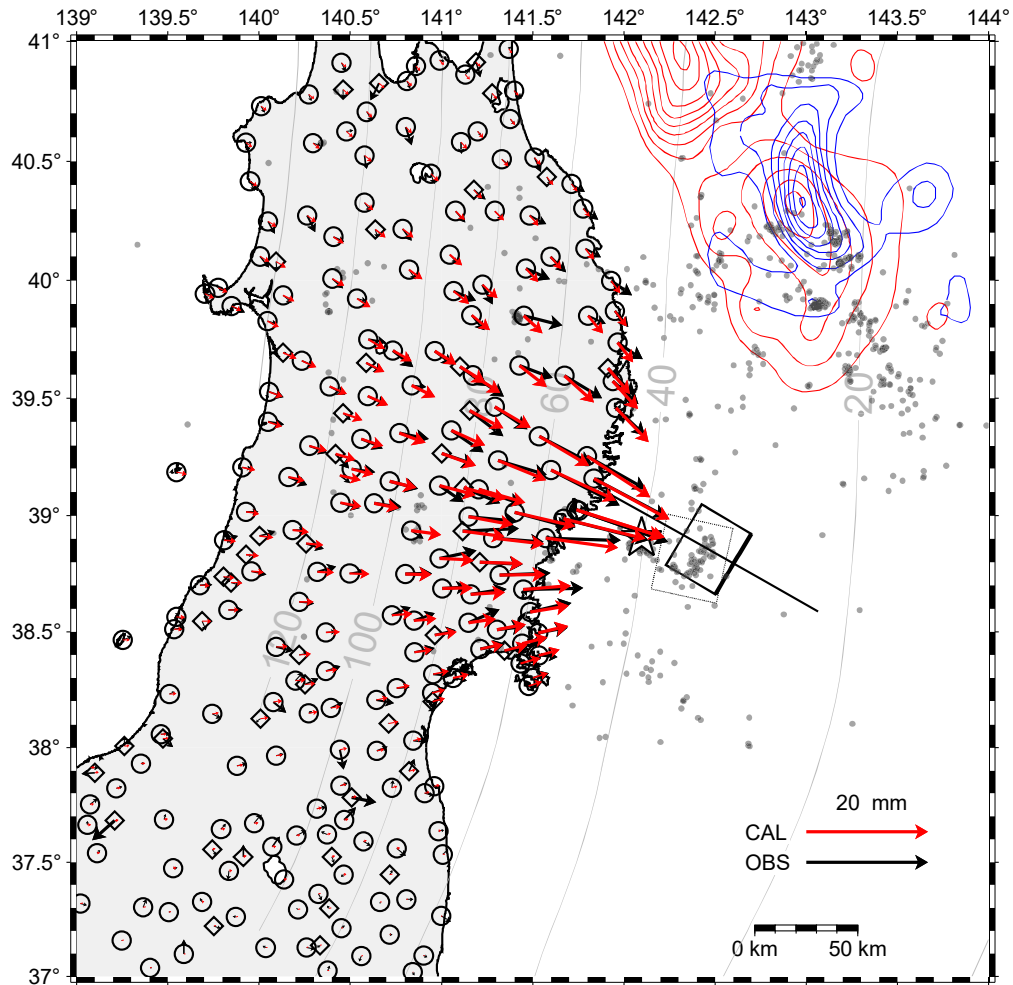


図1 推定された震源断層モデル。矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。矢印は水平方向の観測値（黒）及び計算値（赤）。丸が電子基準点、菱形が民間等電子基準点*を表す。赤等値線は1968年十勝沖地震、青等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスペリティ（永井・他，2001）。破線の四角は、2015年5月13日に発生した地震（M6.8）の矩形断層モデル。星印は今回の地震の震央、灰色の点は本震発生以降から5/18 23:59（JST）までに発生した震源（気象庁一元化震源を使用）。

*民間等電子基準点：株式会社NTTドコモ

表1 推定された震源断層モデルパラメータ

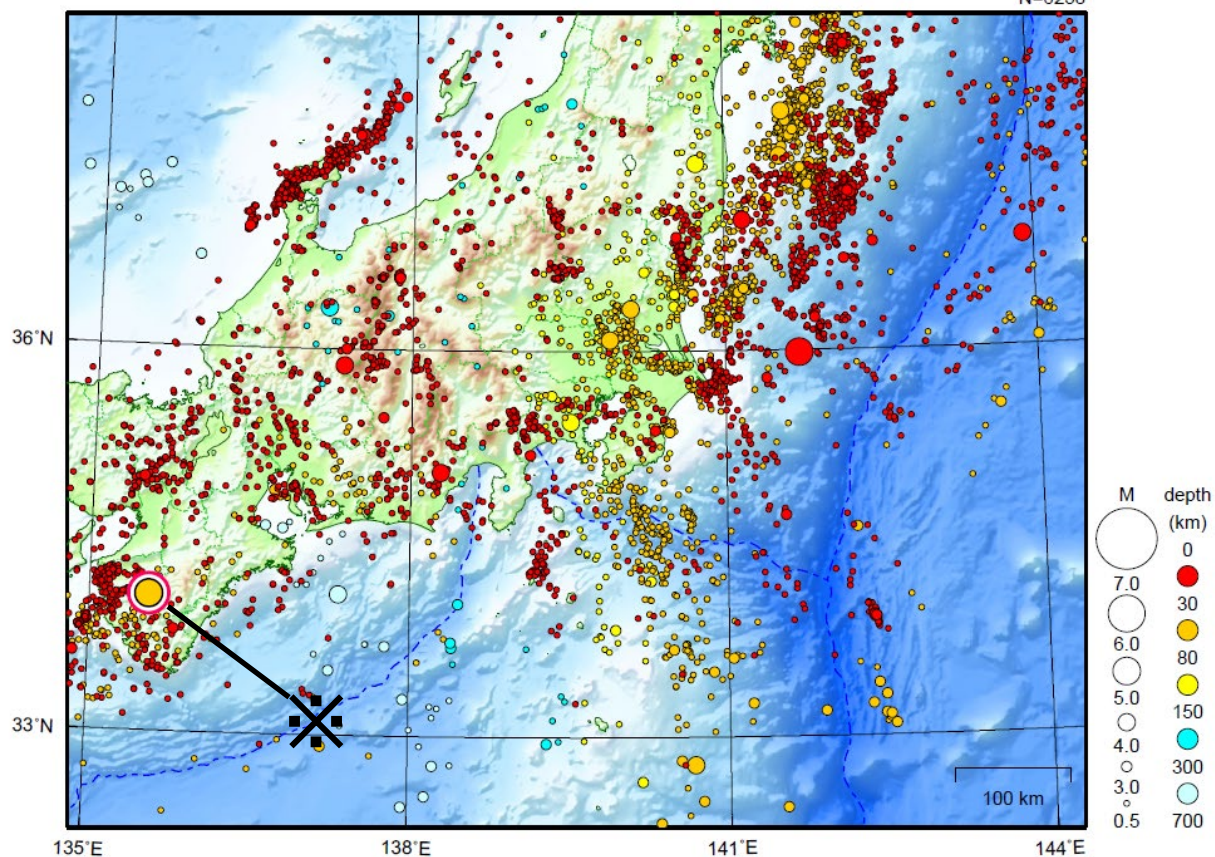
緯度 [°]	経度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	すべり角 [°]	すべり量 [m]	M _w
38.921 (0.04)	142.699 (0.04)	28.0 (3.5)	33.5 (3.4)	32.6 (3.2)	209.3 (13.1)	32.9 (3.2)	101.5 (16.3)	0.53 (0.08)	6.84 (0.02)

- ・ VRは85.6%。
- ・ マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いてモデルパラメータを推定した。
- ・ 位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1σ）を示す。
- ・ M_wと断層長さ・断層幅の関係をスケーリング則（Strasser et al. 2010）で拘束。
- ・ M_wの計算においては、剛性率を40 GPaと仮定。

関東・中部地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00

N=6258



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

(図の範囲外)

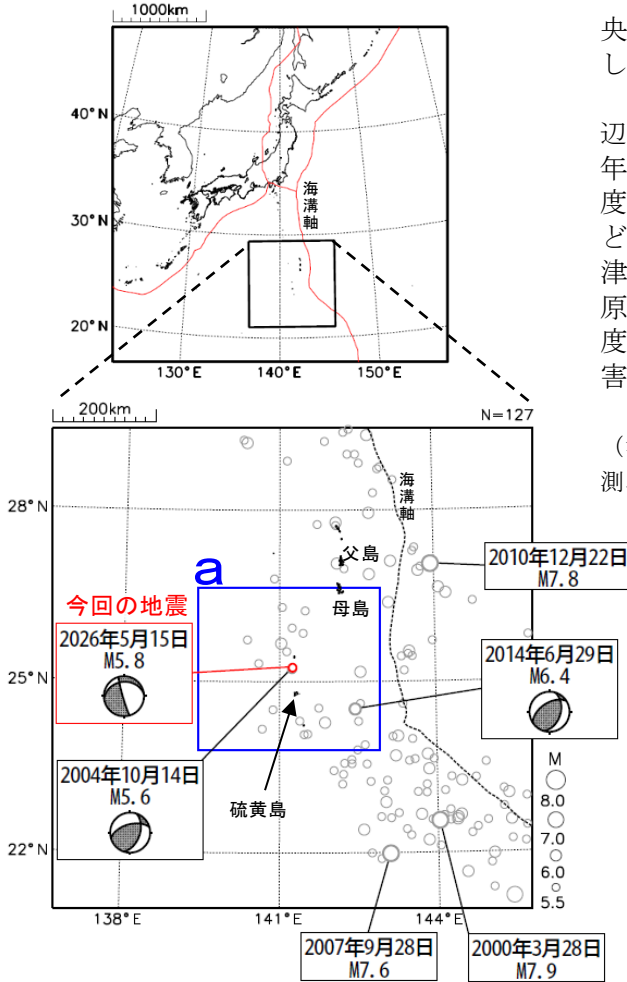
5月15日に硫黄島近海でM5.8の地震(最大震度3)が発生した。

※で示した地震については近畿・中国・四国地方の資料を参照。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

5月15日 硫黄島近海の地震

震央分布図
(2000年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～300km、 $M \geq 5.5$)
2026年5月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解



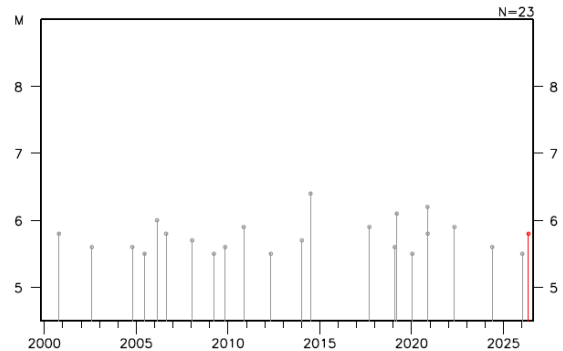
2026年5月15日00時34分に硫黄島近海で $M 5.8$ の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型である。

2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

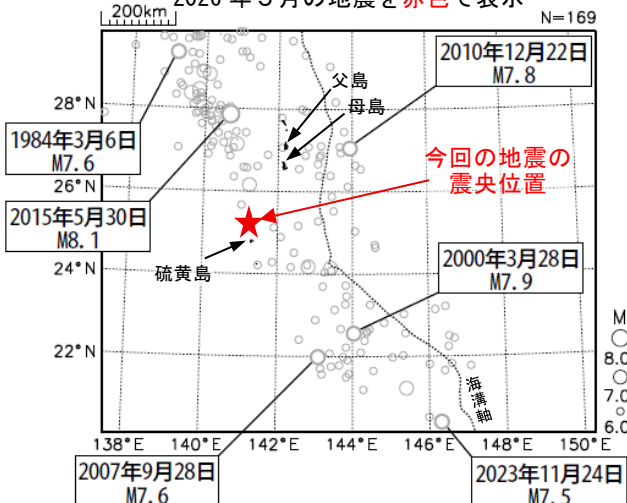
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、 $M 7.0$ 以上の地震が時々発生している。2010年12月22日には父島近海で $M 7.8$ の地震（最大震度4）が発生し、八丈島八重根で0.5m^(注)の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015年5月30日には小笠原諸島西方沖の深さ682kmで $M 8.1$ の地震（最大震度5強）が発生し、関東地方で軽傷者8人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

(注) 巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は0.1m）。

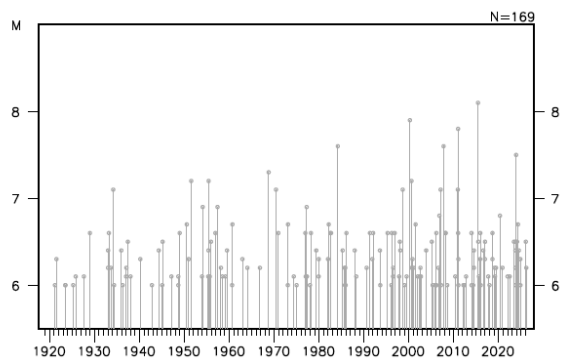
領域a内のM-T図



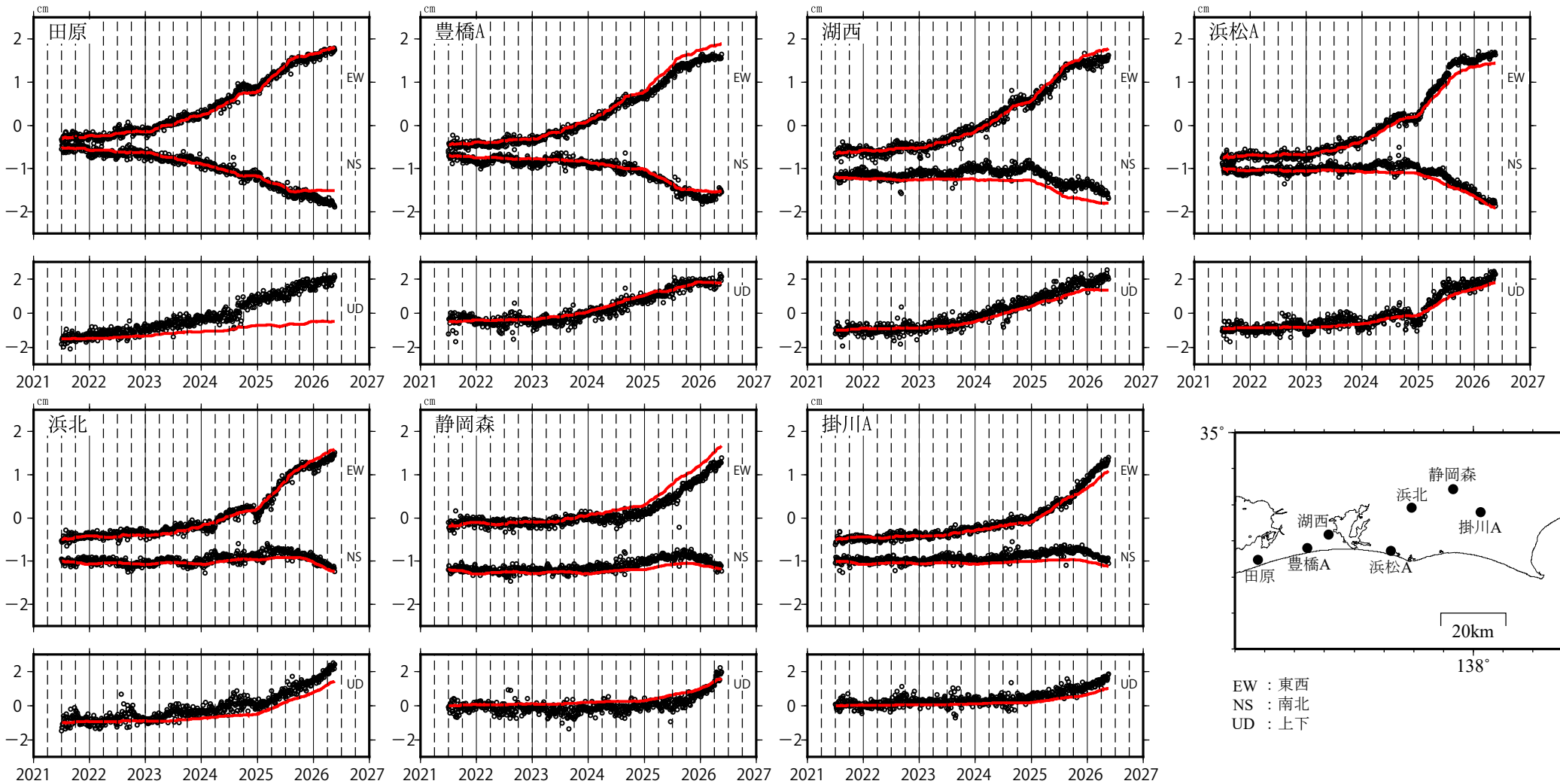
震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)
2026年5月の地震を赤色で表示



左図の領域内のM-T図



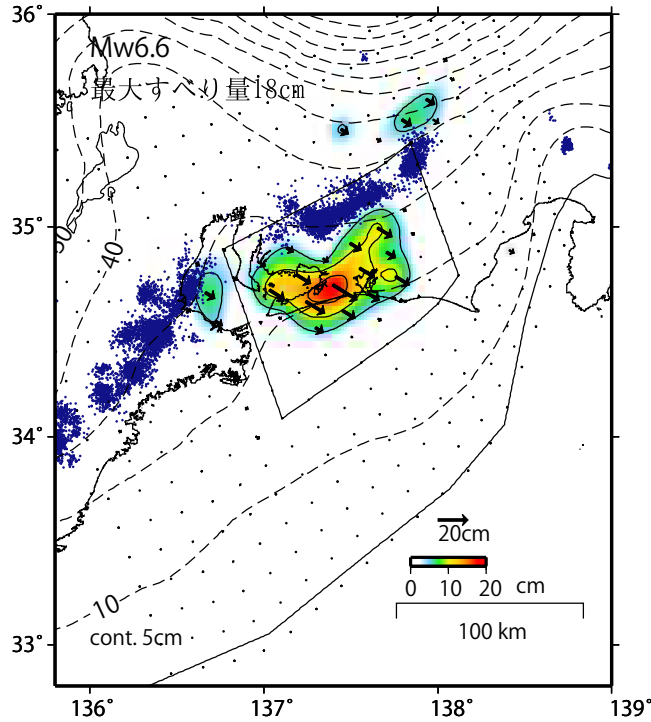
東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン



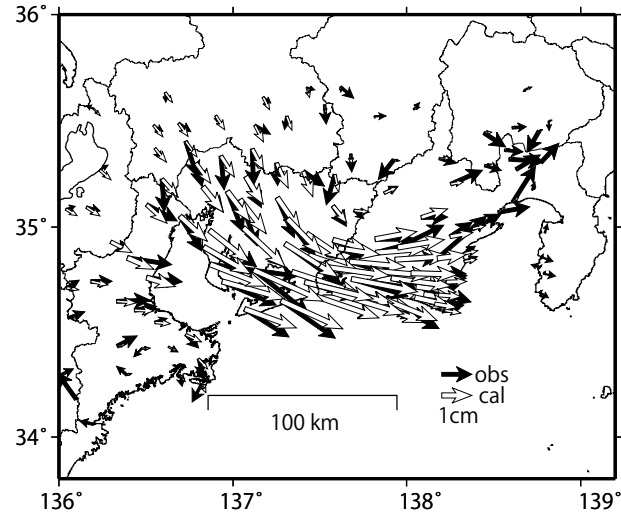
*豊橋Aのアンテナ交換（4月30日）に伴うオフセット補正は未対応。

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

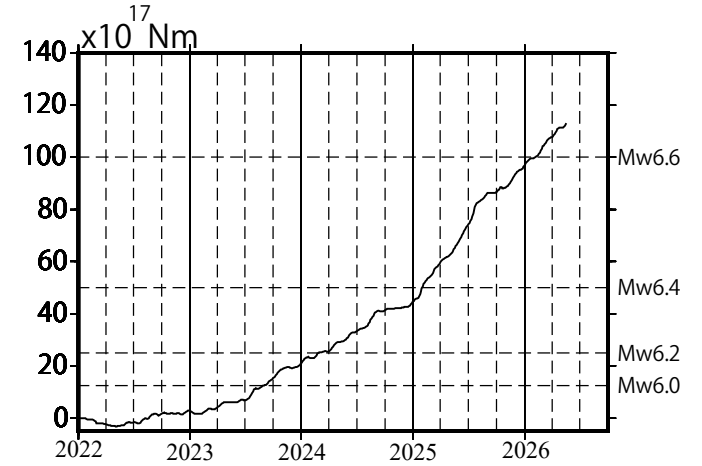
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-05-19)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-05-19)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2021-07-01/2026-05-02) + R5.1解(2026-05-03/2026-05-19)

トレンド期間: 2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2022-01-01/2026-05-19)

モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

解析での補正内容

* 電子基準点の保守等による変動

* 共通誤差成分を推定

* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)

* 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動

* 令和6年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)

* 短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動(2017-01/2026-05-05: 気象庁カタログによる)

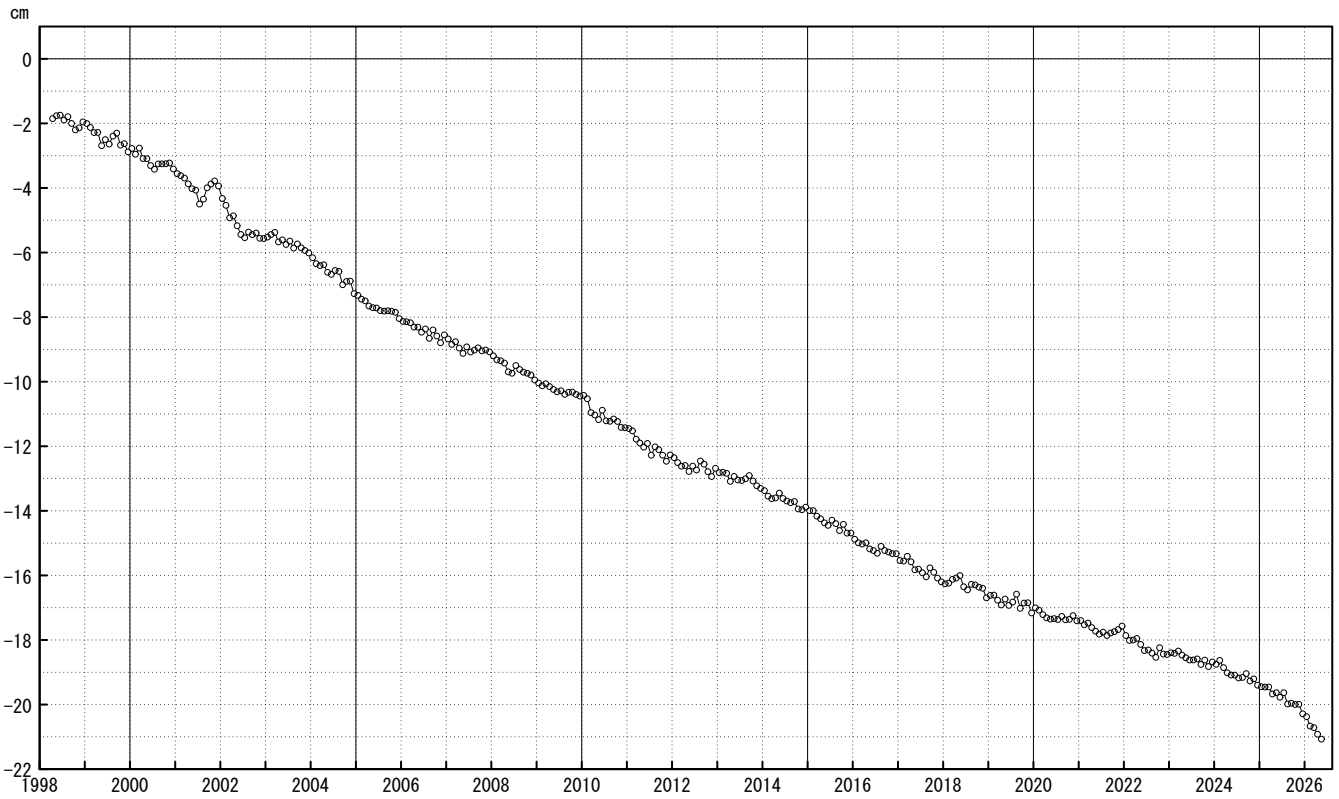
固定局: 三隅

御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

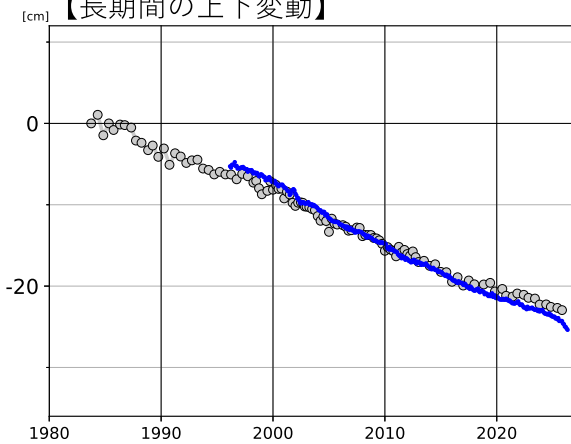
・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1 : 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 5 月 1 日~5 月 9 日の平均。

※ 1 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。

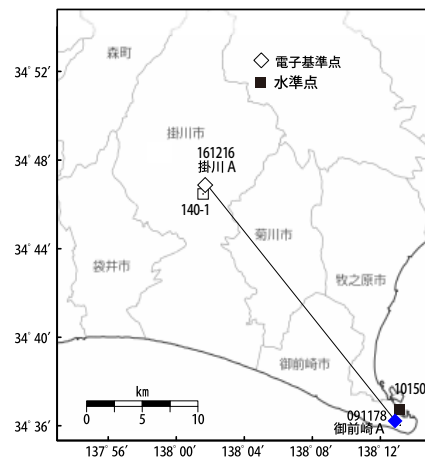
※ 2 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。

※ 3 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。

【長期間の上下変動】



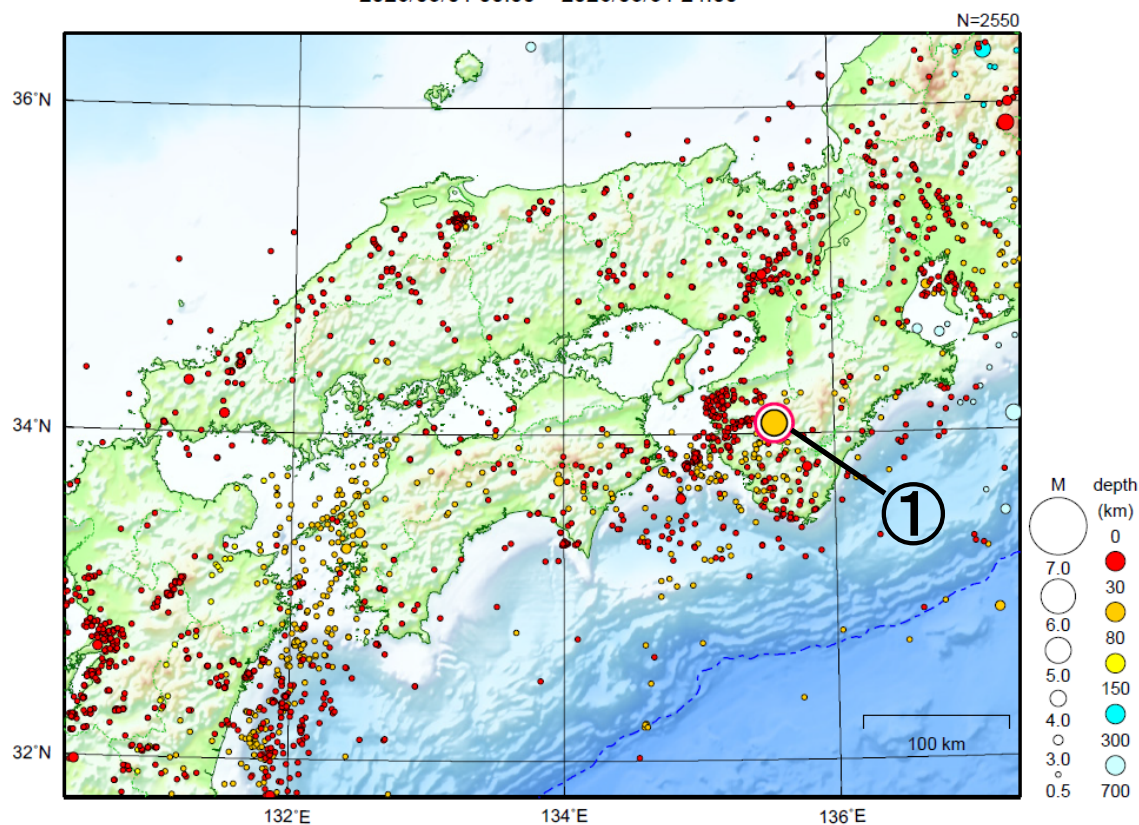
「固定局：掛川 A (161216)」



・ 青色のプロットは上記の GEONET による日々の座標値の月平均値。
・ 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している (固定：140-1)。

近畿・中国・四国地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

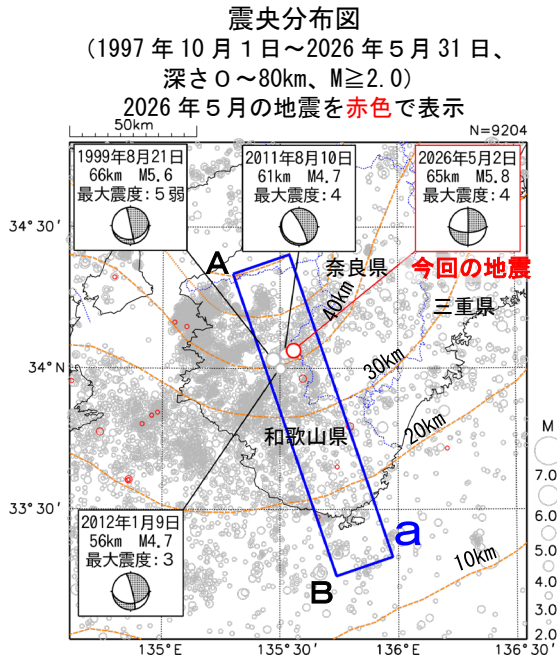
① 5月2日に和歌山県南部で M5.8 の地震(最大震度4)が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔奈良県〕である。

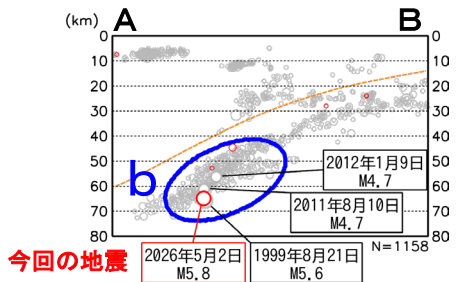
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

5月2日 和歌山県南部の地震

情報発表に用いた震央地名は「奈良県」である。

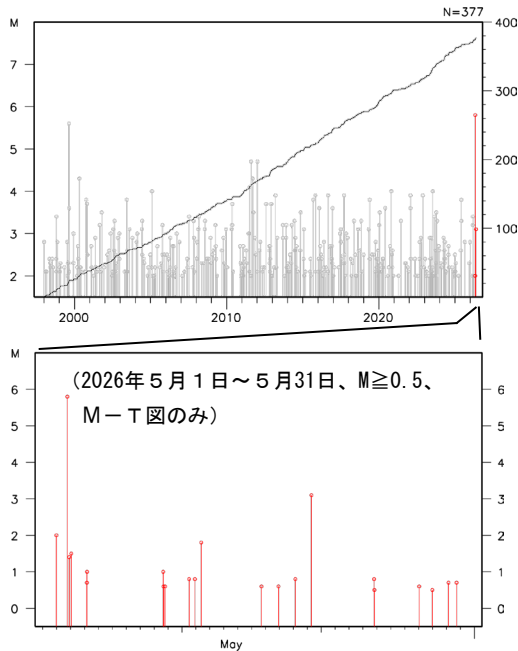


領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



橙色の破線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)、Nakajima and Hasegawa (2007) によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

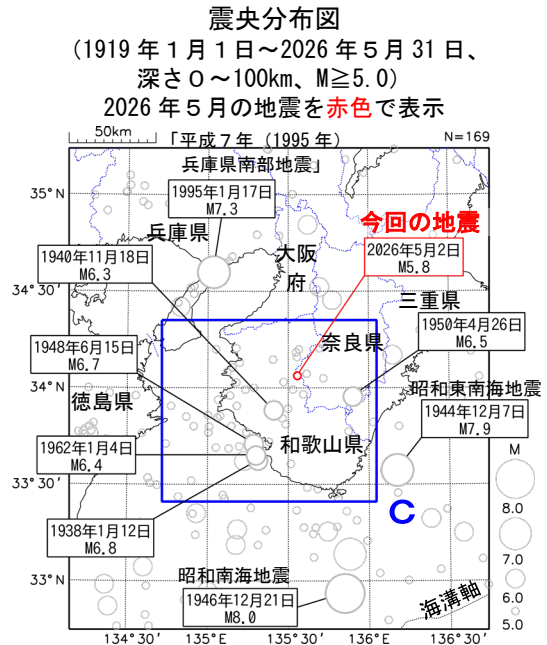
領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



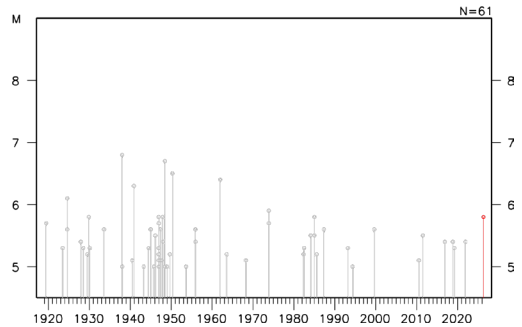
2026年5月2日18時28分に和歌山県南部の深さ65kmでM5.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、北東-南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M4.0以上の地震が時々発生しており、M5.0以上の地震は今回を含めて2回発生している。1999年8月21日のM5.6の地震では、最大震度5弱を観測した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1960年代にかけてM6.0以上の地震が時々発生していた。このうち、1948年6月15日に発生したM6.7の地震では、死者2人、負傷者33人、家屋倒壊60棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。



領域 c 内の M-T 図

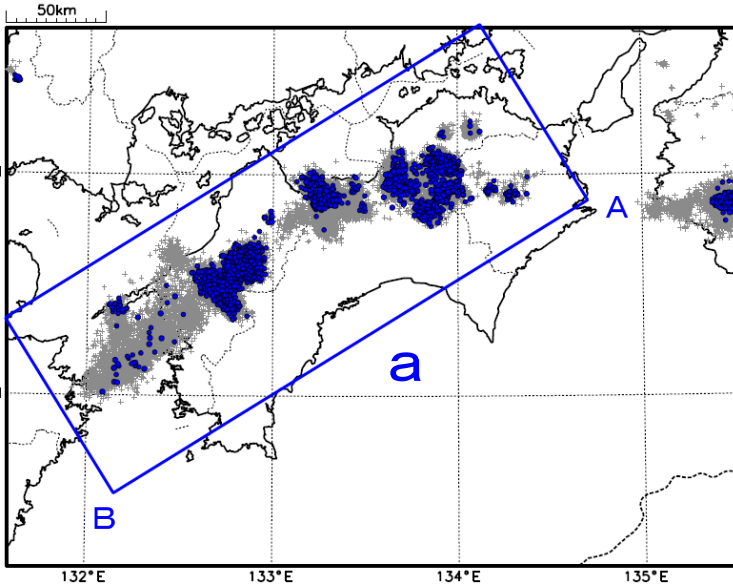


四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

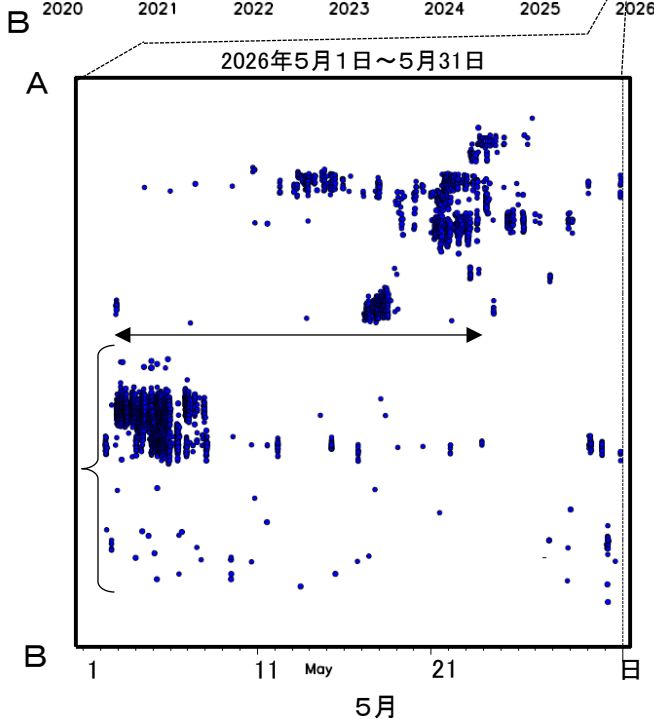
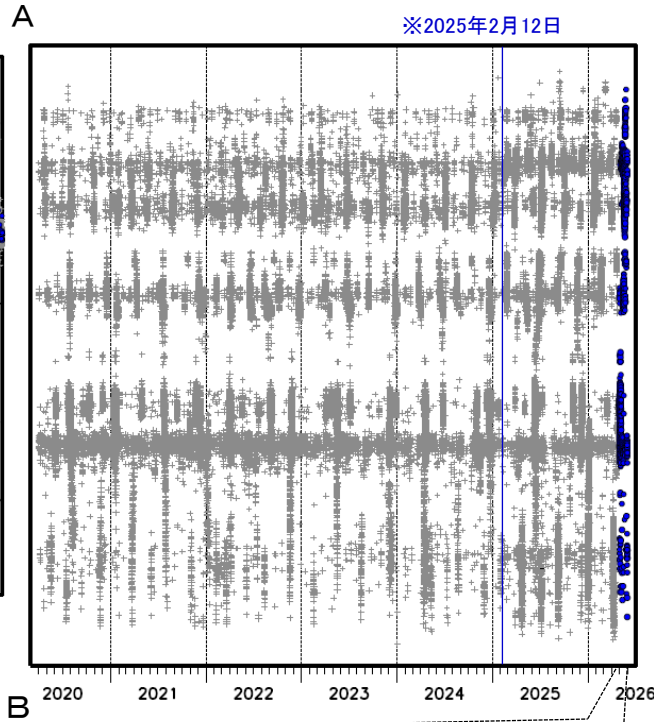
5月2日から5月23日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。
深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計・傾斜計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2020年4月1日~2026年5月31日、
深さ0~60km、Mすべて)
灰:2020年4月1日~2026年4月30日、
青:2026年5月1日以降



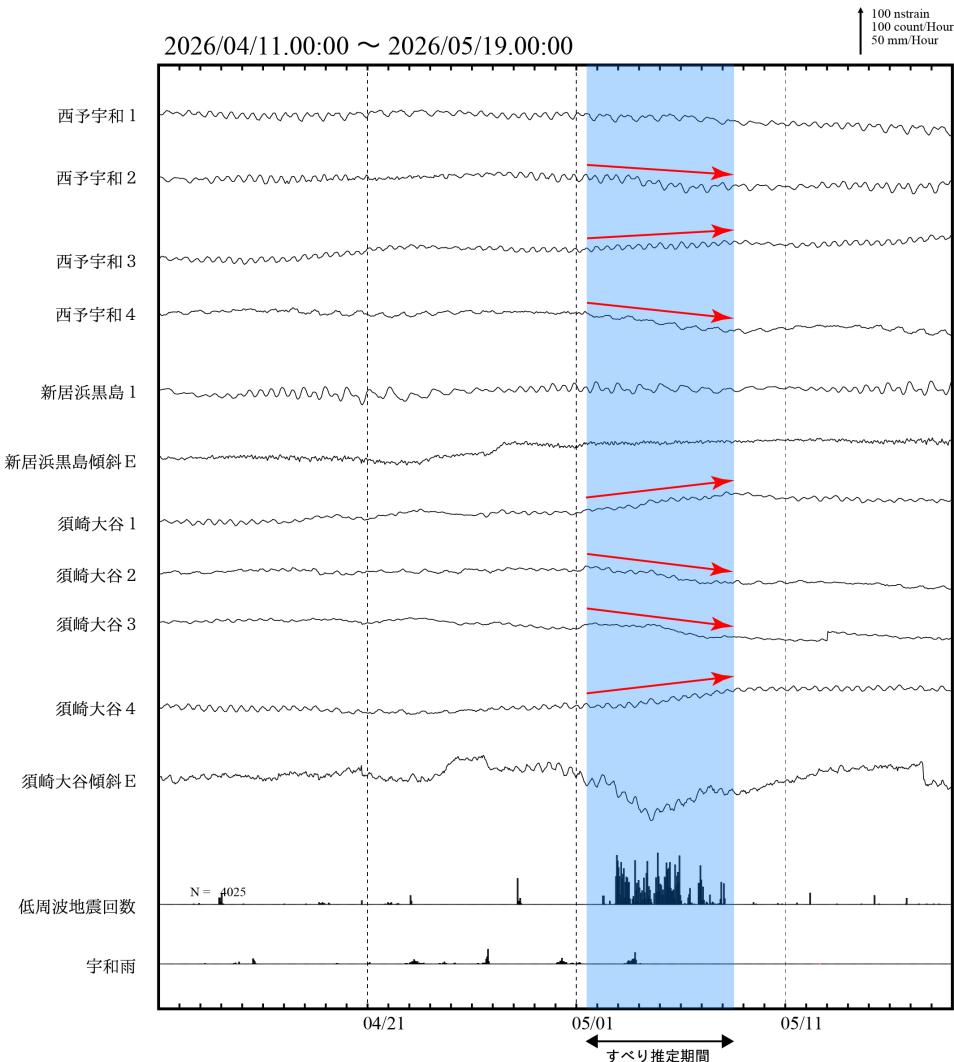
領域a内の時空間分布図(A-B投影)



※2025年2月12日から、深部低周波地震(微動)の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

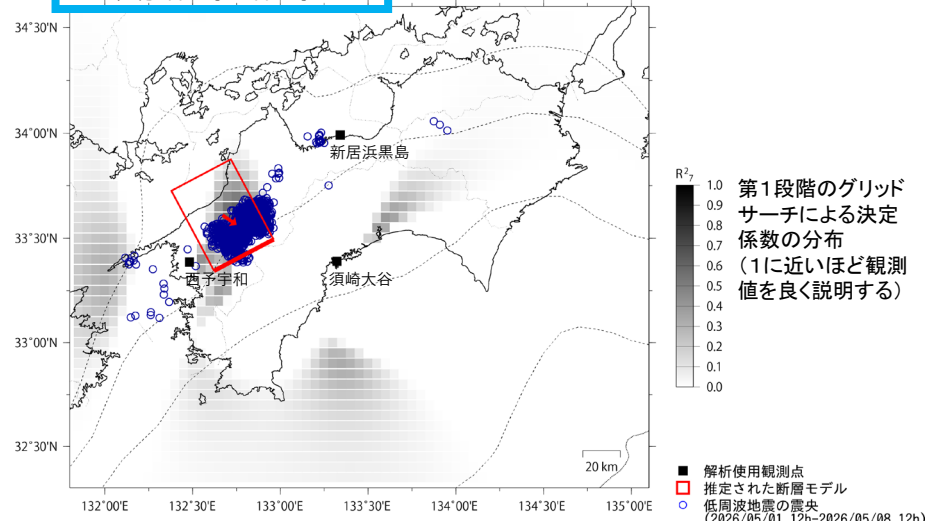
四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(5月1日~8日)

愛媛県から高知県で観測されたひずみ変化

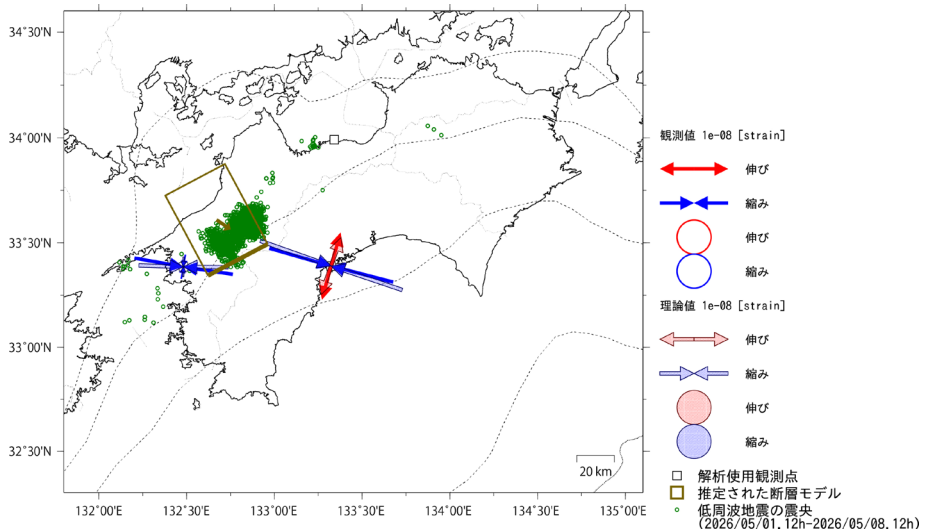


西予宇和、新居浜黒島及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。
 解析に使用したチャンネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャンネルに赤矢印を描画している。
 低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。

2026年5月1日12時~8日12時 Mw5.9



Lat:33.61° Lon:132.67° Depth:25.75km Strike:242° Dip:6° Rake:118°
 Length:35.6km Width:48.3km Slip:12.30mm Mw:5.89 R²:0.931

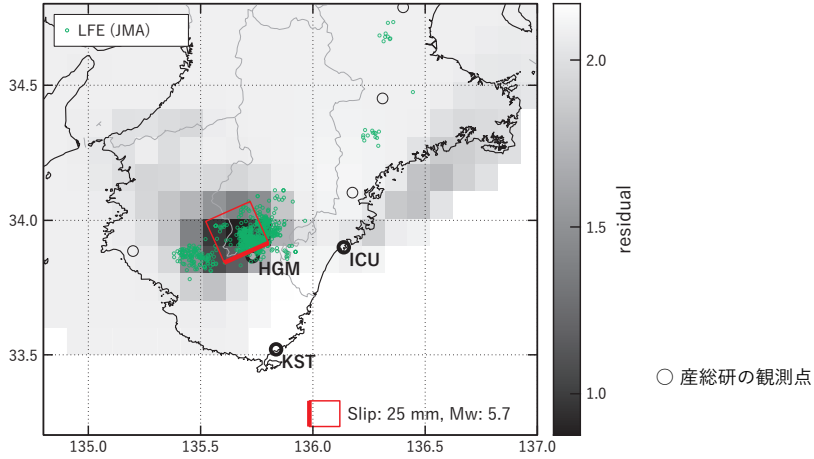


左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

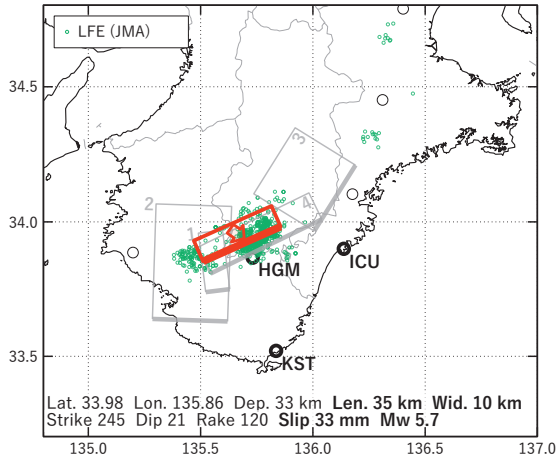
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

[A] 2026/05/15-21AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

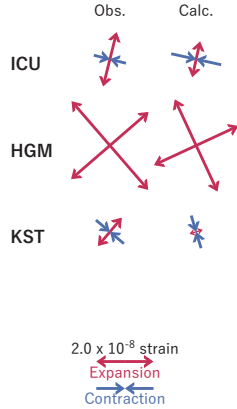


図3 2026/05/15-21AMの歪・傾斜変化(図2[A])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
 (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。
 1: 2025/12/01-02 (Mw 5.2), 2: 2026/01/26-31 (Mw 5.4), 3: 2026/02/09PM-12AM (Mw 5.6),
 4: 2026/02/12PM-15AM (Mw 5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

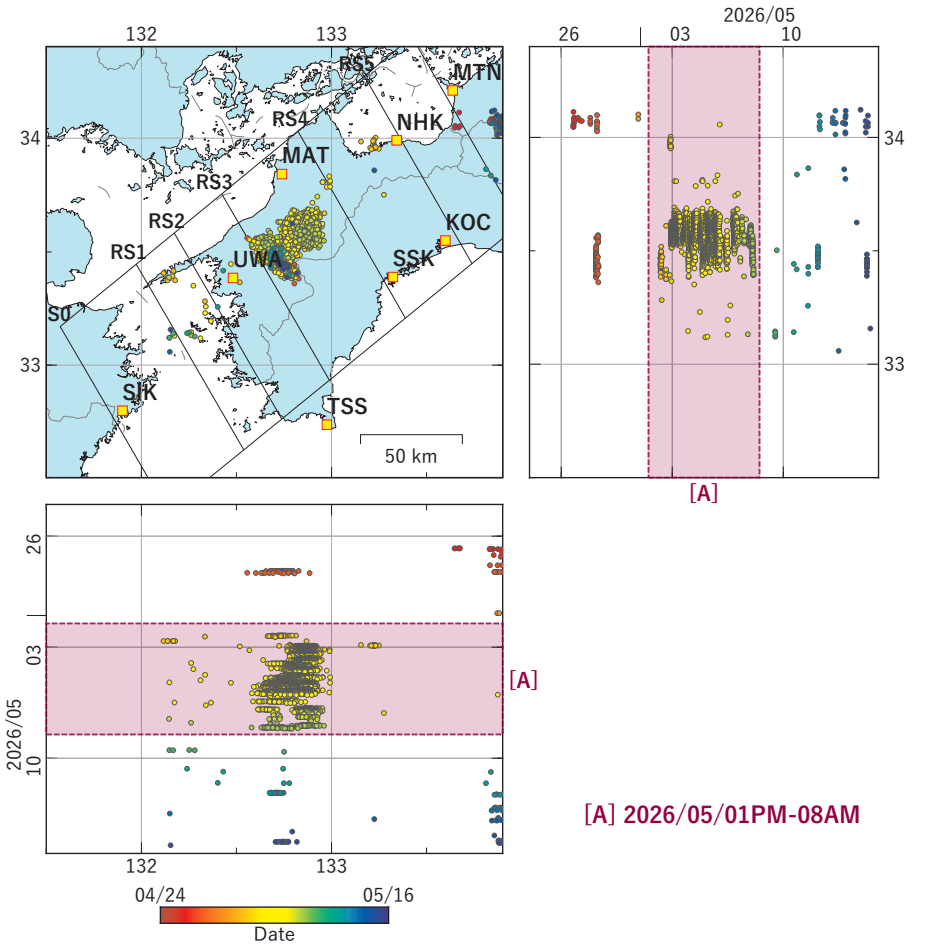


図4 四国西部における深部低周波地震の時空間分布図(2026/04/24 00:00:00-2026/05/16 00:00:00 (JST))。気象庁カタログによる。

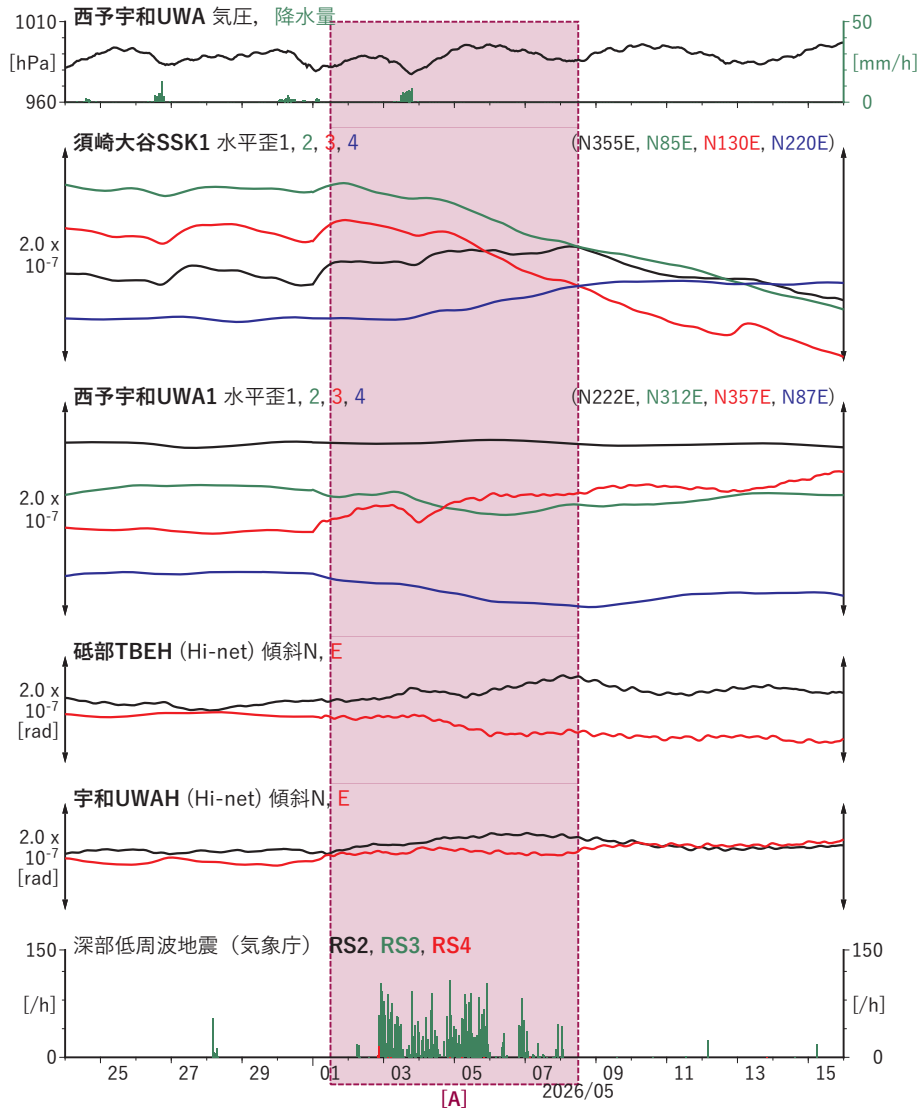
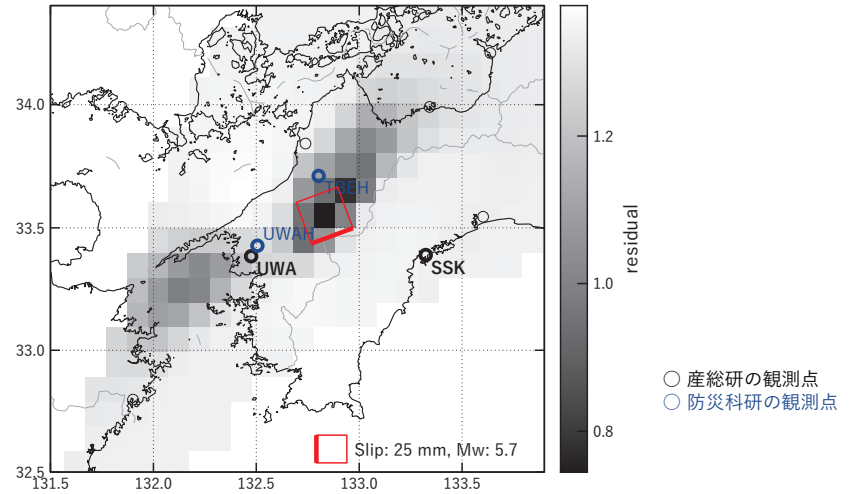


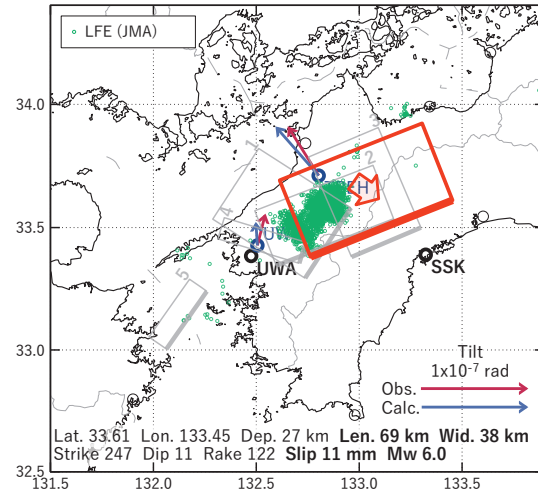
図5 歪・傾斜の時間変化 (2026/04/24 00:00-2026/05/16 00:00 (JST))

[A] 2026/05/01PM-08AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

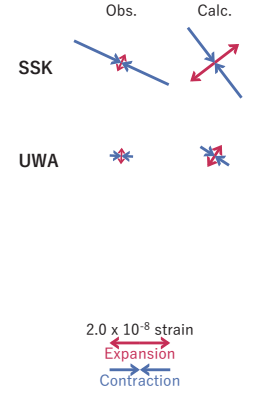


図6 2026/05/01PM-08AMの歪・傾斜変化 (図5[A]) を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
 (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。
 1: 2025/06/10-14 (Mw 6.0), 2: 2025/12/03-06 (Mw 5.5), 3: 2025/12/07-12 (Mw 5.7), 4: 2026/01/03-05 (Mw 6.0), 5: 2026/04/06-09 (Mw 5.8)
 (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

- 5月2～8日頃に四国西部において、活発な活動がみられた。
- 5月18～26日頃に四国東部において、活発な活動がみられた。

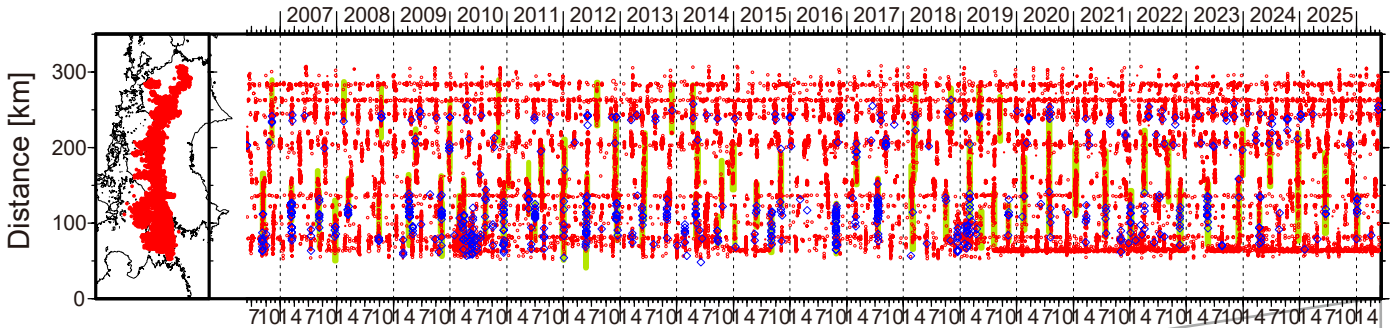


図1. 四国における2006年6月～2026年6月1日までの深部低周波微動の時空間分布(上図). 赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は

周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である. 黄緑色太線は, これまでに検出された短期的スローリップイベント (SSE) を示す. 下図は2026年5月を中心とした期間の拡大図である. 5月2～8日頃には愛媛県西部において活発な活動がみられ, やや西方向への活動域の拡大がみられた. 5月18～26日頃には愛媛・香川・徳島県境付近から徳島県東部において, 活発な活動がみられた. この活動は, 香川・徳島県境付近で開始し, その後やや南西方向への活動域の拡大がみられたのち, 21日頃から活動が活発化し, 東西両方向への活動域の拡大がみられた. 5月17～18日頃には愛媛県東部において, 小規模な活動がみられた. 5月12日頃には徳島県中部において, ごく小規模な活動がみられた.

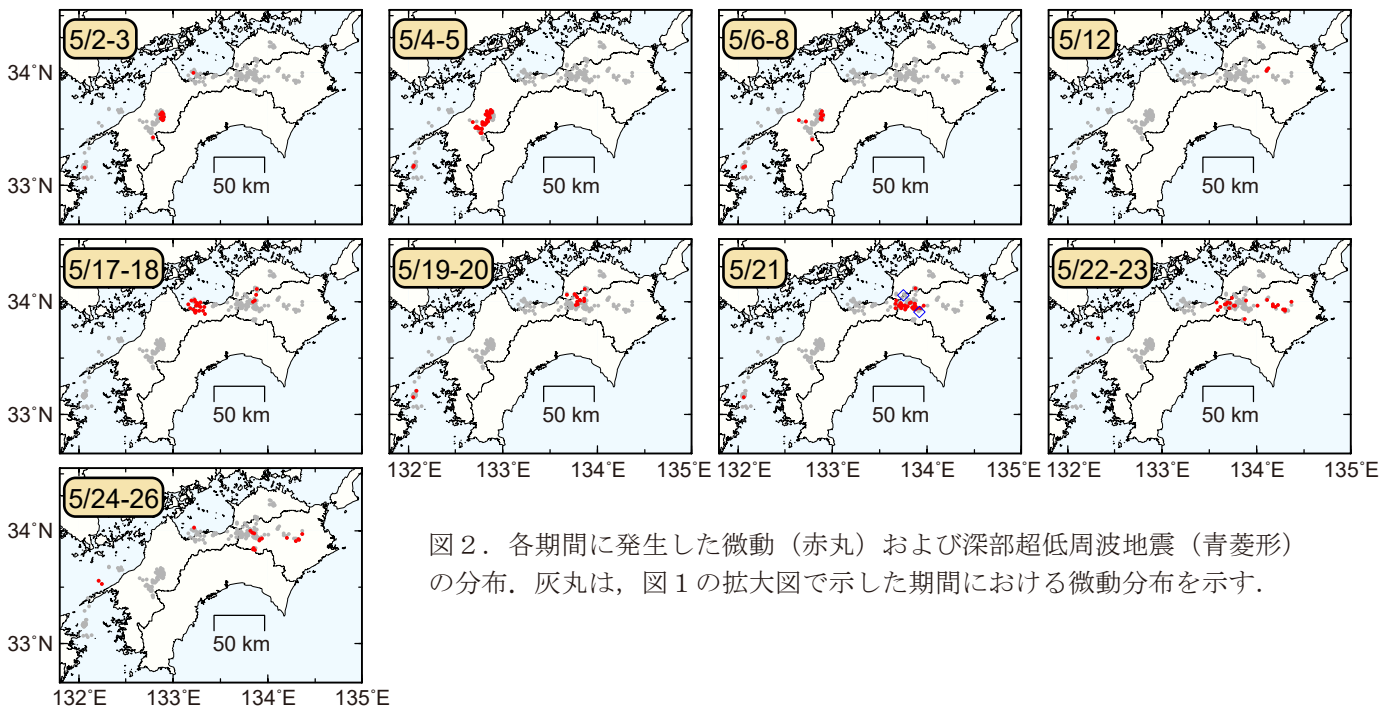
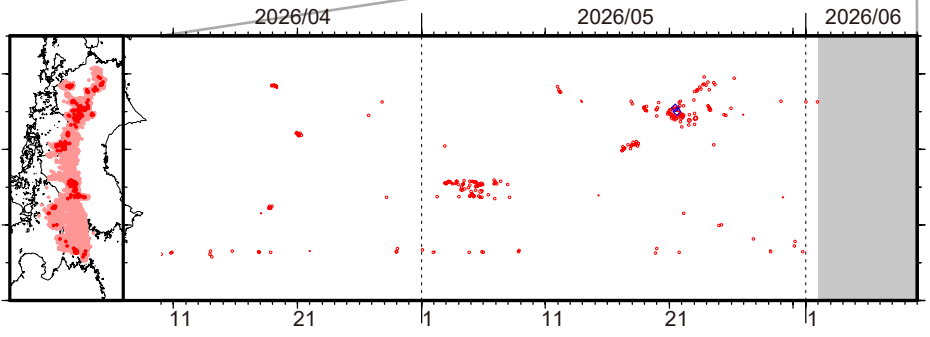
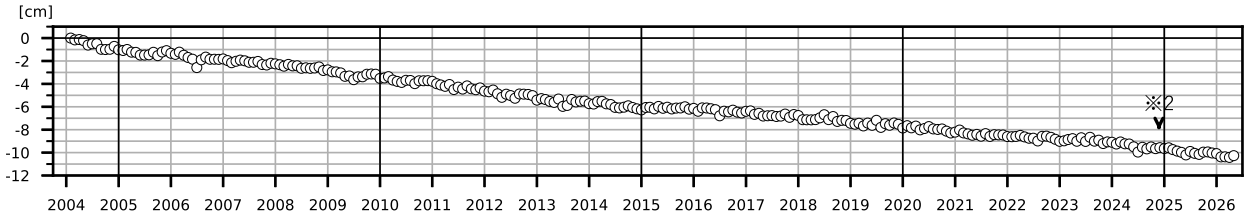


図2. 各期間に発生した微動(赤丸)および深部超低周波地震(青菱形)の分布. 灰丸は, 図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

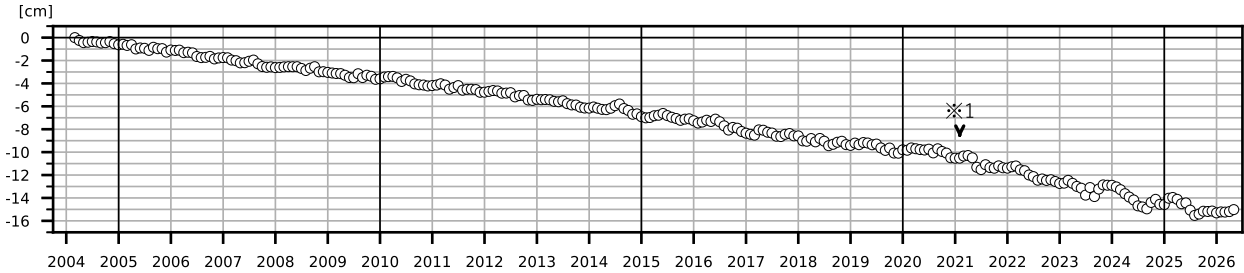
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

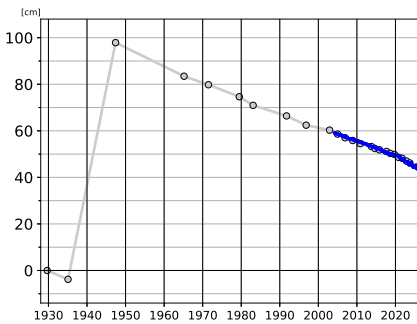
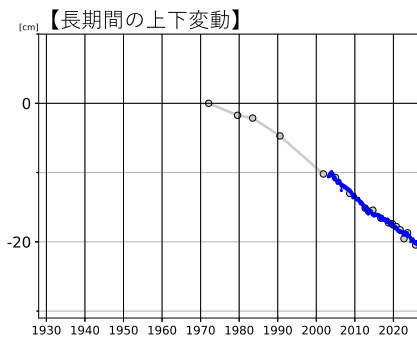
鵜殿 (950316) - P串本 (02P208)



安芸 (950442) - 室戸 4 (031122)



○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)



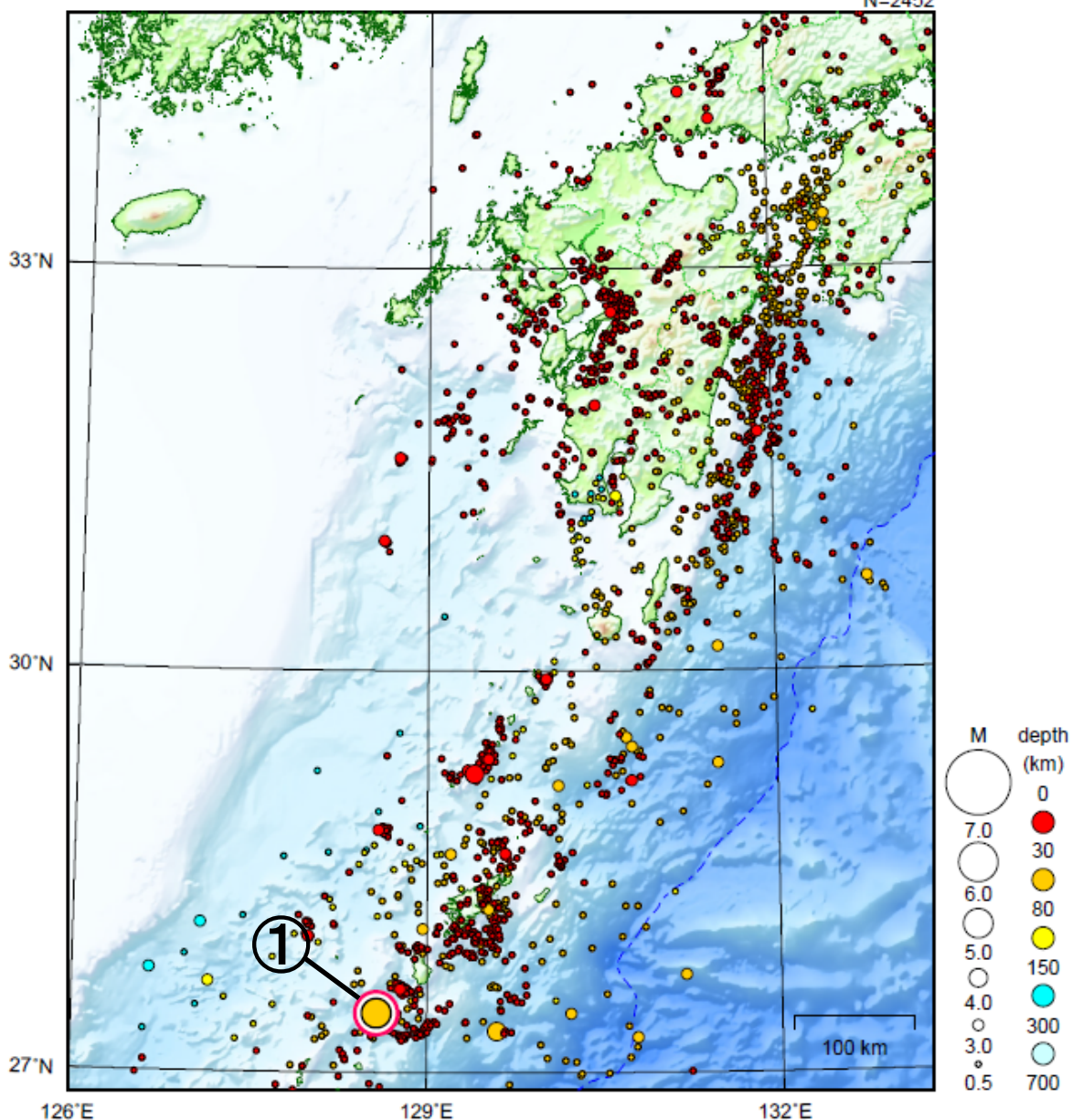
- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1 : 最終解) から計算した値の月平均値である。(最新のプロット点 : 5月1日~5月9日の平均値)
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している (固定 : J4810、5164)。

- ※ 1 2021年2月2日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。
- ※ 2 2024年11月25日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00

N=2452



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

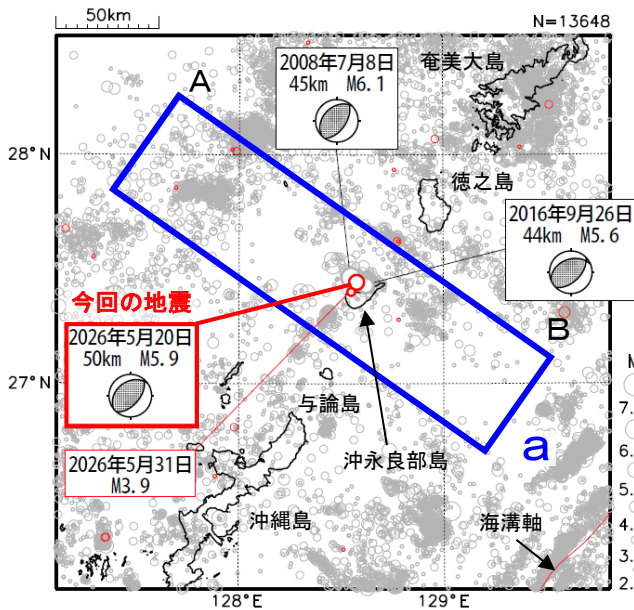
- ① 5月20日に沖縄本島近海で M5.9 の地震(最大震度 5 強)が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

5月20日 沖縄本島近海（沖永良部島付近）の地震

震央分布図

(1994年10月1日～2026年5月31日
深さ0～150km, $M \geq 2.5$)
2026年5月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解

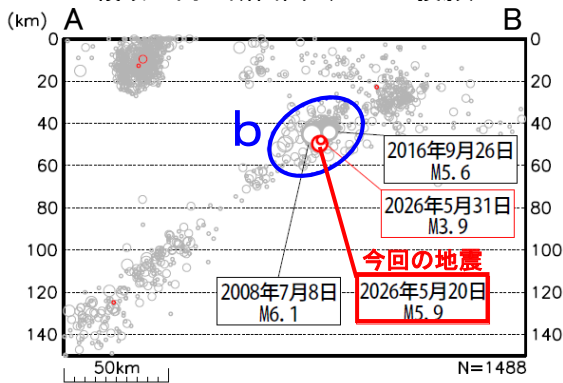


2026年5月20日11時46分に沖縄本島近海（沖永良部島付近）の深さ50kmでM5.9の地震（最大震度5強）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震により、負傷者1人、体育館の天井ウレタンボードの崩落、石垣の一部崩落などの被害が生じた（人的被害は5月28日17時00分現在、総務省消防庁による、その他は5月21日現在、鹿児島県による）。また、ほぼ同じ場所で31日10時58分にM3.9の地震（深さ48km、最大震度3）が発生した。

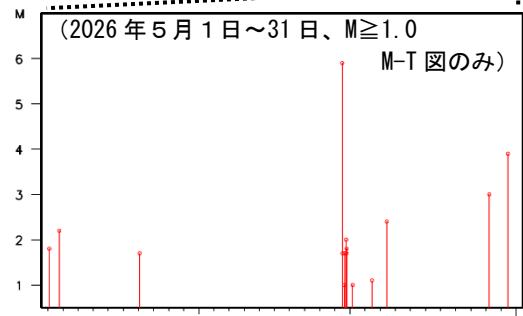
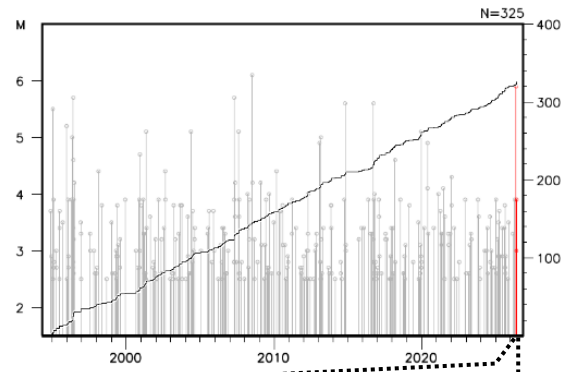
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。2016年9月26日にM5.6の地震（最大震度5弱）が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6程度の地震が時々発生しており、2008年7月8日の地震（M6.1、最大震度5弱）では、鹿児島県与論町のホテルで壁の落下、石膏ボードの破損など一部破損が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

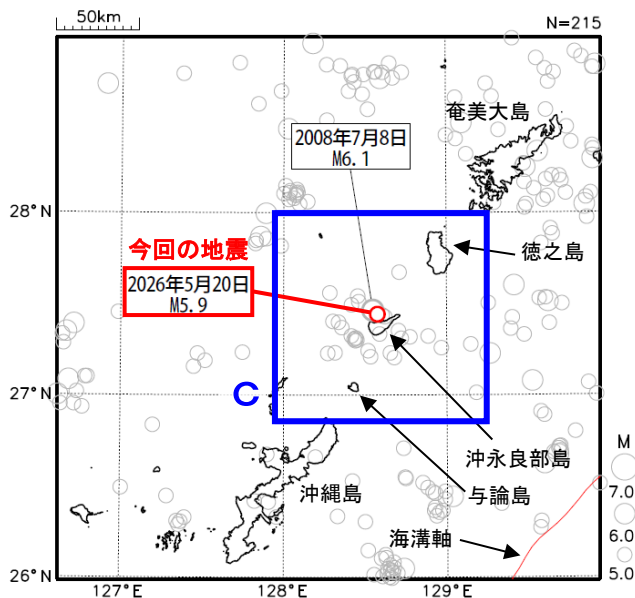
領域a内の断面図（A-B投影）



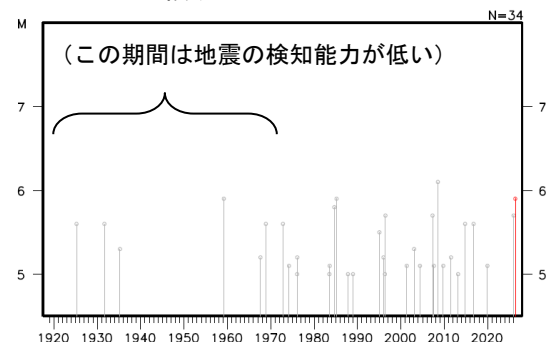
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～90km, $M \geq 5.0$)
2026年5月の地震を赤色○で表示



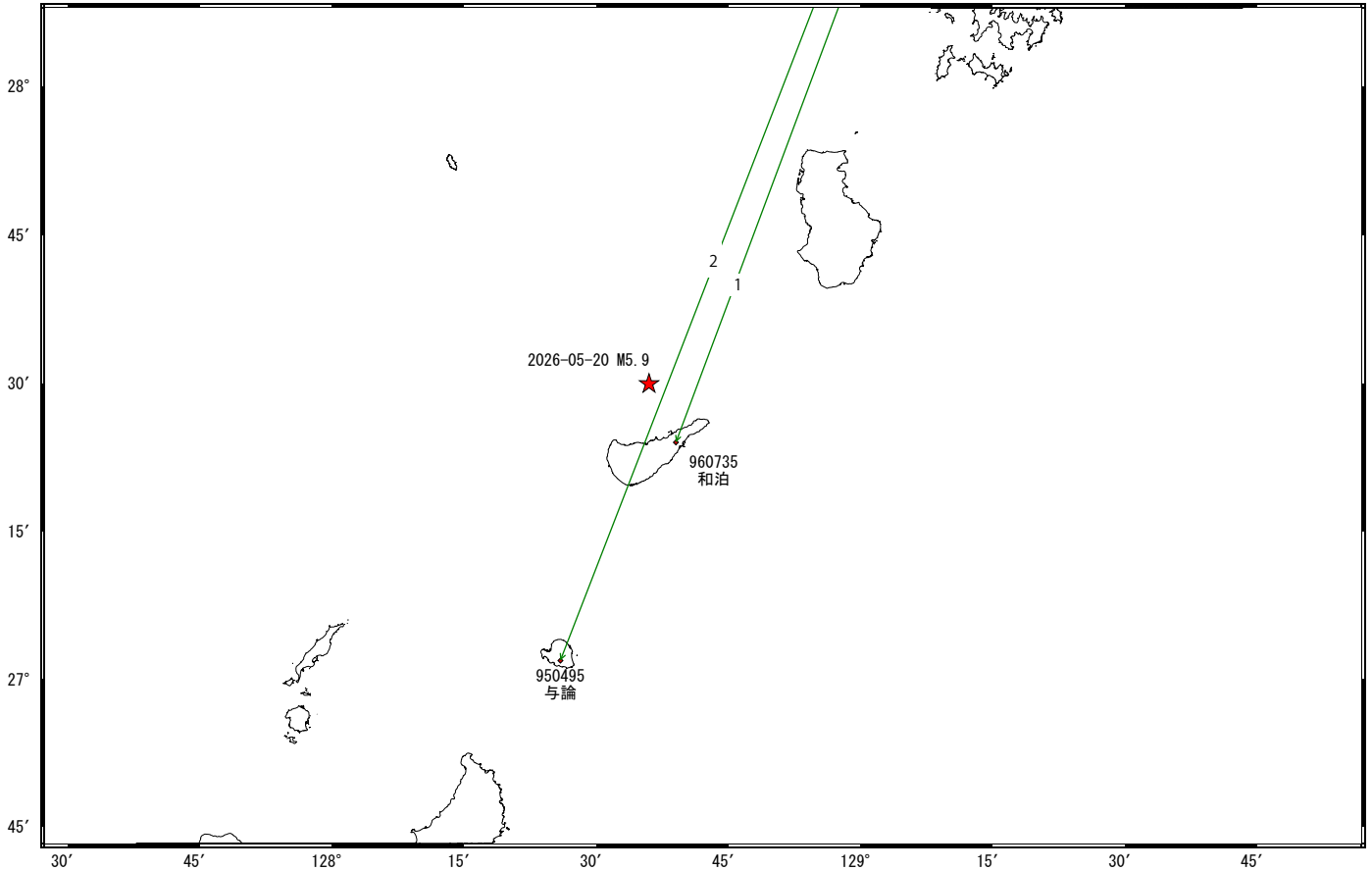
領域c内のM-T図



沖縄本島近海の地震(5月20日 M5.9)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

基線図



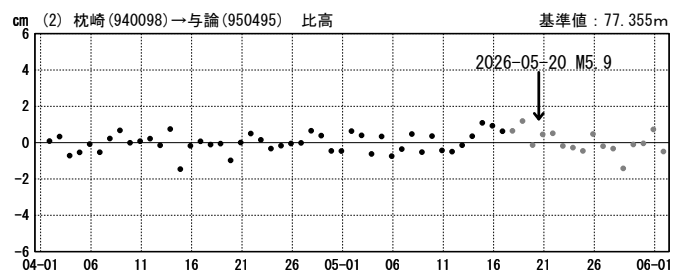
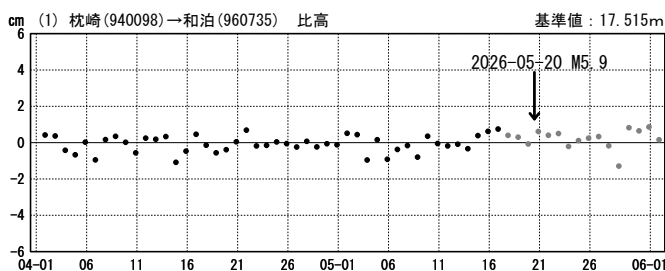
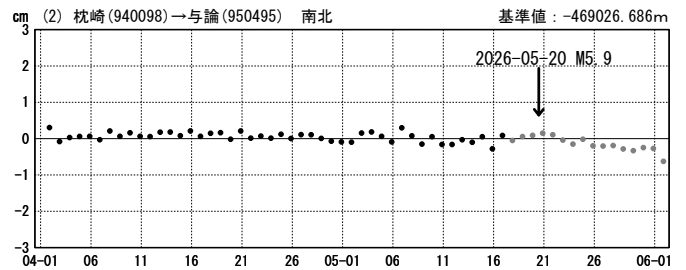
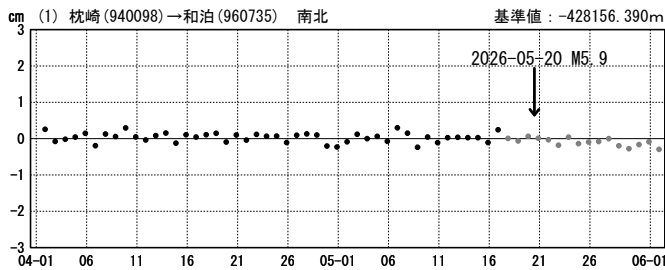
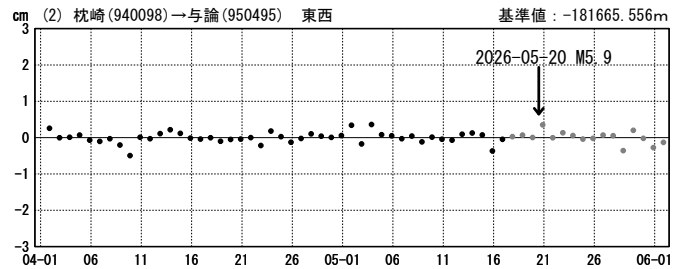
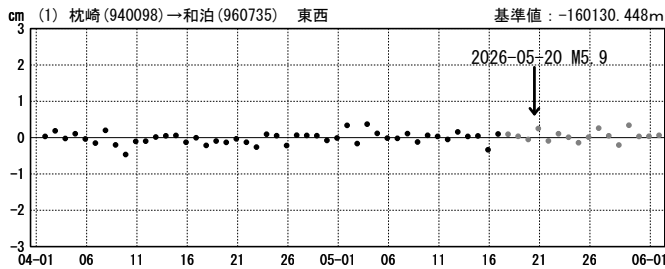
★ 震央

☆ 固定局: 枕崎(940098) (鹿児島県)

成分変化グラフ

期間: 2026-04-01~2026-06-01 JST

期間: 2026-04-01~2026-06-01 JST

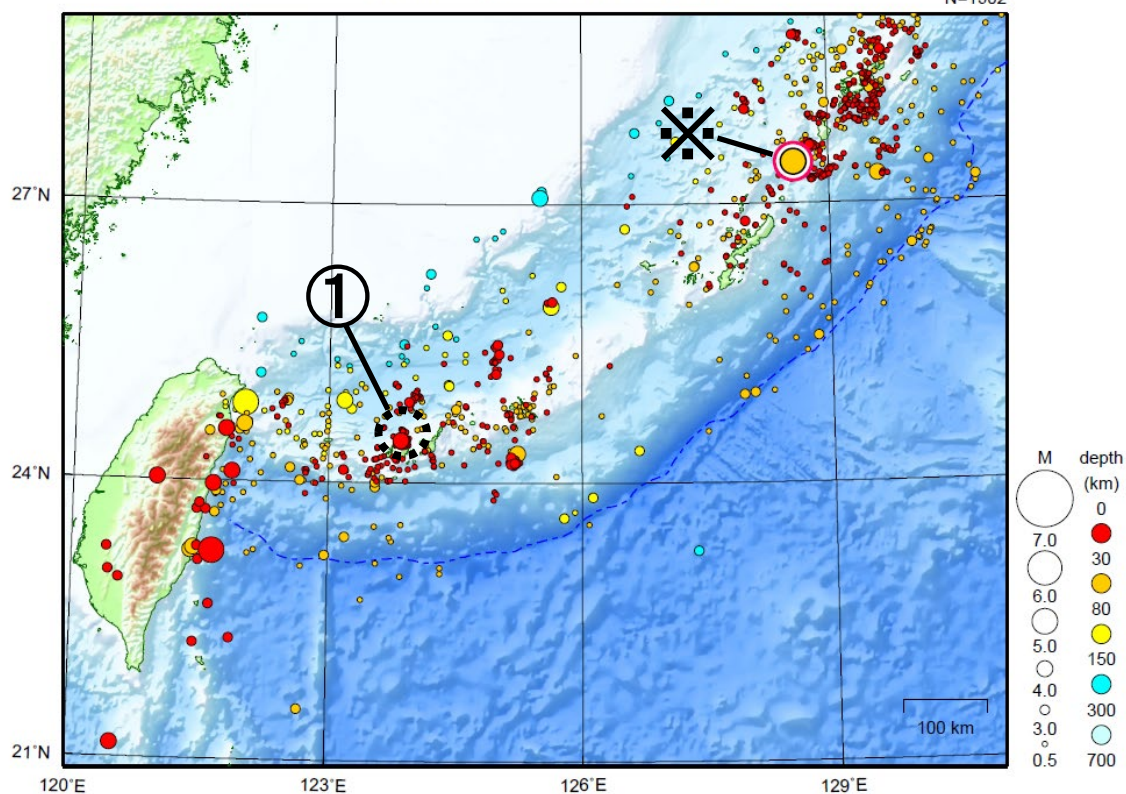


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

沖縄地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00

N=1902



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 西表島付近では、5 月中に震度 1 以上を観測した地震が 17 回（震度 3 : 2 回、震度 2 : 7 回、震度 1 : 8 回）発生した。このうち最大規模の地震は、10 日に発生した M4.9 の地震（最大震度 3）である。

※で示した地震については九州地方の資料を参照。

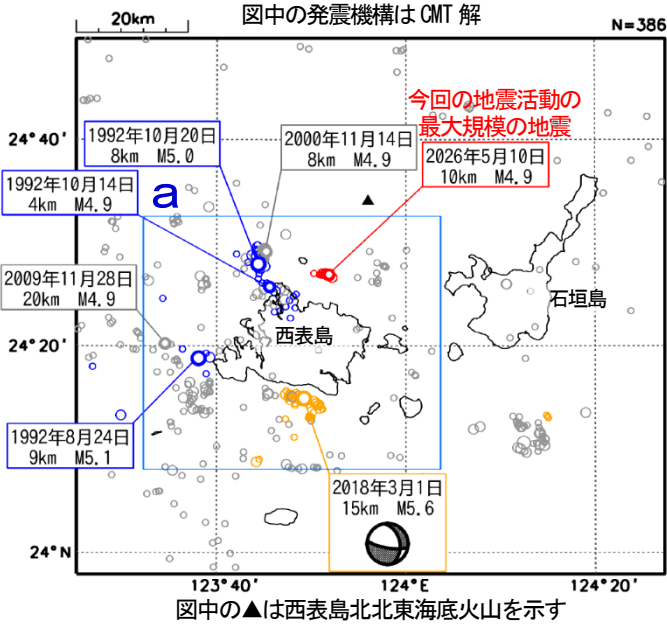
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

西表島付近の地震活動

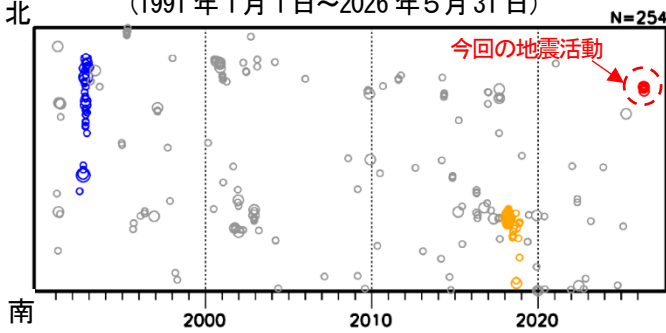
震央分布図

(1991年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 3.0$)

1992年の地震を青、
2018年2月28日から12月31日までを橙色、
2026年4月10日以降の地震を赤色、
その他の期間の地震を灰色で表示

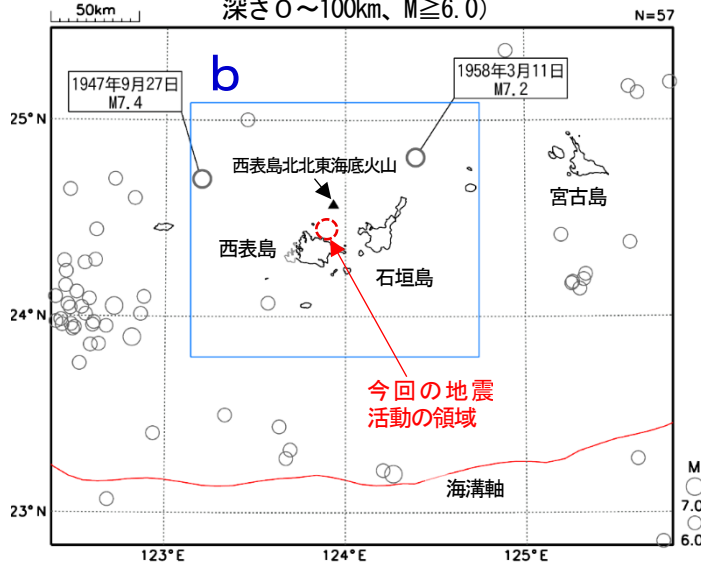


領域a内の時空間分布図 (南北投影)
(1991年1月1日～2026年5月31日)



震央分布図

(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

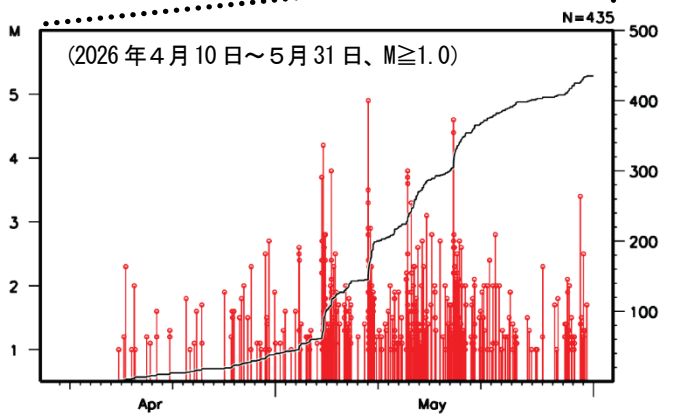
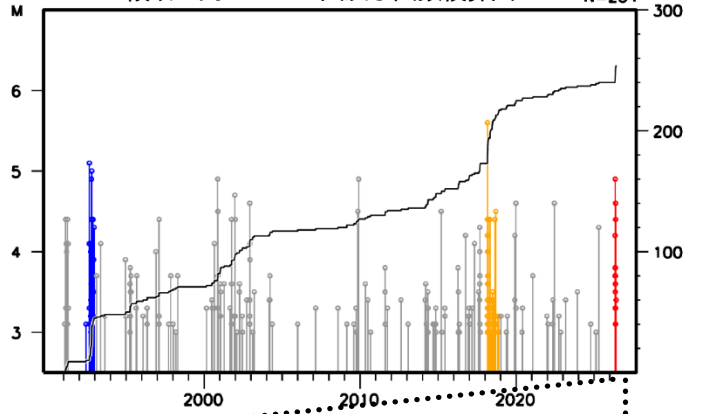


西表島付近では、2026年4月中旬から地震活動がみられ、5月5日から5月31日までに震度1以上を観測する地震が17回 (震度3: 2回、震度2: 7回、震度1: 8回) 発生した。このうち最大規模の地震は、10日01時18分に発生したM4.9の地震 (最大震度3) であった。これらの地震は陸のプレートの地殻内で発生した。

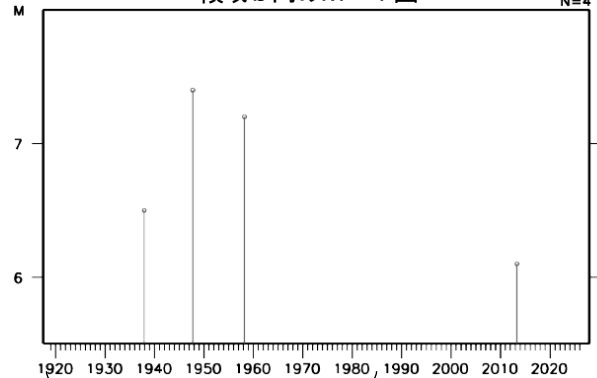
1991年以降の活動をみると、今回の地震活動の周辺 (領域a) では、M5程度を最大規模とする地震活動が時々発生している。このうち1992年の活動では、落石や壁の亀裂等の被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震活動の震央周辺 (領域b) では、1947年9月27日にM7.4の地震 (最大震度5) が発生し、西表島で死者4人、石垣島で死者1人の被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



この期間は地震の検知能力が低い

6月8日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

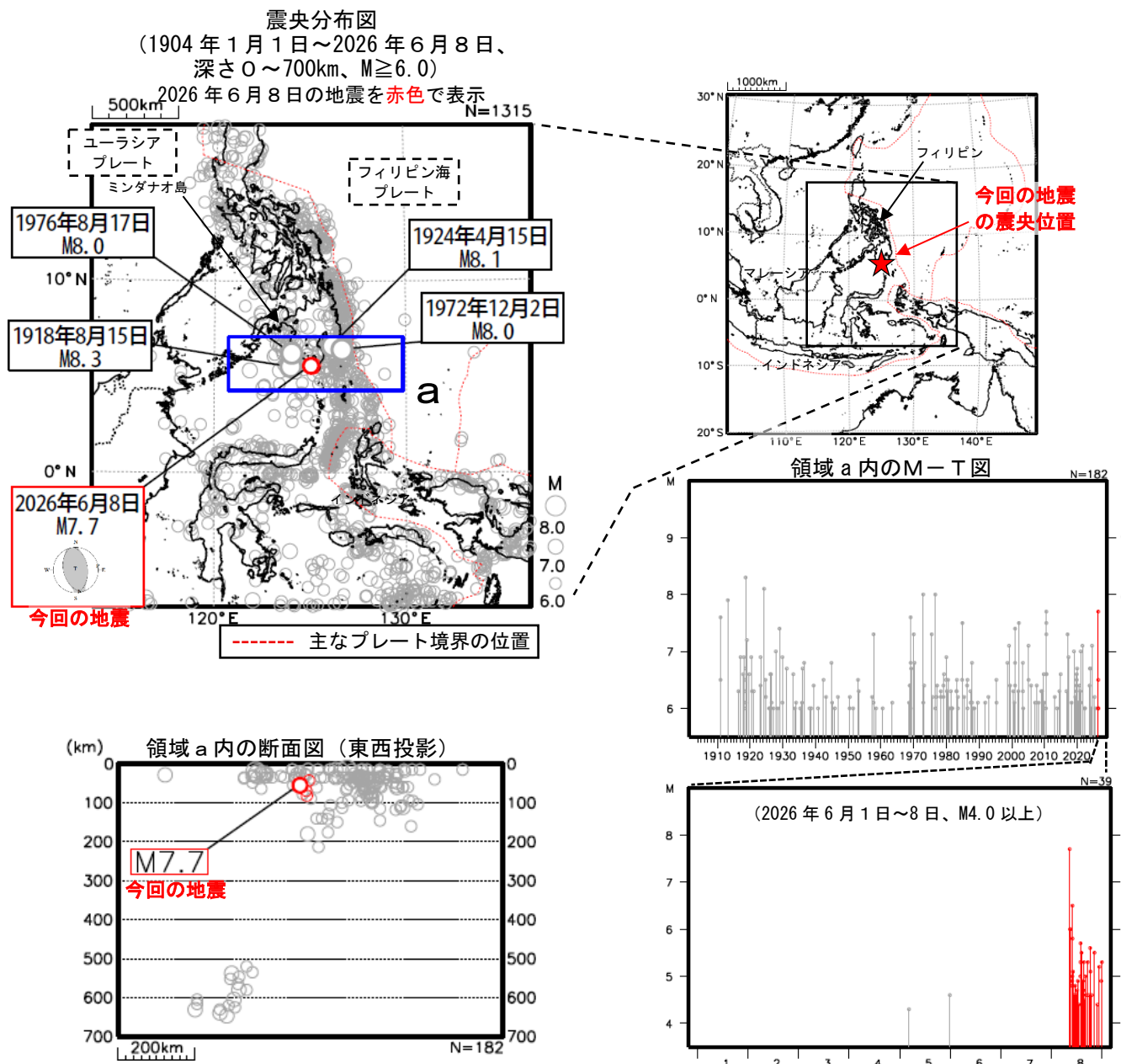
2026年6月8日08時37分（日本時間、以下同じ）にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ55kmでMw7.7の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

気象庁はこの地震に伴い、8日09時05分に茨城県から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島に津波注意報を発表した（8日16時50分に解除）。また、気象庁は8日09時06分、10時58分及び12時08分に遠地地震に関する情報を、8日09時03分、09時22分、10時52分、14時34分に北西太平洋津波情報を発表した。

この地震により、小笠原諸島の父島二見で0.2m（速報値）など、三重県から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び父島で津波を観測した。

この地震により、フィリピンで死者19人、負傷者129人の被害が生じた（2026年6月8日現在）。また、フィリピンのミンダナオ島で1.48mなどの津波（フィリピン火山地震研究所による）を観測した。

この地震の震央周辺（領域a）では1976年8月17日にM8.0の地震が発生し、死者、行方不明者8千人以上の被害が生じ（被害は「日本被害津波総覧（第2版）」による）、日本国内では串本で12cmなど、千葉県から四国にかけての太平洋沿岸及び父島、石垣島で津波を観測した。



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12 (1904-2021)、2021年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2026年6月9日現在)。ただし、吹き出しをつけた地震のMはMw、今回の地震の発震機構及びMwは気象庁による。海外の津波の高さはフィリピン火山地震研究所による (2026年6月8日現在)。地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所、2026年6月8日現在) による。プレート境界の位置は Bird (2003)*1 より引用。
 *1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

津波観測値（速報値）

津波観測値（速報値）のとりまとめ結果を掲載します。

「暫定値」を取りまとめるまでの間、掲載しています。

令和8年6月8日 8時37分のフィリピン諸島、ミンダナオの地震（津波観測状況）

津波観測値（速報）

津波予報区	観測点	第一波	最大波	
		到達時刻	発現時刻	高さ(m)
伊豆諸島	海) 三宅島阿古	識別不能	8日 14時 58分	0.1
小笠原諸島	父島二見	識別不能	8日 17時 25分	0.2
三重県南部	尾鷲	識別不能	8日 17時 22分	0.1
三重県南部	熊野市遊木	識別不能	8日 16時 16分	0.1
和歌山県	那智勝浦町浦神	識別不能	8日 13時 31分	微弱
和歌山県	串本町袋港	識別不能	8日 16時 57分	0.2
徳島県	徳島由岐	識別不能	8日 18時 12分	0.1
高知県	高知	識別不能	8日 18時 09分	0.1
宮崎県	日南市油津	識別不能	8日 17時 26分	0.1
宮崎県	港) 宮崎港	識別不能	8日 16時 48分	0.2
種子島・屋久島地方	種子島熊野	識別不能	8日 15時 49分	0.2
奄美群島・トカラ列島	奄美市小湊	識別不能	8日 16時 31分	0.1
沖縄本島地方	内) 沖縄市中城湾港	識別不能	8日 15時 51分	0.1
宮古島・八重山地方	石垣島石垣港	識別不能	8日 13時 26分	微弱
宮古島・八重山地方	内) 宮古島平良	識別不能	8日 15時 02分	0.1

※ これらの読み取り値は今後の精査により変更することがある。

※ 港) は国土交通省港湾局、海) は海上保安庁、内) は内閣府、記載のないものは気象庁の観測点である。

確定値：各年の潮汐観測のデータ

<https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/gaikyo/nenindex.php>

暫定値：地震・火山月報（防災編）

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/index.html#monthly>